

I. 景気の現状に対する判断理由等

景気の現状に対する判断の理由及びそれに対する追加説明等について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (北海道)	◎	観光名所（従業員）	来客数の動き	・3月としては、過去最高の利用者数が見込まれる。インバウンドがますます勢いを増しており、国内観光客も若者から年配者まで幅広い世代による利用がみられ、悪天候の日以外は大盛況が続いている。また、例年と比べて、悪天候の日が非常に少ないこともプラスとなっている。
	○	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数、買上点数が回復している。加熱式たばこの値上げ前の駆け込み需要がみられたこともプラスであった。
	○	衣料品専門店（エリア担当）	来客数の動き	・客が欲しいと考える人気商品やトレンド商品を店頭で並べるとよく売れており、ロコミで更に客が来店するという動きもみられる。身の回りの景況感、全体的な景気の良さによって影響される部分があるものの、客が必要としている商品があるかどうかで、上向きにも下向きにもなる。
	○	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・今年は雪解けが早かったため、春先需要がかなり伸びている。報道などで自動車メーカーのネガティブな話題が出ていたものの、3月一杯で終了する低金利施策が多く、駆け込み需要がみられたことがプラスとなった。
	○	自動車備品販売店（店長）	販売量の動き	・雪解けが早く進んでいることで、例年よりも2週間ほど早く、夏タイヤが売れ始めている。タイヤの売上は前年比115%、来客数は前年比105%といずれも伸びている。
	○	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・前月までは悪天候の日が多かったが、3月に入り、天候の良い日が増えている。雪解けも早く進んでおり、それに伴って客足も回復し始めている。当店の客層が、高齢者中心であることを改めて実感している。
	○	通信会社（企画担当）	お客様の様子	・都市部を中心に、大型商業施設などでのイベント開催が増えたことで、客が外出する機会が増えており、それに伴って、店舗への来客数や問合せが好調に推移している。一方、北海道全体で見ると、物価の上昇、光熱費の負担増の影響もあって、出費に慎重な客が増えている。必要なサービスは利用しつつも、料金や内容を細かく確認する動きが目立つようになっている。消費意欲は緩やかに持ち直しているものの、客による選別が進んでいることがうかがえる。
	○	美容室（経営者）	販売量の動き	・売上が回復していることから、景気はやや良くなっている。
	○	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・車両での利用が増加している。特に、水産物の輸送を行っている車両の増加が目立っている。
	□	商店街（代表者）	お客様の様子	・物価の上昇が続いていることで、質の良い商品や価値のある商品など客が欲しいと思う商品については、値段が上がる前に、早めにお買おうという雰囲気がみられ始めている。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・この時期は歓送迎会などの宴会が多く、夜間にはにぎわいがみられる。一方、昼間の人通りは少ないままである。
□	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・3月はコンサートなどのイベントがあったことから、多くの客が北海道を訪れ、当店の売上にもプラスの効果がみられた。ただし、こうしたイベントの影響を除くと、景気は弱含んで推移している。日常生活における様々な物の値上げに加え、中東情勢の影響による心理的な抑制などもあって、旅行に対する客の意欲がやや落ち込んでいる。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	□	一般小売店 [酒] (経営者)	販売量の動き	・客単価に変化はみられないものの、販売量に伸びがみられないことから、景気は変わらない。
	□	百貨店 (販売促進担当)	来客数の動き	・中国からのインバウンドが減少しているものの、その他の国や地域からのインバウンドは着実に増えている。一方、道内客の来客数や購入額は減少している。景気は3か月前と変わっておらず、しばらくは同様の傾向が続くと見込まれる。
	□	スーパー (店長)	来客数の動き	・春休みに入り、衣料部門、住宅余暇部門では、社会行事や学校行事の関連商材が好調に売れている。一方、食品部門の動向は横ばいである。客の様子をみると、必要な物は買うものの、その分他の支出を抑えていることがうかがえる。
	□	スーパー (従業員)	単価の動き	・物価の上昇が続いていることから、景気は変わらない。
	□	乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・新車受注の動きが鈍く、整備工場への在庫数も伸び悩んでいる。売上、利益共に、厳しい状況にある。
	□	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・引き続き新型車の販売台数に限りがあることから、欲しい客全員に提供できない状況にある。車両取得時の環境性能割が3月で廃止されることもマイナスとなっており、目標の販売台数に届かない状況が続いている。
	□	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・新車、中古車の受注状況は、3か月前と比べて余り変わっていない。前年との比較でも、ほぼ同じような水準となっている。一方、車両取得時の環境性能割が4月から廃止されることで、車両登録や納車が4月にずれ込むケースが生じており、売上に多少の影響がみられた。
	□	住関連専門店 (役員)	販売量の動き	・3か月前と比べて、売上の前年比に変化がみられないことから、景気は良くも悪くもなっていない。
	□	その他専門店 [造花] (店長)	お客様の様子	・客の買い控えが続いていることから、景気は変わらない。
	□	高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・3月は、有名企業の送別会など新規客の利用が多く、前年を上回る売上が見込まれる。地元のなじみ客による利用は、高齢化が進んでいることに加え、物価高の影響もあって減少している。また、先日開催された高校の同期会の様子を見ると、同期生の多くが自身の健康不安や親の介護などで出席できない状況であった。外食の利用が活発な人は、金や時間に余裕のある元気な人だけであることがうかがえる。
	□	観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・冬季観光シーズンが終了に近づいているものの、台湾を中心としたインバウンドが堅調に推移した。国内客についても、それほど落ち込みがみられなかった。
	□	旅行代理店 (従業員)	来客数の動き	・来客数の減少が続いている。ただし、減少幅に大きな変化はみられないことから、景気は横ばいで推移している。
	□	旅行代理店 (従業員)	販売量の動き	・特に大きな行事やイベントもなく、販売量を大きく押し上げるような要因はみられなかった。全体の販売量は、大きな増減もみられず、前年並みで推移している。
	□	タクシー運転手	販売量の動き	・今年は雪解けが早かったことから、タクシー需要が低下しており、当初の見込みほどの売上とはならなかった。
	□	住宅販売会社 (経営者)	販売量の動き	・前月に引き続き、一般住宅の着工が少なく、非常に厳しい状況となっている。
	□	住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・金利の上昇や建築単価の高止まりが解消する見込みがないことから、厳しい状況が続いている。
	▲	商店街 (代表者)	単価の動き	・今年は雪解けが早かったことから、客の来店動向は順調に推移した。一方、原材料や資材などの価格高騰により、様々な商品が値上げラッシュとなっている。特に、北海道銘菓の多くを占めるチョコレート菓子については、カカオマスの原料不足を背景に、値上げが相次いでいる。販売価格と客の買い求めやすい価格にずれが生じていることで、販売量に落ち込みがみられ始めている。こうした状況はすぐには解消されないことから、今後の動向が懸念される。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	▲	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・原油価格の高騰により、先行きへの不透明感が強まっていることから、客の購買頻度や買上単価に影響が出始めている。
	▲	スーパー（店長）	お客様の様子	・中東情勢の影響で、景気はやや悪くなっている。
	▲	スーパー（店長）	販売量の動き	・商品の価格高騰が続いていることから、景気はやや悪くなっている。
	▲	スーパー（企画担当）	単価の動き	・今年の春は、前年と比べると値上げ品目が少なく、値上げ幅もそれほど大きくないものの、エネルギーコストが上昇していることもあって、客単価に伸びがみられない状況となっている。来客数が前年並みで推移している一方で、客の購入量が減っており、景気はやや悪くなっている。
	▲	スーパー（役員）	販売量の動き	・ガソリンの値上げが行われてから、急に客の買物金額が減っている。客の節約志向が強まっていることがうかがえる。
	▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・3月に入りインバウンドが減少していることで、来客数及び売上が減少している。ガソリン価格高騰の影響で、客の来店頻度も低下している。
	▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・中東情勢の影響で原油価格が高騰し、今後の一層の物価上昇が懸念されることから、客の来店頻度が低下しており、無駄な物をできるだけ買わないようにしている。また、より安い物を買うため、ディスカウントストアにシフトしている傾向もうかがえる。
	▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・ガソリンの値上げが進み、国からの補助金が交付されているにもかかわらず、170円前後まで上昇していることから、週末の客の動きが余り良くない。こうした状況がしばらく続きそうなこともマイナスである。
	▲	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・物価高騰を背景とした客の買い控えが続いているなか、金利の上昇、ガソリン価格の高騰により、先行きへの不透明感が強まっている。客が高額商品の購買を控えるようになっており、景気はやや悪くなっている。
	▲	スナック（経営者）	来客数の動き	・3月に入り、歓送迎会などは行われているものの、夜型飲食店への客足はやや少なくなっている。
	▲	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・現在は冬季観光のシーズンがほぼ終了し、北海道観光をけん引しているインバウンド需要の端境期となっている。また、国内客についても、物価高騰の影響により、支出を抑制する傾向が強まっており、国内線利用者の動きが鈍化している。
	▲	旅行代理店（従業員）	それ以外	・中東情勢の影響により、原油価格が高騰していることで、航空運賃が上がり、それに伴って旅行代金が増えることを懸念している客が増えている。営業先において、海外旅行のみならず、国内旅行も敬遠されるという話を聞く機会が増えている。
	▲	タクシー運転手	来客数の動き	・3月に入ってから、暖かい日が多く、例年より雪解けが早かったことから、雪の多かった2月までと比べると、タクシーの利用客が大きく減っている。また、前年12月から適用された冬季割増運賃が3月27日で終了することもマイナスである。前年と比べると、冬季の運賃は約10%の値上げとなっているものの、稼働しているタクシー1台当たりの売上は前年を下回った。
	▲	タクシー運転手	販売量の動き	・タクシー運賃の改定により、冬季割増運賃を設定した初めてのシーズンであり、前月までは好調に推移したものの、3月に入り暖かい日が増えてきたことで、景気はやや悪くなっている。一方、運賃の改定に対して、客から否定的な意見は全くみられず、肯定的な意見が多かったことから、値上げに対する客の許容度が上がっていることがうかがえる。
	▲	タクシー運転手	来客数の動き	・物価高騰の影響で、人の動きが鈍くなっていることから、景気はやや悪くなっている。
	▲	タクシー運転手	来客数の動き	・雪解けが進み、路面状況が良くなったことから、タクシーの利用者数が減少傾向にある。
	▲	美容室（経営者）	来客数の動き	・3月中旬から灯油代が大きく値上がりしたことで、客が支出を控える傾向がみられ始めている。当店の来客数も、月後半になってから減少している。北海道は灯油の使用量が多い地域であることから、影響が顕著に現れているとみられる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	▲	美容室（経営者）	お客様の様子	・客の来店頻度が低下している。
	▲	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームを来訪する客の購買意欲は全体的に低下している。ただし、一部の客はよく検討したうえで、相対的に価格の安い完成物件を購入している。
	×	一般小売店（経営者）	来客数の動き	・中東情勢の影響で、景気が急激に悪化している。
	×	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・新生活需要の高まる時期を迎えているものの、価格を気にする客がとて増えており、購入に至らないケースが多くみられる。
	×	その他専門店 [ガソリンスタンド]（経営者）	単価の動き	・中東情勢の影響により、原油価格の高騰がマイナス要因となっている。石油製品の仕入価格が、公表されている以上に上昇しており、利益が圧迫されている。
	×	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・観光の閑散期となり、中国からのインバウンドもほとんどみられないことから、来客数は大きく減少している。それに伴って、当社の業績も悪化している。
	×	高級レストラン（スタッフ）	競争相手の様子	・3か月前と比べると、景気は悪くなっている。ただし、地域全体の景気については、他社の状況を踏まえたうえで、判断したい。
企業 動向 関連 (北海道)	◎	—	—	—
	○	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・雪解けが一気に進んだことで、現場作業や移動時間の効率が改善している。年度内工事は全て順調に完工しており、見込みを上回る追加工事が利益を押し上げている。完工高、利益共に、前年度を上回る好調な決算が見込まれる。
	○	通信業（営業担当）	取引先の様子	・北海道に進出してきた半導体関連企業の計画が順調に進んでいることがプラス要因となっている。
	○	広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・当社の売上は順調に推移している。
	○	その他サービス業 [建設機械リース]（営業担当）	取引先の様子	・中東情勢の影響による不確実性は増しているものの、国内建設投資は、公共投資も民間設備投資も堅調に推移している。
	□	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・青果物の収穫量が全体的に不足している状況は継続しているものの、景気は徐々に良くなっている。
	□	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3月に入ってから、好調に推移しているものの、人気アイドルグループのコンサート開催による恩恵も大きいことから、一概に安心できる状況とはいえない。
	□	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・案件はあるものの、人材不足で受注できないケースが多いことから、景気にブレーキが掛かっている。
	□	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・3月上旬までの悪天候の影響で、作業が遅延したことで、月全体の売上にもマイナスの影響が生じている。一方、乳製品関連については、牛乳の消費が伸び悩むなか、倉庫保管量が積み上がっている。トレーラー輸送は、年度末需要もあって、雑貨に動きが出ている。
	□	コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・取引先の様子をみると、給与アップが着実に進んでいるものの、全体的にみると、物価の上昇スピードに追いついていない企業が多いことから、景気は変わらない。
	□	その他非製造業 [鋼材卸売]（従業員）	受注量や販売量の動き	・新年度を控えているものの、スタートの動きが余り良くない。中東情勢の影響により、様々な製品において、原材料などが入手困難になっており、それを理由とした出荷制限なども行われている。価格も上昇しており、以前のように、製品を購入することが難しい状況となっている。
	▲	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・価格改定を行ったところ、受注量が減り、売上も減っている。
	▲	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3月の販売量は前年比11%減少した。3か月前の販売量は前年比8%減少したことから、景気はやや悪くなっている。
	▲	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・中東情勢の影響が出始めていることで、景気はやや悪くなっている。
▲	金属製品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・出荷量が減少している。3年前と比較すると半減している。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	▲	建設業（経営者）	取引先の様子	・燃料価格が上昇しているなか、価格が高騰する資材もみられ始めている。全てを価格転嫁できるか不透明なこと不安材料となっている。
	▲	輸送業（支店長）	受注価格や販売価格の動き	・例年よりも雪解けが早く進んでいるものの、荷動きは今一つである。燃料価格が高騰していることもあって、取引先の動きが慎重になっている。
	▲	金融業（従業員）	取引先の様子	・販売価格や受注価格を引き上げている企業の割合が徐々に低下している。一方、販売量が減少している企業の割合が徐々に増加している。企業においては、人件費、諸経費の増加が続いていることで、収益が圧迫されており、景況感はやや悪くなっている。
	▲	司法書士	受注量や販売量の動き	・受注量が減少傾向にあること、物価が上がり続けていることから、景気はやや悪くなっている。国による物価対策などの効果が出てくることを期待したい。
	▲	司法書士	受注量や販売量の動き	・例年と比較して、売上は悪くないものの、3か月前と比べると落ち込んでいる。
	▲	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・周りの企業から、3月を迎えて終了する仕事が多いなか、新しい仕事が決まらないという話を聞くことが多い。人余りが発生している状況にある。
	×	—	—	—
雇用 関連 (北海道)	◎	—	—	—
	○	人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・企業の求人は引き続き堅調に推移している。企業との採用面接数が3か月前の約2倍となっていることから、企業は採用活動に積極的であり、業況が良くなっている様子がうかがえる。4月になり、新卒が入社したとしても、即戦力人材の採用は、今後も増える見込まれる。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・季節要因を除くと、3か月前と比べて、求人数に大きな変化はみられない。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	求職者数の動き	・採用環境に大きな変化はみられず、求人数は横ばいで推移している。新卒採用の難しさが続くなか、一部では中途採用にシフトする動きもみられるものの、全体としては力強さに欠ける状況が続いている。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は5か月連続で前年を下回っているものの、求人数の減少幅は縮小している。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・当地における2月の有効求人倍率は0.79倍であり、前年を0.04ポイント下回り、7か月連続で前年を下回った。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・企業において、積極的な採用活動が続いている。求職者についても、年度末を迎え、動きが活発になっている。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・人手不足が慢性的な業界が多いことから、特に変化はみられない。
	▲	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数が、長期にわたって減少している傾向に変化はみられない。ただし、求人広告や他の媒体での採用経路が増えていることが要因であり、景気の悪化によるものではないと考えられる。一方、物価高が続くなか、原油の供給体制に不安が生じていることから、多くの業種で先行きを懸念する話を聞く。
×	求人情報誌製作会社（編集者）	雇用形態の様子	・先行きへの不透明感が強まっていることで、企業の採用活動にも影響がみられ始めている。業種にかかわらず、採用を厳選する傾向がみられており、採用数もかなり少なくなっている。	

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (東北)	◎	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・来客数は3か月前比120%と伸びている。
	◎	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・今月もせり鍋目当ての県外客が多い。地元客だけでなく県外客が多いため、売上も良い。
	◎	観光名所（職員）	来客数の動き	・来客数は日本人客、インバウンド共に増加している。鉄道会社の特別企画乗車券の影響も非常に大きい。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	○	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・3月は花粉症の薬の販売が好調で、売上が伸びている。
	○	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	単価の動き	・物価高の影響もあって客単価が良いため、売上は前年比110%となっている。好天が続いたことから客足は良いものの、前年比では余り変わらない。
	○	一般小売店〔茶〕（経営者）	お客様の様子	・冬の間は景気が悪くなりがちだが、春に向かうにつれ上向きの雰囲気が出てきている。
	○	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	お客様の様子	・新年度を控え、必要な物には投資を惜しまない雰囲気がある。
	○	百貨店（経営者）	販売量の動き	・従来春の返礼ギフトは全体的に縮小している。少子高齢化やホワイトデー消費の変化などマーケット全体のギフトの価値観が変わっている。一方で、寒い日が続くなか、春の衣料品はようやく活発に動き始めた。
	○	百貨店（経営者）	来客数の動き	・物価高の影響はあるものの来客数が大きく伸長している。また、高額品の買上も順調であり2極化が進んでいる。
	○	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・当地域では商品券が配付され、それで買物をする人が多くなっているため、売上が増加している。
	○	コンビニ（店長）	来客数の動き	・物価高によるコンビニ離れを感じていたが、暖かくなったためか、来客数が1割弱増加している。
	○	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新型車が発売になり販売量が少しずつ伸びている。
	○	乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・物価高は続いているが、買換えに前向きな客が多い。
	○	その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症発生前の売上と比べるといまだ低い水準にあるものの、年度末に向けて受注が増加している。繁忙期であり、学校案件や新入学、新年度に向けた納入が重なっている。3月に受注が集中することは、有り難い反面、キャパシティを超えると負担感が強まる。
	○	都市型ホテル（支配人）	来客数の動き	・台湾、タイ、マレーシアからのインバウンドが増加している。
	□	商店街（代表者）	お客様の様子	・来街者数に大きな変化はないものの、急激な原油価格高騰の影響を受け、ガソリンを始め生活用品の値上げに歯止めがかからない。景気は小康状態である。
	□	百貨店（従業員）	お客様の様子	・来客数は微増傾向だが、全体的な売上に変化はない。新生活需要なども目的買いが主体となっており、節約志向は継続している。
	□	スーパー（経営者）	単価の動き	・3月の平均1品単価の上昇を前年比2%半ばまで抑えた。原価高の価格転嫁を進めて売価は上がったが、対策も講じたため前年割れが続いていた来客数は下げ止まっている。買上点数の前年割れは依然続いており、収益は前年と同じ推移である。客の消費抑制、節約志向は依然として強く、消費の動向は変わらない。
	□	スーパー（店長）	販売量の動き	・米の消費は低迷している。酒は前年の3月に値上げ前の特需があったものの売上は前年と変わらず、大健闘しているといえる。
	□	スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数は前年を辛うじて上回っている。
	□	スーパー（店長）	単価の動き	・米の単価は下がる一方で、ガソリン価格が値上がりしたため、特売品などより安い商品が売れる傾向にある。また、値引き商品を買求める客も増えている。
	□	スーパー（商品担当）	販売量の動き	・物価上昇による単価の上昇は続いているが、販売量は依然として伸びず、客単価は横ばいである。来客数も横ばいが続いていることから、景況感に変化はない。
	□	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・来客数、客単価共に前年比100%を超えているが、来客数の増加は本部施策によるもので、客単価の上昇は物価上昇によるものである。景気は変わらない。
	□	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・新入社員の制服や作業服等の注文があり、法人関連の売上は好調だが、店頭販売の売上は期待したほどではない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	□	衣料品専門店 (経営者)	単価の動き	・販売量は少し増えたものの客単価が低い。
	□	衣料品専門店 (店長)	販売量の動き	・入学需要は2～3月のトータルでは前年並みに推移しているが、一般ビジネスは苦戦している。
	□	家電量販店 (従業員)	単価の動き	・ガソリン価格が上がり、客に不安感がうかがえるものの、買換えや引越し需要は平年並みである。
	□	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・新車の配車は決算期ということもあり微増している。中古車は、需要はあるが相変わらず在庫不足である。
	□	住関連専門店 (経営者)	販売量の動き	・受注生産のため2～3か月先までの販売量はほぼ決まっている。しかし、中東情勢の影響により先行きが不透明になっており、現在は見積りを出しても決まらない状況にある。
	□	その他専門店 [靴] (経営者)	販売量の動き	・原油価格の高騰や商品値上げの影響により、購入を慎重に検討する様子がみられる。
	□	その他小売 [ショッピングセンター] (統括)	来客数の動き	・売上は前年比102%、来客数は同98%で、前年未達の状況は前年9月から継続中である。前年並みを維持していたフード業種も来客数同97%と減少傾向にある。物価高を背景に1品単価が上昇しており、複数点購入が伸び悩んでいる。
	□	高級レストラン (支配人)	来客数の動き	・外部要因と内部要因が重なり、来客数は厳しい状況が続いている。
	□	一般レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・来客数は前年比約97%で推移している。
	□	観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・来客数の推移は前年と同様である。
	□	観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・卒業旅行を目的とした学生の利用は若干あるが、全体的に来客数は少ない。
	□	観光型旅館 (経営者)	来客数の動き	・物価上昇による手控え感が多少みられる。
	□	観光型旅館 (スタッフ)	来客数の動き	・3か月前と比べて来客数が300人ほど多くなっているが、全体的な業績は変わらない。
	□	旅行代理店 (従業員)	販売量の動き	・販売量は前年同期比ほぼ100%で推移している。
	□	旅行代理店 (従業員)	販売量の動き	・販売量は前年同期比でほぼ変わらない。
	□	タクシー運転手	単価の動き	・通院客や買物客のほか、卒業式や職場の異動に伴う利用が多い。また、月末には高校生のスポーツ大会があるため利用者が多くなる。
	□	通信会社 (経営者)	お客様の様子	・ショッピングモールでイベントを開催し、加入促進キャンペーンを行った。来場者は前年より多かったが、新規加入者数は伸びなかった。既加入者の追加契約は若干伸びたが、転勤による解約者も多く、純増数は2～3か月前と同程度である。
	□	通信会社 (営業担当)	お客様の様子	・客の設備投資意欲に変化はみられない。
	□	通信会社 (営業担当)	それ以外	・緊急的激変緩和措置により、ガソリン価格が下がってきている。
	□	通信会社 (営業担当)	来客数の動き	・販売数量、受注見込み共に特に変化はない。
	□	観光名所 (職員)	来客数の動き	・ここ数か月、団体客の予約、振り客共に微増で変わらない。
	□	遊園地 (経営者)	来客数の動き	・新機種の導入や3連休があったものの、来客数は前年を少し上回る程度の見込みである。
	□	美容室 (経営者)	単価の動き	・施術工程や料金設定の見直しにより実質的に料金の値上げを行っているが、客単価は前年比では僅かな増加にとどまっている。むしろ必要最低限に抑える傾向がみられる。
	□	美容室 (経営者)	来客数の動き	・3月は卒業や異動の時期のため、当事者や関係者の来店が月を通して多くなっている。
	□	その他サービス [自動車整備業] (経営者)	販売量の動き	・最低賃金引上げや石油関連製品を始めとする各種価格の上昇により、仕入コストや経費が増加し、金利も上がっている。それでも、受注数及び販売額は好調な状態を維持している。なお、販売価格は4月に改定を予定している。
	□	設計事務所 (経営者)	お客様の様子	・業務の進捗に良くも悪くも変化がない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	□	その他住宅 [リフォーム] (従業員)	販売量の動き	・先送りになっていた工事の完了が増えたが、金額が大きい工事の受注は減っている。緊急性の高い水回り修繕や給湯器の交換は増えている。
	▲	商店街 (代表者)	販売量の動き	・年度末にもかかわらず売上が上がらない。
	▲	百貨店 (企画担当)	来客数の動き	・来客数は前年比96%、客単価は同105%である。ラグジュアリー商材の値上げによる影響と高額品の購入傾向があるインバウンドの増加により客単価は伸長したが、来客数は引き続き減少傾向である。
	▲	百貨店 (営業担当)	それ以外	・衣料品等の売上に降雪の影響が残っている。
	▲	スーパー (経営者)	それ以外	・中東情勢の不透明感を背景に、消費財の値上げが広がっている。節約志向の高まりによる客の買い控えが懸念される。
	▲	スーパー (店長)	販売量の動き	・ガソリン価格の高騰に伴い買上点数が減少している。前月比、前年比共に悪化している。
	▲	スーパー (店長)	販売量の動き	・買上点数が落ちている。
	▲	スーパー (店舗運営)	販売量の動き	・中東情勢の影響によるガソリン価格の高騰を機に、買い控えが発生している。
	▲	スーパー (業務担当)	お客様の様子	・中東情勢の影響により原油供給の先行きが見通せない。石油製品の値上がりにより、消費者は支出を抑制しており、必要な物しか購入しない傾向がみられる。
	▲	コンビニ (経営者)	来客数の動き	・来客数の増加が止まっている。また、商品が値上がり傾向にあるなか、客単価が低下している。
	▲	コンビニ (経営者)	それ以外	・除雪代の支払がまだ残っている。売上も上がらず、発注過多により赤字となっている。厳しい状況が続いており、改善される見込みもない。
	▲	コンビニ (経営者)	来客数の動き	・来客数はやや減少しているが、商品価格の上昇でカバーしている。販売量は横ばいである。こうした状況は6か月以上続いており、上振れる兆しはみられない。
	▲	コンビニ (エリア担当)	単価の動き	・単価上昇による売上増加の効果が薄れている。
	▲	コンビニ (エリア担当)	来客数の動き	・前月までは良かった来客数が減っている。ガソリンなど物価が上昇した影響とみている。
	▲	コンビニ (エリア担当)	来客数の動き	・前年に施策を強化した反動もあり、来客数は前年の水準に達するのが難しい状況である。
	▲	衣料品専門店 (経営者)	お客様の様子	・春物は動き出したが、売上の多くは一部の顧客によるものであり、客層の広がりが少ない。灯油やガソリンを始め、生活に直結するものの値上がりが消費にブレーキを掛けているとみている。
	▲	衣料品専門店 (店長)	お客様の様子	・原油価格の高騰と関連する商品の値上げが続くなか、目的買い以外のふだん着需要が不安定になっている。
	▲	衣料品専門店 (総務担当)	来客数の動き	・車での移動が不可欠な地方都市では、ガソリン価格の高騰による影響が大きい。中東情勢の先行きが見通せないなか、物価高が更に生活を圧迫すると予想され、消費マインドは低下している。
	▲	家電量販店 (従業員)	販売量の動き	・販売数量が全体的に減っており、やや悪い状況である。特にパソコン本体や周辺機器の生産に必要な半導体の不足により、生産の遅れやラインアップの縮小が生じ、販売数量に大きな影響が出ている。売上、販売量共に前年比約80%にとどまっており、新生活の始まりとともにパソコン需要が最も高まる時期にもかかわらず売れる商品がないため、実績が上がらない。
	▲	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・繁忙期だが、ガソリン価格など各種物価の上昇により買い控えがみられ、販売量は想定を下回っている。
	▲	乗用車販売店 (店長)	販売量の動き	・中東情勢の影響によりガソリン価格が高騰しており、買い控えの動きが見え始めている。新車部門では特にガソリン車の売行きが今月に入ってかなり悪化しており、買換えを先延ばしにするという声も聞く。
	▲	住関連専門店 (インテリアコーディネーター)	単価の動き	・物価上昇が続いており、建築業界でも資材価格が上がる一方である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	▲	その他専門店 [ガソリンスタンド] (営業担当)	単価の動き	・中東情勢の影響により販売価格が高騰した後、緊急的激変緩和措置によって価格が下落するなど大幅な価格変動があったことから、販売量は減少している。さらに、石油製品の今後の供給不安が広がり、元売りによる出荷規制も始まっている。
	▲	一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・3月は卒業式などもあり来客数が多くなる時期だが、今年はそれも少ない。来客数が伸び悩んでいる状況が続いている。
	▲	一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・3月は歓送迎会などがあり来客数も多少は多かったが、4～5月の宴会の予約数は少ない。
	▲	都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・日中関係や中東情勢の影響を受け、来客数は減少している。経済の先行きに不透明感があり、旅行を控える客が多くなっている。
	▲	通信会社 (営業担当)	お客様の様子	・原油価格高騰による値上げラッシュへの懸念から、設備投資を手控える雰囲気がかかっている。
	▲	テーマパーク (職員)	来客数の動き	・来客数は目標値に対し、3か月前は108%だったが、今月は106.1%と下向いている。
	▲	観光名所 (職員)	来客数の動き	・観光客数が激しく落ち込んでいる。3か月前から更に悪くなっている。
	▲	ゴルフ場 (支配人)	来客数の動き	・物価の上昇に対し賃上げが追い付いていない。消費マインドの後退が懸念される。
	▲	競艇場 (職員)	単価の動き	・来客数に大きな変化はないが、客単価は大きく低下している。
	▲	美容室 (経営者)	来客数の動き	・客は常連客のみであり、一定のサイクルで来店するため、今月は来客数が少ない。
	▲	その他サービス [寮管理] (管理人)	お客様の様子	・中東情勢の影響により、ガソリン価格の高騰などエネルギー関連の不安定化が進み、景気が後退している。中小企業の倒産件数は減少しているものの、潜在的赤字企業は増えている。
	×	一般小売店 [医薬品] (経営者)	来客数の動き	・来客数の減少が著しい。緩下剤のようなコンスタントな需要があるはずの医薬品ですら売れなくなっている。医薬品を含め当店で扱う商品のほとんどはネットでも売られており、価格もとても太刀打ちできないようなレベルになっている。不景気の影響だけでなく、ネット通販が全世代を通して本格的に普及してきた結果かもしれない。
	×	一般小売店 [酒] (経営者)	販売量の動き	・中東情勢の緊迫化により原油価格が上昇するなか、ガソリン価格の高騰や物価高に対する報道により、消費マインドは冷え込んでいる。嗜好品である酒への支出抑制や外食など遊興費の節約が顕著にみられ、販売量が減少している。
	×	スーパー (経営者)	お客様の様子	・中東情勢の影響による原油価格高騰に伴い、ガソリンを始め物価が上昇しており、買い控えが発生している。
	×	衣料品専門店 (店長)	来客数の動き	・3月は卒業、入学、転勤などで業界の繁忙期だが、今年は春の衣替えや転勤の話が少ない。また、メインの高校を卒業して進学する人のスーツ需要も少なく、苦戦している。
	×	その他専門店 [酒] (経営者)	単価の動き	・中東情勢の影響により物価が上昇している。生活必需品や食品、雑貨の購入が優先され、嗜好品は動かなくなっている。
	×	一般レストラン (経営者)	お客様の様子	・中東情勢の影響もあるのか、振り客が更に減少しており、特に夜は予約客しかいない。単価の低い居酒屋部門でも平日の客足は鈍い。和食部門では冠婚葬祭や組合・団体による利用状況は悪くないが、法人関連の動きは悪い。全体的に消費マインドは低調で、景気は悪い。
企業 動向 関連 (東北)	◎	—	—	—
	○	輸送用機械器具 製造業 (経営者)	取引先の様子	・一部事業の良い動きが継続している。他事業の動きも良くなっており、受注売上の良い影響が出ている。
	□	農林水産業 (従業者)	受注価格や販売価格の動き	・原油価格高騰の影響は今のところなく、客足にも影響はない。
	□	食料品製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・鉄道会社の特別企画乗車券の利用期間中は土産品の動きが良かった。期間終了後は動きが落ち込んでいるものの、前年の売上はクリアできそうである。
	□	食料品製造業 (営業担当)	受注量や販売量の動き	・販売量の前年割れが続いており、悪い状況は変わらない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	□	出版・印刷・同 関連産業（経営 者）	受注量や販売量 の動き	・自治体の周年事業関連や観光振興キャンペーンなど 4月から大型プロジェクトが本格化する。肌感覚では 受注も上向きである。しかし、適正価格での受注には あと一歩届かない状況にある。
	□	金属製品製造業 （経営者）	受注量や販売量 の動き	・年度末の在庫調整による減産はここ3か月かけての 調整だったので、特に変化はない。
	□	一般機械器具製 造業（経営者）	取引先の様子	・半導体関連は比較的好調だが、他の業種は余り動き がなく、景気に変化はない。
	□	電気機械器具製 造業（総務担 当）	取引先の様子	・海外情勢と世界経済が不安定ななか、動くに動けな いといった慎重な様子である。
	□	建設業（従業 員）	受注量や販売量 の動き	・資材価格の高騰が懸念材料である。3月までの仕入 れ分はそれほど影響はないが、4月以降は価格の上昇 が見込まれている。
	□	建設業（従業 員）	受注量や販売量 の動き	・受注が好調な状況が続いている。これ以上は過剰受 注になるため、状況は変わらない。
	□	通信業（営業担 当）	取引先の様子	・顧客からの価格引下げ要請が強く、厳しい状況であ る。
	□	金融業（広報担 当）	取引先の様子	・物価上昇の影響により住宅着工件数が減少し、住宅 ローンの申込件数の減少も続いている。一方、インバ ウンドが好調のため、宿泊・飲食業等のサービス業は 好調である。地域の個人消費は総じて底堅い状況にあ る。
	□	広告業協会（役 員）	受注量や販売量 の動き	・経済予測が難しい状況下で、年度末の予算消化の駆 け込み広告出稿は減少傾向にある。広告業界として は、3か月前と比べて大きな変化はない。
	□	広告代理店（経 営者）	取引先の様子	・今のところ、取引先において、来期の予算が大きく 増えるところも大きく減るところもないと聞いている。 。
	□	公認会計士	取引先の様子	・顧客の月次、決算状況から判断している。小売業、 サービス業は好調を維持しているが、製造業、建設業 関係は業種によって景気が悪い顧客が出ている。全体 としての景気は、製造業や建設業の業績悪化がマイナ スに働いて、やや悪い印象を受ける。
	□	コピーサービス 業（従業員）	受注量や販売量 の動き	・受注量は前年とほぼ変わらない。
	▲	農林水産業（従 業者）	それ以外	・燃料価格の上昇により、生産コストが上昇してい る。
	▲	食料品製造業 （製造担当）	受注価格や販売 価格の動き	・イベントの開催や鉄道会社の特別企画乗車券の効果 で駅周辺の集客は高まり、飲食や土産品の需要も伸び ている。一方で、平日と土日祝日の差が大きく、平 日の地元客の集客策が必要である。
	▲	出版・印刷・同 関連産業（経営 者）	受注量や販売量 の動き	・繁忙月にもかかわらず印刷の発注量が減少してい る。売上は前年を下回っている。
	▲	電気機械器具製 造業（総務担 当）	受注量や販売量 の動き	・パソコンの組立てがメインだが、メモリの入手不足 が続き、生産量が減少している。
	▲	建設業（従業 員）	受注量や販売量 の動き	・年度末だが、金額交渉の長期化もあいまって目立 った受注契約がない。
	▲	輸送業（営業担 当）	受注価格や販売 価格の動き	・世界情勢の悪化や燃料価格の高騰により、景気が悪 くなっている。
	▲	不動産業（従業 員）	それ以外	・新築マンションの成約率が低下しており、中古マン ションの動きが鈍くなっている。
	▲	経営コンサル タント	それ以外	・中東情勢の影響により、ガソリン価格の高騰を始め もろもろの環境が悪化しており、消費者の買い控えが 一気に進んでいる。
	▲	その他企業〔企 画業〕（経営 者）	それ以外	・ガソリン価格高騰の影響か、当地の観光施設を訪れ る人の数が目に見えて少なくなっている。灯油も値上 がり前と比べて価格が1.5倍となった週もあり、買い 控えが発生している。
	▲	その他企業〔協 同組合〕（職 員）	取引先の様子	・原油価格の高騰や不安定さから、原料、資材等の価 格上昇や入手の困難があり、先行きに懸念を抱いてい る。また、人件費増加により、販売拡大や設備投資に 前向きに取り組む意欲が高まりにくい状況が見られ る。
	×	窯業・土石製品 製造業（職員）	受注量や販売量 の動き	・官需、民需共に発注工事が低調で需要が落ち込んで おり、厳しい状況である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・中東情勢の緊迫化に伴う原油価格の高騰により、燃料価格が急激に上昇し、収益を大きく圧迫している。
	×	その他非製造業 〔食料品卸売業〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・前年は4月に価格改定があり、3月は価格改定前の駆け込み需要が大きかった。その反動が出ている。
雇用 関連 (東北)	◎	—	—	—
	○	—	—	—
	□	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・求職者数が前年比ではマイナス傾向にある。ただし、同業の広告出稿強化の影響の可能性が高い。
	□	新聞社〔求人広告〕（担当者）	採用者数の動き	・県内では最低賃金以上を出せる企業は多くないようで、人材確保に苦労している様子がうかがえる。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求人倍率は前年比では低下しているものの、ここ数か月は横ばいが続いている。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年同期比で横ばいとなっている。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年同月比で増加しているが、直近3か月はほぼ横ばいで推移している。
	□	学校〔専門学校〕	求人数の動き	・専門学校に来る求人数は例年並みである。
	□	その他雇用の動向を把握できる者	周辺企業の様子	・原材料価格と人件費の高騰により、中小零細企業の廃業が発生している。今後は重油価格の高騰による更なる悪影響が懸念される。
	▲	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・中東情勢への不安感から、物流関係を中心に採用活動を控える企業が出てきている。特に、原油価格高騰のダメージを受けやすい業種からは、今後の採用を控えるという声を聞く。
	▲	人材派遣会社（社員）	それ以外	・中東情勢により原油価格が高騰しており、その影響が出ていると感じる。
	▲	求人情報誌制作会社（経営者）	周辺企業の様子	・石油関連を中心とした原材料価格の高騰を受け、値上げせざるを得ない企業が増えている。一方で、値上げの影響により売上が伸び悩む企業も多い印象を受ける。
×	アウトソーシング企業（経営者）	それ以外	・原油価格の高騰により、経費負担が増加している。	

3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（—：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北関東)	◎	—	—	—
	○	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・値上げの影響が1番大きいですが、特段インバウンドの影響もなく、来客数は伸びている。
	○	旅行代理店（所長）	来客数の動き	・世界情勢は混んとしているものの、インバウンドについては影響は最小限で、当地は世界各地からの来訪者でにぎわっている。一方、国内需要は今は卒業旅行を中心とした若者の来訪が順調だったが、ガソリン価格の高騰等の影響は、少なからず出てくる。
	○	タクシー（経営者）	お客様の様子	・昼も夜も動きが良かったので、前年同月と比べて5%の増収である。
	○	通信会社（総務担当）	販売量の動き	・例年3月は1年でも販売数が多い月だが、それに加え、今月で終了するサービスの利用者が多数来店しているため、やや良くなっている。
	○	ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・悪天候でのクローズ日は前年と変わらないものの、来場者数は前年比108%、単価も前年比プラスの見込みとなっている。
	□	商店街（代表者）	お客様の様子	・全体的な話で、利用客の節約志向は以前よりも高まってきているが、店の経費も増えているため、経営が一段と厳しくなっている。
	□	一般小売店〔精肉〕（経営者）	お客様の様子	・3月のお彼岸までは寒い日が多くあったが、今は例年の天候と比べて暖かくなり、花もいつもより早く咲いて、活気が出てきている。来月も値上がりが続く、米は値下がり傾向でも、財布のひもは緩まない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	□	一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・前年を基準にした売上達成度で3か月前と比較すると、両月共に前年の売上を1割程度上回っており、ほぼ変わらない。中東情勢による影響は、2月末から3月初旬にかけて一時、観光客が微減したのみで、その後は前年を上回る販売量がある。ただし、欧米方面からの観光客は減っている。その空白を、卒業旅行とみられる国内の若年層の客が埋めてくれている。
	□	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・大型食品物産展など好調な分野も見受けられるものの、景況に大きな変化はない。商材単価は前年比約1割上昇し、依然として物価高であり、客は消費に慎重である。
	□	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・2～3月上旬にかけては堅調な売行きだったが、中東情勢が緊迫してから、日によって売上に苦戦する日も出てきている。新生活や新年度を迎えるタイミングの需要もあって、売上推移は一進一退である。ただし、日々の生活に影響のない高額品等の購買は、やや控えている様子も見受けられる。
	□	スーパー（経営企画）	来客数の動き	・物価高だが、賃金の改定で給料も増えているため、均衡している。
	□	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・行楽シーズンの影響により、土日祝日は観光、レジャー目的の利用客が一定数みられる。特に、今月中旬以降は春休み需要も重なり、週末を中心に人出はやや持ち直し傾向にある。一方で、平日は通勤通学以外の付加需要が弱く、買い回りやついで買いにつながる来客数の伸びは鈍い状況である。
	□	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・来客数にほぼ変化がない。
	□	家電量販店（企画担当）	販売量の動き	・エアコンは、気温変動や2027年問題を背景として好調な売行きを示す一方、その他の大型家電やパソコン等の動きが低迷傾向にある。
	□	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・この数か月、新車などの車両販売が横ばいで推移しており、整備部門の売上でカバーしている。
	□	自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・販売量、来客数、ムード、道路の往来状況等をみても、余り目立った動きはなく、活発さもない。極めて落ち着いた普通の月である。
	□	一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	単価の動き	・年度末で来客数は横ばいではあるものの、宴会、フリー客共に予算を抑える傾向が見受けられる。
	□	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・送別会や年度替わりの宴会は毎年のことなので別として、通常営業は変わらない。ガソリン代の高騰等はあるが、今のところ影響はない。
	□	一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	来客数の動き	・歓送迎会で、団体や少人数の宴会等は盛り上がっているものの、相変わらずフリー客の動きが鈍い。
	□	その他飲食〔給食・レストラン〕（総務）	単価の動き	・直近の食材単価は安定しているものの、高値が続いている。原油価格高騰の動きは、燃料費や配送費の上昇につながるため、収支確保の重しとなっている。現時点でも、収支が圧迫される状況が続いている。
	□	都市型ホテル（支配人）	来客数の動き	・宿泊部門は、梅まつりや地元のサッカーチームがリーグ昇格した影響がある。料飲部門は、送別会や謝恩会等で高単価、高稼働で推移し、前年比125%となっている。
	□	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・物価の変動で、客が動かなくなってきている。
	□	旅行代理店（営業担当）	来客数の動き	・石油価格や物価の上昇により、この先レジャー産業は痛手を被る。
	□	通信会社（社員）	単価の動き	・当サービスに対して客から割引の要望が増える一方、仕入原価は上昇しており、粗利益の減少は避けられない状況である。今後も顧客満足度を追求し、解約数以上の新規獲得に向けた努力を継続していく。
	□	テーマパーク（職員）	来客数の動き	・前年と比べて、降雪もなく温暖な日が多かったこともあり、来園者数が伸びている。
	□	美容室（経営者）	来客数の動き	・中東情勢の影響により、美容業界にもしわ寄せが来ている。影響が長引き、原料のナフサが供給不足になれば薬液の生産が止まるため、商材の入荷未定や価格上昇が危ぶまれる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	□	その他住宅〔住宅管理・リフォーム〕（営業）	販売量の動き	・建築コストの高止まりが継続している部分もあり、契約を見送るケースが続いている。
	▲	一般小売店〔青果〕（店長）	販売量の動き	・施設等への納品先が多いが、料理を作る人の人手不足の影響により、食材が冷凍ものになっており、納品がかなり減っている。
	▲	スーパー（総務担当）	販売量の動き	・中東の情勢による原油価格高騰の影響により、ガソリン価格が上がるなど、客の心理に大きな影響がある。3月後半に入り、売上が減少している。
	▲	スーパー（商品部担当）	単価の動き	・来客数の落ち込みもあるが、更に5%程度、客単価が落ち込んでいる。値上げによる影響が大きく絡んでいるとみている。
	▲	家電量販店（店員）	販売量の動き	・前月は108%と伸びたが、今月は97%と前年実績を超えることができなかった。伸びの悪かった商材は、パソコン本体で90%である。また、原油価格の高騰の影響を受けて、消費マインドが冷えている。
	▲	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・前年同月と比べると、ややマイナスになっている。
	▲	乗用車販売店（営業担当）	お客様の様子	・物価高に追い打ちをかけてガソリン価格が上昇し、購入意欲が低下している。
	▲	住関連専門店（仕入担当）	販売量の動き	・今月に入り、節約意識がより一層高まっている。ガソリン価格の乱高下も不安感を高めている上に、原油についてのネガティブな報道が多く、消費を後押しする明るい要素がない。
	▲	その他専門店（総務担当）	お客様の様子	・注文が少なく、単価がシビアになっている。
	▲	旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・3か月前の12月は例年並みだったものの、今月は非常に売上が悪い。
	▲	通信会社（営業担当）	単価の動き	・中東情勢の影響から、ガソリン代はもちろん、あらゆる関連商材、物流コスト等の上昇の可能性が高まり、消費を抑える傾向にある。
	▲	設計事務所（所長）	それ以外	・原油価格高騰の影響が出てきている。
	▲	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・物価高が一段と進行し、建築費や住宅ローン金利の上昇と悪い要因ばかりで、買い控えも増えている。
	▲	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・事務所関係の引き合いはほとんどないが、最近、店舗関係の問合せが若干増えてきている。飲食店か物販店の引き合いで、その他は、いまだ空き店舗が目立ち、撤収や閉業が続いている。
	×	一般小売店〔家電〕（経営者）	来客数の動き	・円安や物価高の影響により、客の動きは悪い。
	×	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・年度末、期末の3月だが、販売数は増えてこない。例年なら決算時期で売上は増えるが、今年は悪くなっている。
	×	タクシー運転手	お客様の様子	・2月は悪かったが、従来なら3月は送別会等で動きがあるところ、今年は送別会もやらない傾向である。2月末で従業員が2人辞め、ドライバー不足で売上は落ちている。タクシーでは生活できないようである。バブル前は40人いたドライバーも、今では高齢者ばかりで13人に減少している。そのうち田舎ではタクシーがなくなるのではないかと感じている。
	×	ゴルフ練習場（経営者）	来客数の動き	・消費者が値上げに敏感になっている。
企業動向関連	◎	—	—	—
(北関東)	○	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・決算期ではあるが新規受注が幾つか決まり、久しぶりに社員の笑顔が増えている。
	○	輸送用機械器具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・取引先の様子だが、販売量に動きが少し出てきている。
	□	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・相変わらず、取扱食材が高値安定となっており、消費者の購買意欲が低調である。
	□	窯業・土石製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・年度末が順調に迎えられるようである。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・3か月前と受注量は余り変わらないが、今後は中東情勢の影響が心配である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	□	輸送用機械器具製造業（総務担当）	取引先の様子	・主要取引先の生産は計画どおりに進んでおり、大きな変化はない。
	□	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・新生活を前に、年度替わりのタイミングで白物家電、新生活の寝具、インテリア用品等は現状、前年並みの物量を確保している。また、3月末の引っ越し便とともに車両不足が発生している。運賃も高くなり、人材確保等も厳しい状態が続いている。燃料価格の高騰、中東情勢で原油価格が上昇し、利益が薄くなっている。
	□	金融業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・全体的に仕入価格の高騰等の価格転嫁ができていないため、今後は厳しくなることも予想される。
	□	経営コンサルタント	取引先の様子	・中小、下請企業等の受注や売上等の業績面に大きな変化はない。
	□	司法書士	受注量や販売量の動き	・人口が徐々に減っている地方のため、良くなることはない。いつも同じ動きになっている。
	□	社会保険労務士	取引先の様子	・地方の中小企業では、進まない価格転嫁や人件費増加により、相変わらず利益は少ない。
	▲	出版・印刷・同関連産業（経営者）	取引先の様子	・協力会社から、燃料価格高騰を理由に値上げ要請が来ている。ガソリン価格が高騰して間もないのに、価格反映を急いでいる業者があることから、切羽詰まっている様子が伝わってくる。
	▲	化学工業（管理担当）	取引先の様子	・仕入材料の値上げと入荷時期の不透明さで、やや悪くなっている。
	▲	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・中東向け自動車生産の調整に伴い、減産を余儀なくされている。
	▲	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・中東情勢の影響によって、部品等にいろいろと欠品が出始めており、うまく回りそうにない。
	▲	広告代理店（営業担当）	取引先の様子	・飲食店の閉業が、今までにない件数で発生している。来客数はそれほど悪くない店でも、材料費、光熱費、人件費等の高騰から、もう営業できないと諦めている。
	×	不動産業（管理担当）	受注価格や販売価格の動き	・資材や燃料の価格高騰が急激に進んだため、契約済案件で受注額を引き上げられない分は、当社のコスト増加となり、利益を圧迫している。
雇用関連	◎	—	—	—
(北関東)	○	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・春休みに入り、新年度に向け、卒業、新入学、新入社員等の動きが目立っており、衣、食、住に動きが出ている。食に関しては、やや落ち着いてきているが、生鮮食料品や鮮魚は結構伸びており、全体をけん引している。ガソリン価格については多少波があるものの、石油製品も幾らか落ち着くとみている。ただし、原油価格は中東情勢の影響もあるため、一進一退である。
	□	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・事務や製造業の募集は、業績好調による増員ではなく、退職者や求職者の欠員補充が多くなっている。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が前年同月比で連続して微増となっているものの、前年同月と同水準である。
	□	学校〔専門学校〕（副校長）	求人数の動き	・求人状況をみても例年と変わらない。
	▲	人材派遣会社（管理担当）	求職者数の動き	・求職者が少なく、派遣募集をしても人が集まらないため、やや悪くなっている。
	×	*	*	*

4. 南関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連	◎	一般小売店〔生花〕（店員）	来客数の動き	・3月はお彼岸と卒業式シーズンでかなり売れている。1月と比べて来客数もとても多く、良くなっている（東京都）。
(南関東)	◎	コンビニ（従業員）	販売量の動き	・春の暖かい季節になり、行楽シーズンで人出が増えている。地元客に加え、遠方からの客の立ち寄りも増えてくるため、販売量が増えている。冬に比べて客の購買のきっかけになる外出が増える時期のため、やや上向いている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	◎	その他小売 〔ショッピング センター〕（統 括）	来客数の動き	・開店直後から集客ができており、売上点数も増加している（東京都）。
	◎	一般レストラン （経営者）	販売量の動き	・現状では良いものの、これから中東情勢の影響により原油及び石油製品の価格上昇が大きく影響してくる。実際に、食品パッケージやテイクアウト容器などの包材等に関しては、購入量に制限を設ける事業者も出てきている。この先、中東問題が長引けば、包材だけでなく食材の輸入遅延などの原因により、経済の停滞が発生し得る。
	◎	ゴルフ場（経営者）	来客数の動き	・3か月前と比べて来場者数が6.3%増加している。3月は天候が落ち着いていたこともあり、安定した集客を図ることができている。
	○	一般小売店〔家電〕（経理担当）	販売量の動き	・年度末のため仕事量が増えている。会社の決算期でもあるため、需要も多い。個人客は、住宅の購入や引っ越しに伴う新規購入や買換えなどがある。暑くなる前にエアコン購入を考えている客も多く、相談が増えている。
	○	一般小売店〔印章〕（経営者）	販売量の動き	・年度末ということで商材に多少動きがあり、売上也伸びている。このような動きが続いてくれることを願うものの、なかなかそううまくはいかない。
	○	一般小売店〔文房具〕（経営者）	それ以外	・文具メーカーの新商品発売サイクルが短くなっており、高単価商材も多く投入されている。これらの商材は店頭でも販売量が多く、客単価を引き上げている（東京都）。
	○	一般小売店〔文具〕（販売企画担当）	来客数の動き	・店舗をリニューアルオープンして、来客数が大変多く、客単価も相当上がっている。文房具や雑貨などの特集が売上に貢献しており、売上也大きく伸びて利益も上がっている。
	○	一般小売店〔茶〕（営業担当）	来客数の動き	・来客数、売上共に伸びている。
	○	百貨店（広報担当）	お客様の様子	・国内客の高付加価値消費への意欲が年末より一層高まっており、力強さがうかがえる。特に、宝飾、時計、ラグジュアリーブランドがけん引している。インバウンドの売上は、依然として中国、香港からの訪日客数や売上は戻っていないものの、台湾、韓国などその他の地域からの売上が好調であり、全体では前年を超えるペースで推移している（東京都）。
	○	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・苦戦していたインバウンドについても来客数、売上共に前年を上回り、客単価は引き続き高い状態を維持している（東京都）。
	○	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・免税売上の減少は底を打った感がある。前年は3月から減少傾向が拡大したため、今年は前年比2けた以上の増加となっている。婦人ファッションや食品も順調に推移し、全体としては3か月の基調を上回ってきている（東京都）。
	○	スーパー（営業担当）	来客数の動き	・食品全般の価格が依然として高く、単価の上昇傾向が継続している。反面、販売量は低調気味ではあるものの、来客数は前年に近づいてきている（東京都）。
	○	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・年度末の決算セールの実施により、新車や中古車の売上が前年よりも増加している。
	○	乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・年度の決算月であり、新車部門の需要が伸びている。
	○	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・2月は営業日数が少なかったが、日々の来客数は落ちていなかった。引き続き、3月に入っても伸びている（東京都）。
	○	タクシー運転手	お客様の様子	・運賃改正により今後の客の動向が気になる。週末の利用客は非常に多く、朝から深夜まで仕事ができている。
	○	タクシー運転手	お客様の様子	・1月と比べると3月は利用客が増えている。特に降雨日は配車要請が1日中続く状況である。最近、都心部は渋滞が多く、事故も増えている（東京都）。
	○	通信会社（経営者）	販売量の動き	・前月同様に交渉中の案件の受注が増加傾向である（東京都）。
	○	通信会社（社員）	お客様の様子	・年度末での契約変更、中止もなく、番組スポンサーの継続が順調に進んでいる（東京都）。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	○	通信会社（管理担当）	お客様の様子	・年度末ということもあり、案件の刈取り時期である。取扱サービスの更新等は堅調に推移しており、全体としては良好傾向である（東京都）。
	○	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・全国的な賃上げの影響により、潜在的な購買意欲が上がっている（東京都）。
	○	その他サービス〔葬祭業〕（経営者）	来客数の動き	・立て続けに依頼が入っている。一過性のものではなく継続して依頼が入ることを期待したい。
	○	住宅販売会社（経営者）	来客数の動き	・当社は不動産デベロッパー業と総合建設業である。インバウンドを含めた観光用ホテルを扱っているが、インバウンドがかなり増えているため、ホテルの稼働率も上がっている。一方、建設業は、材料費、人件費共にかなり上がっており、公共工事を含めてスムーズな受注ができない状態になっている。
	□	商店街（代表者）	それ以外	・クレジットカードの取扱高は前年割れ若しくは横ばいで、余り良いとはいえない。国際情勢の不安定化から、消費マインドが低下傾向である（東京都）。
	□	一般小売店〔家電〕（経営者）	販売量の動き	・悪い状態がずっと続いており、変わらない。今は、例えばLEDの補助金申請等について客から相談があるが、申請などがなければ、悪い状態がもっと悪くなっている（東京都）。
	□	一般小売店〔家具〕（経営者）	来客数の動き	・景気の良くない状態がこのまま続くともみているが、現政権になって将来的な希望は持てる（東京都）。
	□	一般小売店〔食料雑貨〕（経営者）	来客数の動き	・たばこの値上げが4月に控えているため、買い控えから売上が厳しいのではないかとみている。
	□	一般小売店〔祭用品〕（経営者）	来客数の動き	・3月も景気は良くならない。街中は静かで人通りもまばらである。
	□	一般小売店〔米穀〕（経営者）	販売量の動き	・客の購買意欲が低迷しており、商材を少量で販売するようになっている（東京都）。
	□	一般小売店〔眼鏡〕（経営者）	来客数の動き	・日差しが強い夏の時期は、そうでない冬より商材が売れる。今年は人件費、仕入コストなどが上がり、冬が良くなく、前年よりマイナスになっている。
	□	一般小売店〔茶〕（営業担当）	販売量の動き	・売上が伸びない。零細企業なので大したことはないが、次こそは売上が伸びていると回答したい（東京都）。
	□	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・卒園、入学、新生活シーズンに伴うパーソナルギフト需要が非常に活発である。加えて、企業による年度末の予算消化を目的とした従業員向けギフト需要も顕著にみられる。比較的単価の高い贈答品については引き続き動きが良い（東京都）。
	□	百貨店（総務担当）	お客様の様子	・ファッション関係は施策が奏功している。高額品が全体の動きを押し上げ、目標値を達成している。
	□	百貨店（総務担当）	お客様の様子	・今月は、ここ数か月と大きな変化はなく、同様の状況が続いている。紳士、婦人のファッション商材や食料品はおおむね平均的な動きとなっている。一方、高額ブランド品や宝飾品は引き続き好調に推移している。インバウンドによる売上はやや回復気味ではあるものの、大きな変動はみられない。身の回りの景況感としては、悪化しそうでしないという、やや曖昧な雰囲気である（東京都）。
	□	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・中東情勢が今のように不安定になる前から、商材単価は野菜もファッション雑貨も上昇傾向にある。来客数や買上客数の推移からみて、景気は変わらない（東京都）。
	□	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・国内客は引き続き底堅い消費行動が持続している。一方、インバウンドに関しては、中国からのインバウンド減少はあるものの、売上に対する影響度は縮小している。3月前半は寒い日が続いたが、気温の上昇に伴いファッション商材が動き始め、同時に食料品の動向も堅調になっている（東京都）。
	□	百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・前年よりも雨天が少なかったこともあり、今月も売上、来客数共に前年を上回っている。年度末でもあり、自家需要の生活必需品だけでなく、ギフト需要などにも動きがみられる。一方、物価高や中東情勢の変化など先行きの不透明感もあり、全体として景気は変わらない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	□	百貨店（財務担当）	販売量の動き	・国内客、インバウンド共に販売量は3か月前と比べて大きな変化はなく推移している（東京都）。
	□	百貨店（店長）	お客様の様子	・客の購買動向に変化は見受けられない。売上増加は物価上昇によるものであり、買上点数の増加はみられない。
	□	スーパー（経営者）	販売量の動き	・競合店ができたこともあるが、やや悪い状態がずっと続いており、なかなか上向いてこない。
	□	スーパー（店長）	お客様の様子	・1品単価の伸びが以前より鈍化している上に、1人当たりの買上点数も緩やかになってきている。来客数自体は大きく落ち込むほどではないものの、全体として買い控えが続いている。ここにきて中東情勢をきっかけに原油調達の問題がクローズアップされており、紙製品等、一部商材の販売が伸びている。
	□	スーパー（店長）	販売量の動き	・来客数、客単価は前年並みを維持しているものの、買上点数の前年割れが依然として続いている（東京都）。
	□	スーパー（総務担当）	お客様の様子	・物価高への不安はあるものの、全体的に賃金が上がったため、安心感もある。
	□	スーパー（ネット宅配担当）	販売量の動き	・来客数は前年並みだが、販売点数が追いつかず、売上が増えていない。
	□	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・3月の来客数は、前年同期比で95%程度である。中東情勢の影響により物価高となり、少しコンビニ離れが起きている。
	□	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・売上は前年とほぼ変わらず横ばいだが、来客数は5%ほど減っている。値上げした商材が多く、来客数減少を高単価で補っている状態である。もう少し所得が増えないと今後の景気は上向かない（東京都）。
	□	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・春休み中にもかかわらず、来客数が変わらず、売上は落ちている。
	□	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・値上げが一巡したことや大型キャンペーンが終了したことで、伸び率が鈍化している。値上げの影響により、若年層の客が離れている（東京都）。
	□	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・毎月の商材の値上がりによりコンビニの主要カテゴリーである米飯類が鈍化傾向にある。このまま値上げが続くと、ますます厳しくなる。
	□	コンビニ（従業員）	販売量の動き	・3か月前と比べてそこまで大きな変化はないが、天候が暖かくなってきたことで客の行動が変わってきている。近くの大きな公園での催しや遊びなどが増え、公園に行く客が買物に来ているのが、冬季と大きく違う点である。
	□	衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・全社としての売上計画はほぼ予定どおりに推移しているが、各種資材等の値上がりによって経費が膨らんでおり、収益は減少している。主要事業部別売上でみると、着物事業については、自社セールが好調に推移し、計画比110%を超えている。ドレス事業については、店外ドレス展示会の実績は計画どおりの100%を確保している（東京都）。
	□	衣料品専門店（役員）	来客数の動き	・相変わらず客足が悪い。春物衣料の売上が伸びない。
	□	衣料品専門店（従業員）	お客様の様子	・客が口にするのは世界情勢のことばかりで、買物をする意思が見受けられない。
	□	家電量販店（店長）	単価の動き	・新生活や年度末決算などで数字上は伸びている。来客数が伸び悩むなか、物価高による値上げで単価が上昇傾向にあることが結果として数字に表れている。
	□	家電量販店（店長）	お客様の様子	・物価高に加え燃料費も上がり、慎重な客が多いようである。しかし、新築入居時のまとめ買いは前月より多い。
	□	家電量販店（店長）	来客数の動き	・花見シーズンを迎え、インバウンドが増加している。来客数は3か月前と比較してほぼ変化がないものの、前年同月比では増加している（東京都）。
	□	家電量販店（店長）	お客様の様子	・客は必要な物を必要なだけ買う傾向にある（東京都）。
	□	乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・決算が盛り上がり欠けており、今一つで終わりそうである。
	□	その他専門店 [ドラッグストア]（経営者）	販売量の動き	・今年は花粉の飛散量が多いため、花粉症関連の薬の動きがととも良く、全体の数字を押し上げている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	□	高級レストラン (営業担当)	来客数の動き	・3月の実績は、売上が前年比108.2%、来客数が前年比104.4%となっており、数字だけみると良い傾向にみえるが、一部の店舗でイレギュラー値があり、その関係で引き上げられている部分がある。物価上昇により客単価は前年比103.7%となっている(東京都)。
	□	高級レストラン (仕入担当)	来客数の動き	・3月も好調に推移しており、景気の減速感はないが、仕入品全般の価格改定が依然として多く、減速につながることを懸念している(東京都)。
	□	一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・3か月前の12月は例年売上が良かったため、かなり伸びていた。それと比べると今月は落ちるものの、前年の4月よりはやや良く、多少は良くなっている。
	□	一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・今月は、12月の忘年会よりは少ないものの歓送迎会の予約が定期的に入っていたことと、週末もいつもどおり大勢の客が行列していたことから、良い(東京都)。
	□	その他飲食[カフェ] (経営者)	お客様の様子	・路面店ではないためインバウンドは少ないが、中国人の来客数は極端に減っている(東京都)。
	□	その他飲食[給食・レストラン] (役員)	単価の動き	・価格転嫁交渉の成果により安定した収益を計上できている。下期に入っても、増減はあるものの、良い状況にある(東京都)。
	□	都市型ホテル (経営者)	来客数の動き	・1～2月と宿泊部門は低迷していたが、3月は近隣の大型コンベンション施設やスタジアム等で、催事やイベントの開催、スポーツ関係団体等の利用があり、稼働率が上がっている。宴会部門は、各種団体や学校等の歓送迎会などが多く入っている。
	□	都市型ホテル (経営者)	単価の動き	・3か月前と比べてほぼ横ばいで推移している(東京都)。
	□	旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・中国からのインバウンド減少の影響が大きい。また、原油価格の高騰が影響し、外出を控える傾向もみられる(東京都)。
	□	通信会社(営業担当)	お客様の様子	・物価高の影響により、より低価格なサービスへの切替を希望する客が増えている。
	□	通信会社(局長)	販売量の動き	・当社B to Cサービスは、テレビ、固定電話が引き続き純減傾向ではあるものの、固定インターネット、モバイルは純増傾向である。また、B to BやB to Gサービスは前年を大きく超過しており、売上、利益は、外部環境というより内部の商品開発の影響が大きく寄与している(東京都)。
	□	通信会社(営業担当)	お客様の様子	・新規加入、コース変更共に無駄を省き必要最小限の内容を選択する意識が相変わらず強い。
	□	通信会社(経営企画担当)	販売量の動き	・案件の動きが鈍く、余り変化がみられない(東京都)。
	□	通信会社(管理担当)	販売量の動き	・年度を通じて、インフラ投資の効果について、想定より契約数増加に貢献できていない(東京都)。
	□	通信会社(営業担当)	お客様の様子	・中東情勢の影響もあるが、今後の各種金額を含めて注視している(東京都)。
	□	ゴルフ場(従業員)	来客数の動き	・来客数は横ばいである。
	□	競輪場(職員)	それ以外	・一時的に事業を休止しているため、変化はない。
	□	その他レジャー施設[ボウリング場] (従業員)	お客様の様子	・中東情勢についての会話は多く聞こえるが、客の動きに大きな変化はない(東京都)。
	□	その他レジャー施設[映画] (営業担当)	来客数の動き	・映画業界では、ヒットする作品とそうでない作品との2極化が激しくなっているが、業界全体の動員数はそれほど変わらない(東京都)。
	□	その他レジャー施設[総合] (経営企画担当)	単価の動き	・中国の訪日渡航自粛の影響により来客数が若干減少しているものの、中国以外の国からのインバウンドは伸びている。単価も高水準を維持できている(東京都)。
	□	その他サービス[立体駐車場] (経営者)	来客数の動き	・前月と比べて特別変化はないが、中東情勢の影響により原油価格が高騰しており、今後の見通しは暗い。
	□	その他サービス[保険代理店] (経営者)	お客様の様子	・客は徐々に上昇する売価に慣れてしまい、少々諦め感がうかがえる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	□	設計事務所（経営者）	単価の動き	・現状は、生活インフラも含め様々な物価が上がってきている。収入と支出のバランスが崩れている影響からか、仕事が余り進んでいかないため、上昇しない。
	□	設計事務所（職員）	それ以外	・あらゆる面で物価上昇の影響が大きい（東京都）。
	□	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・例年の3月と変わらない。
	□	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・当社は新築アパートを販売している。個人客の需要が相変わらず高いが、直近では法人の購入希望も増えてきている。個人、法人を問わず2極化が進んでおり、業績好調の法人も多いようである。
	▲	一般小売店〔酒類〕（経営者）	お客様の様子	・値上げが続き、厳しい状況が続いている。
	▲	一般小売店〔書店〕（総務担当）	それ以外	・物価の高止まりに加え、世界情勢の悪化によってガソリン代も高騰している。海外、国内共に輸送コストが上昇しており、既に当社の業績に悪影響を及ぼしている（東京都）。
	▲	百貨店（総務担当）	販売量の動き	・3月は高額品の動きが悪化している。2月の中国からのインバウンド減少に伴う影響は、多少持ち直したものの残っている。食料品等の値上げの影響もあり、食料品関連の売上には伸びがみられる一方、食堂や喫茶関連の売上は減少している。月末に実施した上顧客優待イベントでの売上は前年を捉えているものの、全体としては悪化の傾向である（東京都）。
	▲	百貨店（総務担当）	お客様の様子	・ラグジュアリー商材等の高級品の売上は順調に推移しているものの、食料品関連の伸びが鈍化してきている（東京都）。
	▲	百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・全体としては不振ながら、特定の宝飾、時計など一部の高級雑貨ブランド、ハイブランド特選衣料は客単価、売上共に伸長している。予約制での接客販売をしている一部人気宝飾ブランドでは、3か月先まで予約が埋まっている（東京都）。
	▲	百貨店（企画宣伝担当）	お客様の様子	・客が必要最低限の物しか買っていない。価格にシビアで、買い回りも少ない。
	▲	百貨店（管理担当）	販売量の動き	・一部の上客を除き、購買量、客単価共に落ちている。周辺自治体で商品券や現金給付の計画があるものの、百貨店で使われるかは分からない（東京都）。
	▲	百貨店（管理担当）	お客様の様子	・売上自体は前年を若干上回る傾向にあるものの、物価高により商品単価が上がっている影響が大きく、客の購買回数や頻度は減少している。直近の世界情勢の変化により、購買に対して客がより慎重になっている（東京都）。
	▲	スーパー（経営者）	販売量の動き	・自動車での来店が減少し、買上点数が落ちている。1品単価も値上げ幅ほどは上がっていない。
	▲	スーパー（仕入担当）	単価の動き	・買物頻度が下がり、来客数が減少している。青果物の主力野菜の単価が低く、売上が減少している。
	▲	スーパー（食品担当）	お客様の様子	・賃金上昇より物価の上昇幅が大きすぎる（東京都）。
	▲	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・常連客であっても特価品等にものみ手が伸びている。特に、高齢客の買上動向に顕著に表れている。
	▲	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・休日の来客数が減少している。
	▲	コンビニ（経営者）	単価の動き	・単価の高い物は50%近くしか売れなくなっている。
	▲	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・今月も売上が前年比98%となる見通しである。良くなる気配もなく、中東情勢の影響もあり、不安材料が多い。
	▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・原材料費高騰の影響による値上げがあり、商品単価は伸びているものの、来客数や売上が前年を割る日も出ている（東京都）。
	▲	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・来客数の動きが100%を割って厳しいなか、販売量の動きも大分低調である。
	▲	コンビニ（商品開発担当）	販売量の動き	・中東の海峡問題の影響により、原材料価格がますます上昇しており、この先、容器関連を中心に順次納品価格が上がる可能性が大きい（東京都）。
	▲	乗用車販売店（経営者）	単価の動き	・物価上昇の影響によりやや悪くなっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	▲	乗用車販売店 (経営者)	お客様の様子	・ガソリン価格上昇の懸念があり、自動車の購買意欲が減退している(東京都)。
	▲	乗用車販売店 (販売担当)	それ以外	・中東情勢の影響により石油が入ってこないことや円安を容認しているような対応で、物価、とりわけガソリン価格が上がっている。4月に春闘はあるが、賃上げの動きがどうなるかを注視している。食料品を始めあらゆる物価が上がっており、もうしばらく景気の悪い状態が続く(東京都)。
	▲	乗用車販売店 (営業)	お客様の様子	・販売量がかなり限られていることと、ガソリン価格の高騰が今後大きく影響してくるとみている。
	▲	その他専門店 [貴金属](統括)	販売量の動き	・販売単価は現状を維持しているが、販売数量が減少傾向にあるため、景気はやや悪くなっている(東京都)。
	▲	その他小売 [ショッピングセンター](統括)	お客様の様子	・世界情勢の不安定さから、物価と原油価格の高騰のダブルパンチで、不安が先行している(東京都)。
	▲	その他小売[生鮮魚介卸売] (営業)	競争相手の様子	・商材の値上がりだけでなく、運送代まで余計に負担しなければならなくなっている(東京都)。
	▲	高級レストラン (経理担当)	販売量の動き	・単価の低いメニューを中心に、販売量は前年同期比で減少している。富裕層の消費性向は高いので目立たないが、ボリュームゾーンの間層の消費マインドはやや後退している(東京都)。
	▲	一般レストラン (経営者)	販売量の動き	・中東情勢の影響によりガソリン価格が上がっているため、外出を控えているような気がする。当店はロードサイド店のため特に実感している。そうした状況から売上、来客数が減少している。
	▲	一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・今年は送別会などが全くない。今はハラスメント防止で上司の誘いを断れるようだが、同期の少人数が集まるくらいの会しかない。
	▲	その他飲食[居酒屋] (経営者)	来客数の動き	・送別会シーズンだが、前年まで主流だった6~10名程度の団体客が明らかに減っている。また、通常の来店客も減っている(東京都)。
	▲	都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・中国の訪日渡航自粛の影響により来客数が減少している。都内のホテルが空いているため、当地域まで需要が伸びてこない。
	▲	旅行代理店(経営者)	単価の動き	・現内閣になってからはますます諸物価の上昇が著しくなり、客が財布のひもを締めている。単価が余りにも高過ぎるため、二の足を踏んで、高い旅行には行かずに皆でごちそうでも食べられればよいということになってしまっている。
	▲	旅行代理店(営業担当)	お客様の様子	・円安が続いているため、客は様子見している(東京都)。
	▲	旅行代理店(営業担当)	それ以外	・物価上昇により、やや悪くなっている。
	▲	旅行代理店(営業担当)	単価の動き	・燃料価格の高騰により、バスなどの交通機関、宿泊施設の値上がりが見られる。今後は仕入れ全てが高くなっていくとみている(東京都)。
	▲	タクシー運転手	来客数の動き	・3か月前は年末でタクシー業界は忙しい時期であり、それと比べると落ちるものの、前月よりは良くなっている。かつ降雨日は客の動きが大分変わってくる。一方で、生活習慣の変化により深夜の客は少なくなっている(東京都)。
	▲	タクシー(団体役員)	来客数の動き	・中東情勢もあり、原油価格が安定しないと全ての物価の上昇につながる。
	▲	通信会社(営業担当)	お客様の様子	・物価高の影響とみられるが、客が以前より価格にシビアになっている(東京都)。
	▲	通信会社(経理担当)	お客様の様子	・原油価格の高騰について世間話をする客が増えている。更なる物価高に備えて節約志向になっている。
	▲	観光名所(職員)	来客数の動き	・3か月前の日中関係に加え、現在の中東情勢の影響により、一層不透明になっており、客足にも影響している(東京都)。
	▲	ゴルフ場(経営者)	来客数の動き	・来場者数が前年同月と比べて3%減少している。
	▲	ゴルフ場(従業員)	それ以外	・中東情勢の収束が見えないなか、石油価格等の上昇による一層の物価上昇が懸念される。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	▲	ゴルフ場（経理担当）	来客数の動き	・中東情勢の影響により経済の先行きが不透明となっているなか、プレーフィーが高額なビジター需要の低迷は特に著しく、物価上昇及び実質賃金低下を背景に、生活防衛を意識した高額レジャー支出抑制の動向が定着している。来場者の中心が会員であるため、収益の確保は困難である。物価上昇により営業費用は累増の一途をたどり、到底利益を創出できる状況にない。
	▲	設計事務所（経営者）	お客様の様子	・事業に掛かる費用について予算以上に支出がかさみ、客が計画の見直し等を行っている。
	▲	その他住宅〔住宅資材〕（営業）	販売量の動き	・建築資材の需要の繁忙期は新年度開始とともに終わるが、繁忙期といえるほどの忙しさは特にない。この状況が4月以降も続くとみられ、景気が上向いている実感はない（東京都）。
	×	一般小売店〔家電〕（経理担当）	単価の動き	・客が価格に敏感になっており、悪くなっている。
	×	スーパー（販売担当）	来客数の動き	・ガソリン価格の高騰により、外出を控える傾向にある。
	×	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・予想以上に苦戦している。もっと売れてよいはずである。
	×	高級レストラン（役員）	それ以外	・日中関係の影響による中国からのインバウンド減少はあるものの、その他の地域からのインバウンドを含めて、来客数は良い。とはいえ、引き続き仕入価格の高騰、コスト高に加え、中東情勢による不安感の増大により、景況感の悪化が長期化する（東京都）。
	×	その他飲食〔カフェ〕（経営者）	単価の動き	・食料品全般が値上がりしたことにより、外食する人が減り、客足が落ちてきている。また、オンラインショップなどの客単価、プレゼントなどのまとめ買いも1品単価が落ちている（東京都）。
	×	旅行代理店（従業員）	それ以外	・次年度に向けての団体旅行の問合せが増えてきているが、この時期の動きとしては例年どおりである。ただし、中東情勢の影響により、燃料を含め、今後も物価上昇が進むことが懸念される。その場合、団体旅行自体を中止する判断となることも現実味を帯びてきている。
	×	通信会社（社員）	単価の動き	・中東情勢の影響により物価の上昇に拍車がかかっている。これまで持ちこたえてきた市中の小売店もいよいよ値上げに踏み切っており、家計を圧迫している（東京都）。
	×	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・今月の販売量は目標数字の約30%となり、景気は悪い。3か月前と比べても約38%であり、悪くなっている。過去を振り返ってもこれほど販売量が低迷したことはない。当社も今月から販売価格を上げたので、それが原因だと考えている。建築資材や人件費が上昇し、倒産する建設会社のニュースも見掛けるようになってきている。
企業動向関連	◎	*	*	*
(南関東)	○	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・値上げをしたため売上が落ちることを心配していたが、結果的にはほとんど影響がない（東京都）。
	○	出版・印刷・同関連産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・年度末は受注量が増える時期であり、前年同月比では若干減っているものの、前月と比べると景気は良い（東京都）。
	○	金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・取引先が年初の生産計画を3か月連続で上方修正していることに加え、受注量、受注金額共に増えている。
	○	金属製品製造業（経営者）	取引先の様子	・新年度以降の案件のある取引先が年初より増えてきている印象である。ただし、当社にはほとんど影響はなく、相変わらず厳しい状況は続いている。
	○	不動産業（従業員）	受注量や販売量の動き	・宿泊需要は引き続き堅調である（東京都）。
	○	税理士	取引先の様子	・回答時点では株価や金の価格上昇、春闘の満額回答等、3か月前と比べると良い方向に向かっているようにみえるが、現在の国際情勢により今後の予想は異なってくる。
	○	その他サービス業〔警備〕（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・物価高のなか、4月からの値上げを認めてくれる取引先が増えている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	○	その他非製造業 〔商社〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注や契約数の動きからみて、やや良くなる（東京都）。
	□	食料品製造業 （経営者）	受注量や販売量の動き	・今月はテレビ番組で取り上げられたため、来客数が増え、売上も伸びている。
	□	出版・印刷・同 関連産業（経営者）	それ以外	・国際情勢の悪化により紙やインクなどの原材料価格が高騰し、物流コストも上昇している。受注はあるものの、コストの増加が利益を圧迫している。
	□	出版・印刷・同 関連産業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・印鑑やゴム印、名刺印刷をしている。インターネット販売もあるが、やはり実店舗での売上の方がまだ多い。3月は年度替わりで例年かなり売上が伸びるが、トータルすると12月、1月の動きと余り変わらない（東京都）。
	□	プラスチック製 品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・化粧品容器の受注は低迷したままだが、医療品容器で中東向けの大口案件が舞い込んでいる。
	□	一般機械器具製 造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・多くの取引先が年度末を迎えており、取引量が通常と異なるため、現状からは動向を判断することができない。
	□	電気機械器具製 造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・A I関連製品の販売量が過去最高を記録しており、今後当社の景気としては確実に良くなる方向に向かうが、現時点ではまだ大きな変化はない。
	□	精密機械器具製 造業（経営者）	取引先の様子	・発注側もいろいろな変化があり、発注量を抑えめにしている様子が見受けられる。
	□	建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・不動産価格が高止まりし、なかなか流通していないため、業界の景気は減退する。
	□	建設業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・解体業なので燃料費、資材価格の上昇は痛手である。価格が安定することを願うばかりである。
	□	輸送業（総務担当）	取引先の様子	・繁忙期で物量が増えており売上は良いものの、燃料価格の変動が大きく、収益が読めない。
	□	通信業（広報担当）	受注量や販売量の動き	・前年を下回る状態が続いている（東京都）。
	□	金融業（営業担当）	取引先の様子	・落ち着きを見せるとみられていた不動産市況は依然活発であり、都内、駅至近物件等はかなりの高値で引き合いが続いている。製造業関連はいずれの業種もほぼ横ばいであり、期末に向けた活発さは見受けられない。
	□	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・国際情勢の先行きが不透明であり、物価上昇が想定以上になりそうな不安感があるなか、不動産価格や賃料の上昇傾向はまだ続いている（東京都）。
	□	不動産業（総務担当）	取引先の様子	・不動産賃貸業はテナントのニーズも旺盛であり、変わらず良い。一方、商業系テナントの中には入居の際のテナント負担工事が高く、見送るケースも出ている（東京都）。
	□	広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・上向きか下向きかでいえば、前後の月に鑑みて変わらない。3月は期末ということもあるが、例年突出して良い月である（東京都）。
	□	税理士	それ以外	・夜に近隣駅まで商店街の飲食店を外からのぞきながら歩いているが、新型コロナウイルス感染症発生前ほど客が入っていない。以前はもっとにぎやかだったが、以前から客入りが少ない店はもちろん、多く入っていた店でも入っていない（東京都）。
	□	社会保険労務士	取引先の様子	・助成金の活用をしたい会社が多く見受けられる（東京都）。
	□	その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・今月は問合せが多く、取引量も前年並みとなっている。
	□	その他サービス業〔ソフト開発〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・現在の受注量などは安定している（東京都）。
	▲	食料品製造業 （経営者）	それ以外	・原材料価格の高騰により利益が減少している（東京都）。
	▲	輸送用機械器具 製造業（総務担当）	取引先の様子	・中東情勢の影響により、自動車メーカーも減産を余儀なくされており、下請への発注量も減少している。
	▲	建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・人手不足と物価上昇により、やや悪くなっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	▲	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・価格の上昇で様子見や中止になる案件が出始めている。原油価格の高騰により材料費が上がっている。また、人件費も上がり、人手不足になっている。
	▲	輸送業（経営者）	それ以外	・新年度を前にして、納品先店舗数、納品量共に増える気配がないなか、中東情勢の影響による燃料の供給不安、価格の急騰等で景気が更に減速している（東京都）。
	▲	輸送業（経理担当）	それ以外	・荷主との賃上げ交渉が思うようには進まず、燃料代の高騰もあり、不安である。
	▲	金融業（総務担当）	取引先の様子	・取引先企業の様子だが、燃料費の高騰により、運送業や部品加工業といった燃料を使う業種の利益率が低下しており、中小企業では人手不足もあるため、廃業するところが増えてきている。建設不動産業は先の受注があり、資材価格の高騰も価格転嫁できており、問題は無い。小売業では各種値上げが続き、消費者の購買力が落ちている（東京都）。
	▲	金融業（支店長）	取引先の様子	・建築基準法が改正になった影響により、建築確認が下りるまでの期間が長期化しており、建設業界にとどまらず各種製造業にまで深刻な悪影響を及ぼしている。
	▲	不動産業（経営者）	それ以外	・中東情勢の影響により、原油価格高騰がどこまで物価に影響するかという懸念がある（東京都）。
	▲	広告代理店（経営者）	それ以外	・デザイン業界ではAIツールの普及が急速に進んでおり、従来外注されていた簡易的な制作物については取引先が内製で対応するケースが増えている。その影響もあり、受注件数はやや減少傾向にあり、価格についても引下げを求められる場面が増えている。こうした環境の変化に対応するため、各種AIツールの導入や学習に時間や費用を掛ける必要が生じており、業界全体として変化への対応を迫られる状況が続いている（東京都）。
	▲	経営コンサルタント	取引先の様子	・取引先の話では、新年度を迎えるに当たり、子供の習い事に関して、通う回数を増やすことを提案しても、以前と比べて応じる親が少なくなっているとのことである。
	▲	経営コンサルタント	取引先の様子	・中小機械加工業等では、まだ直接的な重油問題に直面してはいないものの、ガソリンや重油の価格上昇など、ひたひたとコストが圧迫されつつある。発注企業側の生産計画縮小が気掛かりである（東京都）。
	×	出版・印刷・同関連産業（所長）	受注量や販売量の動き	・例年だと年度末の繁忙期となるが、今は案件数が非常に少ない（東京都）。
	×	建設業（営業担当）	競争相手の様子	・入札案件の応札業者数が例年と比べて多くなっている。今まで応札していない業者の名前が増えたことから、案件数の減少を実感している。
	×	通信業（従業員）	それ以外	・中東情勢の影響により悪くなる（東京都）。
	雇用 関連 (南関東)	◎	人材派遣会社（社員）	求人数の動き
◎		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・年度末を契約約定日と定めている企業が多いが、年度末退職者が一定数いるため、その後任枠の募集又は増員による求人が増加している（東京都）。
○		人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・年度末に向けて各企業共に派遣求人数が増加してきている。特に業界、地域などでの差は余りなく、いずれも増加している。就業期間に関しては、長期案件だけでなく期間限定の短期案件なども増えている。求人数は増加しているものの、求職者数の増加率が伴っていないため、需給バランスが若干崩れている（東京都）。
□		人材派遣会社（支店長）	それ以外	・派遣依頼は引き続き堅調である一方、人手不足によりスキルが見合う人材がおらず、成約に至るまでに時間を要するケースが増えている（東京都）。
□		人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・求人背景が業務量の増加ではなく欠員補充であり、賃上げを求めた人材の流動化による求人という状況は変わらない。
□		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数は3か月前と同じ水準で推移している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	□	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・求人数は継続的に多いものの、求職者数に改善がみられない（東京都）。
	□	人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・3か月前と比べて求人数の改善がみられるものの、全体としては横ばいである（東京都）。
	□	求人情報誌製作会社（広報担当）	採用者数の動き	・社内や同業他社で中途採用の案件が常にあることから、景気は良い（東京都）。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数は減少傾向にあるものの、企業の省力化への取組もみられ、景気が下向きとはいえない。国内を取り巻く状況を注視する必要がある（東京都）。
	□	民間職業紹介機関（経営者）	求職者数の動き	・企業からの求人は常時あるものの、採用条件に合う人がなかなか見つからず、実際の採用率は大体半分以上である（東京都）。
	▲	人材派遣会社（社員）	それ以外	・物価が安定しないため、暮らしへの影響が大きい（東京都）。
	▲	人材派遣会社（営業担当）	周辺企業の様子	・製造業からのエンジニア派遣ニーズが若干減少傾向にある。全体的な景況悪化が年度末の影響か、現時点では判断できない（東京都）。
	▲	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・新規求人数の減少が続いている。
	×	*	*	*

5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (甲信越)	◎	タクシー（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症発生以前とほぼ同じ収益状況まで回復してきている。
	◎	遊園地（職員）	来客数の動き	・3月に入り、春休みや卒業旅行シーズンが本格到来したため、入園数が順調に伸びている。また、キャラクターショーやタイアップイベントの開催も集客につながったと考えている。
	◎	その他サービス〔葬祭業〕（経営者）	お客様の様子	・今月は依頼が多くみられた。
	○	商店街（代表者）	お客様の様子	・当店は新学期を迎えて商材の動きが良くなっている。商店街をみても、正月より今の春先の方が動きが良い。
	○	スーパー（経営者）	来客数の動き	・前年比で売上17%増加、来客数は6%増加、前月に引き続き来客数が前年を上回っている。近隣住宅の新築工事を行っている職人の来店があるほか、数年前の常連客の数名が最近また来店するようになった。3月は消防署からの食材注文が増え、今後は1か月当たり6万円程度売上が増加する予定である。
	○	コンビニ（経営者）	単価の動き	・客は商材の値上げに慣れてきている。
	○	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新型車効果もあって、新車の受注が増えている。
	○	自動車備品販売店（従業員）	お客様の様子	・天候が暖かくなり、タイヤ交換の需要が増えてきている。ただし、ガソリン価格の高騰などから、全体的に支出を抑える傾向がみられる。
	○	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・異動時期であることや年度末、年度初めで会食が増えている。
	○	一般レストラン（経営者）	販売量の動き	・天候の影響もあり若干動きは出てきたが、燃料費高騰で出足が鈍る可能性は残る。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・時期的に需要が高く来客数が多い月で、天候も安定していたため、前年比でも顕著に増加している。法人利用は変わらず安定して推移し、個人利用も大幅に伸長している。
	○	タクシー運転手	販売量の動き	・天候が暖かくなってきたため、前月と比べると若干だが売上が伸びている。
	○	その他レジャー施設〔ボウリング場〕（経営者）	来客数の動き	・春休みに入り、開店時間から夕方にかけて学生を中心に集客ができています。その一方で混雑を避けて来場を控える常連客も一定数いる。団体の利用も例年どおり予約が入っている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	□	一般小売店〔家電〕（経営者）	お客様の様子	・卒業、新生活と、商材の動きがあってもよい時期ではあるものの、動きは見られない。必要がないのか、新居に据え付けられてきているのか、今までのような新生活イコール家電購入の形には至らない。消費者のニーズも変わってきており、先を読むことは難しい。
	□	百貨店（経理担当）	お客様の様子	・食品催事、宝飾時計、特選ブランド等が堅調で、売上をけん引し、店全体で前年実績を達成できている。県産品の通信販売も売上を伸ばしている。衣料品、リビング用品は売上を伸ばせない。この傾向はしばらく続く。
	□	百貨店（店長）	お客様の様子	・客との会話から、原油価格高騰の影響等による社会情勢への不安がうかがえる。ただし、今の時期は目的買いによる需要も多いため、直ちに売上に影響するほどではない。
	□	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・コンビニ業界では来客数は余り変わっていないため、販売量の動きも以前と変わらない。
	□	コンビニ（店長）	お客様の様子	・前月末から燃料代の値上げが続いている。多少影響は出ているものの、取扱商材が消え物のため、それほどでもない。以前と動きは変わっていないが、キャンペーン等を実施しても、期待したほどは伸びてこないため、やや厳しい状況が続いている。
	□	家電量販店（店長）	来客数の動き	・世界情勢に不安があり、原油も高騰しているため、変わらない。
	□	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・車検、一般整備は目標を若干上回る結果である。車両販売、特に新車については客の希望する車種の幾つかがオーダーストップになっているため、なかなか契約に結び付かない。また、中東情勢の影響により、長期にわたり客の購買意欲が低迷しないか心配である。
	□	都市型ホテル（スタッフ）	お客様の様子	・3月は歓送迎会のシーズンとなる。歓送迎会の宴席は、件数的に前年比で10%くらい多くなったものの、単価は前年よりやや下がっている。また、一般的に宴席はプラスであるが、レストランでの歓送迎会が皆無に等しく、景気が良くなっているのかどうかの判断がつきにくい。
	□	旅行代理店（副支店長）	お客様の様子	・客の様子や来店人数は余り変わらない。
	□	通信会社（社員）	販売量の動き	・いまだ予断を許さない状況ではあるが、ここ数年、右肩下がりがだったテレビサービスが下げ止まりの傾向にある。
	□	通信会社（社員）	販売量の動き	・以前よりは販売促進に経費を掛けているものの、それで現状維持が精一杯だからである。
	□	観光名所（職員）	お客様の様子	・原油価格の高騰による旅行業界への影響が懸念されるが、今のところ予約状況は堅調である。
	□	ゴルフ場（経営者）	来客数の動き	・来客数の動きは前年と変わらない。
	▲	商店街（代表者）	お客様の様子	・天候が暖かくなって外出する人が増えてくる時期だが、中東情勢によるガソリン価格高騰などもあり、観光客が少ない。
	▲	スーパー（経営者）	来客数の動き	・買上点数などから客の節約志向が見受けられる。米や野菜の価格も落ち着いてきたため、売上は伸び悩んでいる。
	▲	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・日々の来客数が減少傾向で週末は特に減少している。ガソリンの値上げから外出する人が減っているようで、例年なら天候が暖かくなれば売上も増えるが、前月より売上が減少している。
	▲	その他専門店〔酒〕（店長）	お客様の様子	・中東情勢が変化して1か月ほどになるが、日に日に状況が悪くなっている。消費者は以前から続く物価高とこうした情勢に不安を抱いているのか、飲食店も厳しい。売上自体は前年より良いものの、マインドは非常に悪く、売上の良いものとそうでないものの偏りが顕著である。価格の上昇に伴って、客の様子も大変厳しくなってきたという印象を受けている。
	▲	スナック（経営者）	来客数の動き	・送別会シーズンだが、余り予約がない。フリーの客も少なく、ランチタイムの客まで減っている。
	▲	観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・香港と中国からの客が少し動き出している。また、その他の地域からのインバウンドも前年よりも増加し始めている。首都圏客の動きが前年よりも減っているが、関西や中京圏からの客の動きは良い。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	▲	ゴルフ場（副支配人）	来客数の動き	・ガソリン価格高騰の報道の影響なのか、4月以降の予約が急激に落ち込んでいる。特に、増収が余り見込めない平日来場の高齢者の予約が良くない。
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・市の中心部にあるアーケード街では、日中でも人影のない時間がほとんどである。催事をしても盛り上がり、将来性が全くない。
	×	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・物価高の影響により悪くなっている。
企業動向関連	◎	—	—	—
(甲信越)	○	窯業・土石製品製造業（経営者）	取引先の様子	・特注品の受注対応で多忙である。
	□	食料品製造業（営業統括）	受注価格や販売価格の動き	・原油価格の高騰により、資材や原材料価格の改定要請が予想されるため、今後の経営が心配である。
	□	その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・地金の高騰で商材単価が上がったことにより、販売量は減少し、利益率は低下している。前年並みの売上は確保できているものの、状況は改善していない。
	□	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・工事の受注量が増えており、それに伴い工事単価も少しずつ増加してきている。
	□	新聞販売店〔広告〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・世界情勢の不安等から物価が上昇しており、小売店も値上げ前の需要喚起のチラシ出稿があり、小売、スーパーを中心に折込出稿は前年比で微増となっている。
	▲	金融業（調査担当）	取引先の様子	・製造業の受注環境は2極化しており、全体では原材料価格の上昇に伴う販売価格転嫁の遅れが収益を圧迫している。非製造業は観光関連は底堅いものの、中東情勢の不安定化に伴い、消費マインドに弱さがみられる。
	▲	金融業（経営企画担当）	取引先の様子	・日中関係や中東情勢の影響から、観光客が減少し、物価は上昇して、やや悪くなっている。
	×	食料品製造業（製造担当）	取引先の様子	・商材を値上げしたが、大手は価格を上げてこなかったために差が開き、当社商材の取扱量が減っている。
	×	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量は平年並みにあるものの、受注が減っており、生産予定のものも見合せとなっている。
雇用関連	◎	—	—	—
(甲信越)	○	職業安定所（職員）	それ以外	・中東情勢の緊張感が増しており、原材料や光熱費の高止まりが危惧される。一方、経済対策の迅速さなどが奏功し、直ちに足下の景況感が悪化する状況ではない。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・月間有効求人数の動きを前年同月比で見ると僅かに減少しているが、大きな変化はみられない。
	□	民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・原油不安や物価高が企業マインドを押し下げている状況は変わらない。
	▲	人材派遣会社（営業担当）	それ以外	・中東情勢の影響から、やや悪くなっている。
	▲	職業安定所（職員）	求人数の動き	・当所管内の令和8年2月の有効求人倍率は1.33倍となり、前年同月比で0.04ポイントの低下となっている。月間有効求人倍率が前年同月を下回るのは22か月連続となっている。
	×	—	—	—

6. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連	◎	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・富裕層の購買が活発である。
(東海)	○	一般小売店〔酒類〕（経営者）	来客数の動き	・飲食店への先の予約が安定して入ってきている。
	○	スーパー（店長）	来客数の動き	・販売促進の強化を図り、週末を中心に来客数が増加傾向にある。
	○	スーパー（店員）	販売量の動き	・他店と比べ安価で提供していることで競合先との差別化ができています。
	○	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・事業拡大や従業員の採用拡大のため、制服を新調する客の来店が増えている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	○	衣料品専門店 (売場担当)	販売量の動き	・衣料販売店では、2～3月がスーツ類における1番の繁忙期となる。前月や今月はレディース商品が大幅に売れた。競合他社に比べて少し安価であることや良質なことが要因とみる。また、女性ファッション誌とコラボした商品が、当店では1番高価であるにもかかわらず最も売れた。既に在庫がなくなり完売した点から考えると、ブランド力が訴求されていると判断する。メンズ商品はそうではなく、近隣のファストファッションブランドで済ませる学生も多い様子である。
	○	家電量販店(店員)	単価の動き	・高単価なノートパソコンが当たり前のように選ばれている。
	○	家電量販店(フランチャイズ経営者)	販売量の動き	・家電の2027年問題でエアコンと照明器具が売れている。また、市のクーポンも来客数増加につながっている。
	○	家電量販店(営業担当)	来客数の動き	・今月は来客数が前年よりも伸びている。3か月前と比べても、来客数や購入客数共に伸びている。
	○	乗用車販売店(経営者)	販売量の動き	・今月は決算月ということもあり、業界全体で需要が増加した。
	○	乗用車販売店(従業員)	販売量の動き	・季節性とは関係なく、全体的に動きが出てきた印象を受ける。成約も比較的多く、問合せも出てきている。今までにないくらい今月は良かった。
	○	観光型ホテル(支配人)	来客数の動き	・中国からの宿泊利用者は減少傾向である。ただし、その他の国の利用者や日本人利用者が増加し、前年を上回る水準で推移している。
	○	都市型ホテル(総支配人)	来客数の動き	・レストランは春休みのためランチが好調である。宿泊はF1と春休みが重なり繁忙期となる。宴会は歓送迎会需要が減り、他の需要がつかめず不調である。
	○	旅行代理店(経営者)	販売量の動き	・中東情勢の関係の変化が3月中旬以降であったため、春の旅行は少し良かった。
	○	旅行代理店(経営者)	販売量の動き	・ミラノ・コルティナオリンピックやWBC(ワールド・ベースボール・クラシック)が終わり、天候が暖かくなってきたため、客の動きが少し活発になっている。実施は5月以降の仕事だが、このような判断とした。
	○	美顔美容室(経営者)	販売量の動き	・最近日ざしが強くなってきているため、ホワイトニングの購入が多くあった。
	○	その他住宅[不動産賃貸及び売買](営業)	販売量の動き	・量は増えているが、それに見合った人材がいない。
	□	商店街(代表者)	お客様の様子	・インバウンドが減少したため飽和状態からちょうどよい状態になった。商店街全体がゆったりとした空間となり、飲食・物販共に売上が増加している。
	□	商店街(代表者)	お客様の様子	・客は商品購入にかなり慎重になっており、財布のひもは固い。見積りを出しても結局決まらないことが多く、厳しい状況が続いている。
	□	一般小売店[生活用品](販売担当)	販売量の動き	・3月のギフト需要が著しく落ち込んでいる。
	□	百貨店(売場主任)	お客様の様子	・春休みに入り、前月よりも来客数が増えている。新入社員や入学式用に靴を買いに来店する客が、平日少し増えた。靴のケア用品や送別品、プレゼントを買いに来店する客が増えたため、単価は低めだが、売上は少し上がっている。靴の単価は、2万円から3万5000円ほどの価格で探している客が多い。
	□	百貨店(総務担当)	お客様の様子	・常連客を中心に高額商品の購買意欲が高い。また、若年層の来店が多く、売上につながっている。朝晩はまだ寒いので、なかなか春物衣料品の動きが活発化しておらず、衣料品関係は苦戦している。中東情勢の関係で消費意欲が下がると想定していたが、今のところ大きな影響はない。
	□	百貨店(営業企画担当)	お客様の様子	・商品単価は上昇傾向だが、来客数、購買客数は増加傾向である。
	□	百貨店(販売担当)	お客様の様子	・テナントビルの施策により来客数が増え、買上につながる場面がみられた。値上げ前に購入しておきたいという客も多く、高額品の動きもあった。一時的な要因も大きく、全体として安定している状況とはいえない。また、インバウンドは低迷している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	□	スーパー（販売担当）	単価の動き	・単価の低いお買い得な商品は動きがよいが、もう1品購入する様子がみられない。値上げラッシュで客単価も上がらないのが現状である。
	□	コンビニ（企画担当）	販売量の動き	・来客数の前年割れの傾向は継続しているが、客単価の上昇により売上は前年を多少上回っている状況である。
	□	コンビニ（店長）	来客数の動き	・来客数の動き方は前年と同様で、前年よりやや微増で推移している。値上げのため売上は前年より高いが、販売数は大きく減少している。
	□	コンビニ（店長）	来客数の動き	・商品の値上げにより売上金額は前年を上回る状態が続いているが、来客数は前年比2～3%ずつ下回っている。そのため、景気が上向きなのか下向きなのかという判断はできず、どちらともいえない。
	□	コンビニ（店長）	来客数の動き	・新規の来店客が増えている。米価格の高騰でおにぎりの割高感があり、おにぎりの売上は低迷しているが、ベーカリーの販売が非常に好調である。
	□	コンビニ（商品企画担当）	お客様の様子	・中国系観光客の減少により、国内観光客が伸長傾向にあることから、土産品を含めて消費が活性化している。
	□	衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・月の前半は半額になった冬物の単品商品を購入する一見の客が多かった。一方で、月の後半はダイレクトメールを出している客ではないものの、常連客の来店が春物が動き出した。大半の客の様子から、季節ごとに洋服を購入する、買い慣れていることが見受けられた。
	□	乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・現政権になり少し良い方向に行くようにみえたが、中東情勢の関係で全てが誤算となっている。究極には悪くなっていないが、悪い方向に行っている。
	□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・少し落ち着いたが、ガソリン価格が高騰した後に電気自動車の中古車を求める客が非常に増えた。逆に新車の売行きが下降気味になり、良いとも悪いともいえない状況である。
	□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・販売停止の車種が多く、購入できる車種が限られている。また、購入できる車種も販売枠が限られているため、すぐに販売停止になってしまう。
	□	その他専門店〔書籍〕（社員）	販売量の動き	・輸入品は為替の影響により受注量が減少しているが、新年度向けの受注は平年並みに堅調である。
	□	高級レストラン（経営企画）	来客数の動き	・季節性の影響はあるが、平日の夜の動きが前年より厳しい。
	□	その他飲食〔ワイン輸入〕（経営企画担当）	お客様の様子	・物価の上昇やガソリン価格の高騰等、客との会話からは消費にネガティブな印象を受けるものの、フェアやイベントの集客は前年比で1～2%増加しており、順調に推移している。
	□	都市型ホテル（経営者）	単価の動き	・中国の渡航自粛要請による影響などが一部あるが、全体として大きな変化には至っていない。
	□	旅行代理店（経営者）	それ以外	・駅前の大規模ビルの閉店により来街者が減る。一方で、別のビル等にも人が増えている様子はない。一部のレストランは昼間帯は満席になっているが、同時間帯であっても空席が目立つ店もある。また、閉店時間を一斉に1時間前倒しにする等、人件費抑制と売上減少とのバランスを取り始めている。
	□	旅行代理店（営業担当）	お客様の様子	・中東情勢による原油価格高騰や物価高騰、また、中東や欧州の渡航不安により海外旅行の渡航者は減少している。一方で、国内旅行は旅行代金を値上げしているが、極端な旅行者数の減少は見受けられない。春の行楽シーズン到来のため花見や近郊への旅行はそれなりに需要がある。
	□	タクシー運転手	お客様の様子	・中東の情勢が不透明である。
	□	テーマパーク職員（総務担当）	来客数の動き	・今月は天候にも比較的恵まれたため、春季イベントの集客が好調であり、入園者数は月次の目標に到達した。支出面では、あらゆる費目の削減を図り、できる限りの赤字抑制に努めた。
	□	観光名所（案内係）	お客様の様子	・なじみの客が減っている。また、1人当たりの単価もこれまで3000円だったが、2000円台になっている客が多く見受けられる。
	□	パチンコ店（経営者）	販売量の動き	・前年と比べれば少し売上の減少がみられるが、計画の範囲内となっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	□	パチンコ店（従業員）	来客数の動き	・来店客の多くが高齢者層であり、来店訴求ができる要素が少ない。
	□	美容室（経営者）	お客様の様子	・客との話題が、レジャーやイベント等よりも物価高の話が多いため、景気は変わらないと判断した。
	□	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・販売量は変わらない。
	▲	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・観光バス利用の団体観光客の復活が目立ってきている。中東情勢の影響で原油価格の高騰を招き、世界情勢が大規模な国際的衝突を招きかねない様相を示しつつある。せっかくの景気回復もお先真っ暗の状況である。今月前半は好調であったが、後半は悪い。
	▲	一般小売店〔生花〕（経営者）	販売量の動き	・卒業や退職、離任式等の花は前年よりやや落ちた。お彼岸用の花も、数量や金額共に10%程度少なかった。お彼岸の売上は年々僅かではあるが減ってきている。
	▲	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・必要な物しか買わない傾向がますます強くなっており、金額に対してシビアになっていることから購入に至るまでが厳しくなっている。
	▲	スーパー（店長）	お客様の様子	・原油価格の高騰により生活防衛のための買い控えがある。
	▲	スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数が前年を超えることができていない状況である。
	▲	スーパー（店員）	単価の動き	・急激なガソリン価格の高騰が家計を圧迫しており、買い控えが発生し始めている。春を迎え暖かい気候になり、商品の劣化を考えて必要な分だけ購入する様子が見受けられた。
	▲	スーパー（店員）	来客数の動き	・競合店がオープンしたため3か月前より来客数は減っているが、大幅な減少ではない。
	▲	スーパー（販売担当）	来客数の動き	・今までより在庫数が多くなっており、来客数が減ったと判断する。
	▲	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・今までは来客数減少を値上げによる客単価の上昇で補っていたが、客単価で補い切れなくなっている。
	▲	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・例年は春先の気温が高くなる時に需要が伸びるはずのおにぎりや飲料等の販売が鈍化している。また、商品の相次ぐ値上げにより、客が必要な物以外の商品を買って控えるようになっている。
	▲	コンビニ（店長）	来客数の動き	・また一段階、来客数が減少した。値上げにより客単価が高水準となり日販数値は前年度より高いが、本来あるべき姿ではなく将来性がない。コンビニは、今や気楽に寄れる店ではなくなっている状態が散見される。
	▲	コンビニ（店長）	販売量の動き	・例年のように、気温の上昇とともに来客数は増えてきた。ただし、売上の伸びは、来客数の伸びより小さい。
	▲	コンビニ（本部管理担当）	来客数の動き	・今月の売上は前年比99.6%という結果であった。これまで継続してきた物価高の影響により、客単価の上昇が売上を支える構造が続いていたが、ついに来客数の減少幅がそれを上回り、前年実績を割り込む状況へと転じている。この来客数減少の背景には、紛争等の国際情勢の不安定化に伴うインバウンド需要の減退が関わっていると推察される。同様の現象は小売業全体にも波及し始めているとみる。いずれにしても、3か月前と比較して状況は明らかに悪化の兆しである。
	▲	衣料品専門店（販売企画担当）	競争相手の様子	・競合先にも廃業する企業が何社か出てきた。
	▲	乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・原油価格の高騰を受けガソリン価格が急騰した。政府の対策が施行された後は価格が落ち着きを見せているが、価格高騰を実際に経験すると今後に対し不安な気持ちになる。多くの生活必需品の価格がこれまで上昇している実感があるなかで、今後も上昇が続くと考えると、賃上げによる気持ちの高まりは相殺されてしまう。
	▲	乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・この時期は繁忙期であるはずだが、中東情勢による原油価格高騰の影響なのか、また、環境性能割が4月以降廃止になる影響なのか、客に車を買換える雰囲気が見られず、販売量も落ちている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	▲	その他専門店〔貴金属〕（経営者）	来客数の動き	・理由は分からないが、来客数が減少し、貴金属の売上も低迷している。金の価格高騰や円安が影響しているとみる。
	▲	一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・当店の客は高齢であるため、退職者や年金生活の人が多く、財布のひもは固い。
	▲	その他飲食〔仕出し〕（経営者）	単価の動き	・物価高の進行が徐々に影響を強めている。
	▲	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・3か月前は個人客・団体客共に来客数が前年比7～10%程度増えていたが、直近は前年比7～10%程度減少傾向にあり、景気はやや悪い。
	▲	旅行代理店（経営者）	来客数の動き	・中東情勢により海外渡航は顕著に鈍化している。国内旅行の意向があるわけでもなく、更に鈍化している。
	▲	旅行代理店（経営者）	お客様の様子	・中東情勢による運賃や燃油サーチャージの値上げ、また、一部中東経由路線の運休や燃料費高騰を見越しての運休、減便が4月以降に始まる。いつまで続くか分からないため、価格面以外にも欧州旅行の懸念が出てきている。国内需要に関しても、一時的には補助金によりガソリン価格が下がったようにみられるが、ガソリン価格の高騰など、4月以降のレジャーシーズンに不安材料が尽きない。
	▲	タクシー運転手	お客様の様子	・午前中に通院する客がなぜか少なくなり、昼間の客足が遠のいている。また、夜の繁華街の人出はそれなりにあるものの、期待できる売上につながる客が少なく、深夜になる前にバスや電車で帰宅する客が多いため、売上が悪い日が多々ある。
	▲	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・新規契約件数、解約件数共に前月、前年同月と比べて、目に見えて悪化している。
	▲	テーマパーク（職員）	単価の動き	・ガソリン代の高騰で買い控えが発生している。
	▲	テーマパーク（職員）	お客様の様子	・中国やイランからのインバウンドが減っており、燃料費の高騰で国内旅行も控える雰囲気である。
	▲	理美容室（経営者）	来客数の動き	・客が余り来ない。
	▲	美容室（経営者）	お客様の様子	・物価高騰の影響が大きい。特に石油関係だが、それ以外も全ての物に関して物価が上がっている。
	▲	その他サービス〔介護サービス〕（職員）	販売量の動き	・介護保険サービスも、価格の安い方へどんどん流れていってしまう。福祉用具のレンタル価格は、新機能搭載の新商品が出て、従来品の価格に引っ張られ、仕入れに対して適正に設定できない状況にある。
	▲	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・天候が暖かくなり、季節柄、人が動き出す時期だが、今後の工事費が上がる可能性があり、住宅ローンの金利も上がる可能性がある。このような状況で不動産購入を決めきれないとみている。ネットをみていると売却されている不動産は多い印象を受ける。売れいかず市場に残っている様子を見ると景気が悪くなっているとみる。
	▲	住宅販売会社（従業員）	それ以外	・中東情勢の行く先が不透明である。また、原油価格は我が国の全てのものに影響するため、買い控えの動きになっているとみる。
	▲	その他住宅〔住宅管理〕（経営者）	それ以外	・住宅の解体費用が継続して上昇しており、坪単価、パッカー車1台当たりの単価の両方で、2～3割高にとどまらず、ほぼ倍近く値上がりしている。どの業者に聞いても、重機を維持するためには人件費の上昇や物価高が止まらない限り経営が苦しいとの説明があった。これでは空き家がどんどん増え、空き家問題の解決には至らない。
	×	商店街（代表者）	お客様の様子	・中東情勢により、ガソリン価格が、1日にして1リッター当たり30円も上がった。そのため、物価がこの先著しく上がる不安がある。また、賃金が上がるわけではないため、今後の経済状況は厳しい。
	×	百貨店（経理担当）	それ以外	・中東情勢の緊迫化に伴う原油価格高騰が、ガソリンに加え生活用品の価格上昇を招いており、富裕層を含めた全所得者層が生活防衛に回るなど消費マインドが大きく低下している状況にある。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・3～4月は特に支出が多く、外食に利用できる金も限られてくるため、来客数が非常に減っている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	美容室（経営者）	お客様の様子	・3月に入ってもまだ寒く、客足の伸びが悪い。
	×	住宅販売会社（従業員）	それ以外	・今まで休めないといっていた下請業者が休めるようになった。
企業 動向 関連 (東海)	◎	—	—	—
	○	窯業・土石製品製造業（社員）	受注量や販売量の動き	・半導体関係の客が設備を増強したため、受注量が増えている。ニッケル水素電池関連の受注量も安定しているため、好調が続いている。
	○	一般機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・北米地域における半導体関連設備の投資意欲は衰えることなく、引き合い・受注共に好調である。
	○	輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	受注量や販売量の動き	・生産計画上の数値が右肩上がりになっているため、やや良くなっている。
	○	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3月に入り、新年度前の駆け込み需要なども功を奏してか、貨物量は例年と比較してもやや伸びている。
	□	化学工業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・AI関連データセンター向けの電子材料薬品需要が好調である。高品質容器の出荷が増加している。
	□	化学工業（総務秘書）	それ以外	・物価高、初任給アップやベースアップ、円安、株高、高い金額を目にする日々で景気の上向きがある。
	□	鉄鋼業（経営者）	受注量や販売量の動き	・関税問題や中東情勢など不確実な事柄が多すぎて、特に中小企業が設備投資などを控える傾向にあるため、鋼材の動きは極めて低調で推移している。
	□	電気機械器具製造業（企画担当）	それ以外	・今後予測される物価高に対する防御策として、前倒しの消費があったり、逆に不要不急の消費を抑えている流れがあったりと、消費拡大と縮小が同時に起きている様子で、全体としては横ばいである。
	□	電気機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・目立って悪化はしていないが、先は見通しが立たない。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・業種によって若干のばらつきは感じるが、全体量としては生産量や受注量は共に横ばいである。特に目立っているのは、船舶関係は好調を維持しており、自動車関連はやや陰りがみえることである。
	□	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・通常、3月は不動産業界にとって繁忙期だが、今年は静かな3月だった。
	□	建設業（営業担当）	取引先の様子	・インフラ業等を行っていても、値上げは必要になる。また、燃料費の高騰等も考慮すると、地域の住民を含め景気は停滞し出す。付き合いのある業者からは、販売価格や材料費が上がる人が多いと仕事がなかなか増えないと聞く。補助金の申請内容からは仕事が発生する可能性はあるが、物価高は引き続き変わらないため、景気は変わらない。どちらかという下がり気味である。
	□	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・今月上旬は荷動きが目立たなかったが、後半に入って一気に増え始めた。元々運送業は3月が繁忙期のため、終わってみれば前年並みとなる見込みである。
	□	通信業（法人営業担当）	それ以外	・観光客ではなく、我が国に住んでいると思われる外国人が増えている印象を受ける。通勤電車等、日常生活に外国人を感じるが多くなった。特にベトナムやタイ、フィリピン等、これまで我が国の物価高ゆえに日本在住を諦めていた外国人が、円安やデフレ効果の恩恵を受けて日本で仕事をしたり、勉強している割合が高くなっているとみる。外国人割合の増加は実感しているが、それに伴って景気が上向きになった感覚はなく、横ばいである。
	□	金融業（企画担当）	受注価格や販売価格の動き	・中小企業は大手ほど賃上げの体力はなく、中小企業にまで賃上げが浸透していかないと景気は良くならない。報道にあるような中小企業の賃上げは、まだごく一部とみる。
	□	不動産業（経営者）	それ以外	・例年よりも晴れの日が多いこともあり、前月までと同様に外出や遠出をする人が増加傾向にある。今月の売上は前年を上回っている。
	□	広告代理店（制作担当）	取引先の様子	・物価上昇が相変わらず続いていることもあり、広告受注における大きな変化は特になく、全体的に変わっていない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	□	新聞販売店〔広告〕(店主)	受注価格や販売価格の動き	・販売価格が下がっている商品もあるが、価格はそのまま内容量の減量等、実質的な値上げがされている商品もある。賃貸の契約更新に伴い、店舗を閉める飲食店をよく見掛ける。
	□	会計事務所(職員)	それ以外	・通っているスポーツジムの有料ロッカーが、少し前までは空きが多かったが、今は少し埋まってきている。一方、劇場公演のチケットが比較的取りやすくなっている。どこに金を使うかの違いが出ているとみるが、全体としては変化はない。
	□	その他非製造業〔ソフト開発〕(経営者)	受注量や販売量の動き	・ここ数か月、新しい仕事は発生していない。世界が不安定なため、様子見の状況である。電気自動車への信認が世界的に取れていないため、全体的に前に進めない状況である。
	▲	食料品製造業(社員)	取引先の様子	・個人消費に対しての販売に変化はないが、飲食店に対しての販売は動きが悪くなっており、飲食店に卸している一部酒販店の販売数量が低下している。
	▲	食料品製造業(経営企画担当)	受注量や販売量の動き	・原油価格高騰のニュースなどで消費者の購買意欲は更に減退している。
	▲	パルプ・紙・紙加工品製造業(顧問)	受注量や販売量の動き	・天候不順のため青果物、農産物関連が不調である。また、全ての物価が上昇し、中東情勢や中国問題等もあり、受注量や販売量が一般的に減少している。そのため、景気はやや悪い。
	▲	金属製品製造業(従業員)	取引先の様子	・協力工場や同業間では、仕事量が減りつつあるという声が多く、仕事の取り合いになりかねない。
	▲	電気機械器具製造業(経営者)	取引先の様子	・現在、客先業界の景気は良くない。設備投資に慎重であるため、全体として出荷が減っている。また、仕入価格の高騰が販売価格へ転嫁できないため、仕入価格の高騰が大きなダメージとなっている。
	▲	輸送用機械器具製造業(管理担当)	それ以外	・中東情勢の影響でガソリン代が高い。そのため、出勤や外出に対しての負担が増えている。
	▲	輸送業(経営者)	それ以外	・中東情勢の影響により軽油価格が乱高下している。インタンク向けのローリー価格がスタンド価格を30円上回る逆転現象が発生している。また、この値段で今発注しないと供給保証できない等、卸からの情報が二転三転している。荷主も現段階で燃料サーチャージに応じる気配はない。いずれにしてもコストアップしており、大変厳しい。
	▲	輸送業(従業員)	受注量や販売量の動き	・国内物量が製造業を中心に落ち込んでいる。
	▲	金融業(従業員)	取引先の様子	・女性が首相になったということで、新たな希望の兆しがあったが、今回の中東情勢の影響により、ガソリン価格が高くなり、国民の負担が大きくなってきている。当地域は車社会であるため、特にこのような状況が生活費を圧迫することになる。そのことから、現在の景気は余り良くないと判断する。
	▲	金融業(従業員)	それ以外	・身の回りの様子から、中東情勢の緊迫化により景気が悪くなり、物価の上昇も続いていると考える。
	▲	公認会計士	取引先の様子	・中東情勢の影響により、個人消費を中心に消費意欲が減っている。特に石油の値上がりにより輸出入産業や運送業などは利益率が悪化している企業が多い。コスト削減の方向にかじを切る企業が増えており、アウトソーシングなどを解約し内製化する企業も増加傾向にある。
	×	金属製品製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・販売数量が減少しており、仕入れがしにくい材料が出てきている。
	×	通信業(総務担当)	それ以外	・身近な購買品と生活必需品の価格高騰で、生活に余裕がない。特に食用油、自動車燃料が中東情勢の影響を大きく受ける。予想外の世界情勢が影響し、景気に明るい話題がない。
雇用 関連 (東海)	◎	—	—	—
	○	人材派遣業(営業担当)	周辺企業の様子	・中東情勢により原油価格高騰の影響を受け、中小企業を中心に業績悪化の傾向がある。ただし、政府のガソリン補助金等の支援により、最悪の流れにはなっていない。
	○	人材派遣会社(社員)	求人数の動き	・送別会の利用が多く、また、新年度の新社員研修が増えている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	□	人材派遣会社 (営業担当)	採用者数の動き	・年度末に向けて求人数は増加傾向である。ただし、求職者数は微増で、採用数は例年のような増加が見込めない状況である。
	□	人材派遣会社 (営業担当)	それ以外	・世界情勢の混乱などで、不安定な状況が続いている。
	□	アウトソーシング企業 (エリア担当)	周辺企業の様子	・自動車販売数は前年の横ばいで推移した。ただし、中東情勢の影響により、今後は情勢緊迫化がガソリン価格の高騰や部品供給における生産体制に影響を及ぼし、販売にブレーキが掛かると懸念される。
	□	新聞社 [求人広告] (営業担当)	周辺企業の様子	・物価高やエネルギー不安のため会社の業績に影響がありそうだが、求人活動への影響は限定的にみえる。
	□	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・新規求人数は3か月前と比較して、全体的に7.14%の増加状況であった。産業別では、建設業、卸売小売業、宿泊業・飲食サービス業や教育・学習支援業、複合サービス事業の新規求人数が増加し、運輸業・郵便業、生活関連サービス業・娯楽業の新規求人数は減少となった。
	□	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・人手不足は継続しているにもかかわらず、求人数は減少している。物価の高止まりや人件費高騰等、求人を手控える要素が多いことに起因している。
	□	職業安定所 (職員)	周辺企業の様子	・少なからず物価高の影響を受けているものの、求人状況に対して直接の影響はみられない。一方で、大手企業を中心とした初任給の大幅な引上げにより、学卒の採用が難しくなっているという声がある。
	□	職業安定所 (職員)	求職者数の動き	・最近の求職者数は、増減はあるものの大きな変動はみられず、前年同月比ではもおおむね横ばいで推移している。そのため、身の回りの景気が大きく好転や悪化している印象は受けない。また、新規求職申込件数も前年同月と比べて急激な増加や減少はなく、雇用情勢として安定している。企業側の求人動向も一部で増減があるものの、総じて大きな流れの変化はみられない。
	□	職業安定所 (職員)	それ以外	・有効求人倍率に大きな変動はみられない。
	□	民間職業紹介機関 (営業担当)	求職者数の動き	・年度をまたぐタイミングのため求職者数の転職活動意欲は徐々に減退している。また、法人側も利益確保の観点で、来期中途採用において厳選採用方針を進める声も出ている。
	▲	人材派遣会社 (営業担当)	求人数の動き	・自動車関連の求人ニーズは一定数ある。ただし、年度の変わり目で予算の見直しを行い、4～5月での業務終了が急ぎよ決まる事案もあった。
	▲	職業安定所 (職員)	周辺企業の様子	・管内の中心産業であったアパレル製造又は卸売業の廃業等が年度当初から引き続き発生していることや、それ以外の建築業といった産業での廃業等が複数発生した。
	×	人材派遣会社 (社員)	求職者数の動き	・1～2月と比較すると新規登録者数は増加傾向にあるものの、同業他社との競合や転職意向が低い求職者の登録が目立ち、成約に至らないケースが多い状況である。

7. 北陸 (地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所)

(－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北陸)	◎	－	－	－
	○	商店街 (代表者)	来客数の動き	・売上は前年同月比で約14%増加し、好調である。客層の内訳には劇的な変化がみられる。前年は売上の柱だった中国からのインバウンドによる免税売上が9割以上減少したが、日本人観光客の購買が増えて約5割増加している。また、インバウンドも台湾、米国、欧州、中南米など多様化が進んでおり、特定の国に依存しない安定した収益構造へ移行している。また、高額な当地の伝統工芸品を求める国内客の購買意欲は極めて強く、景気に底堅さがみられる。
	○	一般小売店 [鮮魚] (経営全般)	販売量の動き	・節約志向はいまだ強いが、個人消費は緩やかに持ち直していると考えられる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	○	コンビニ（店長）	販売量の動き	・今月は本部主導で実施したキャンペーンが功を奏し、前年、前々年と比較して販売量が増加している。この傾向は年始から続いており、売上を押し上げている。ただし、販売量増加に伴い食品の廃棄量も増えている。また、人件費の負担が増加していることもあり、一概に収益状況が改善しているとはいえない。
	○	家電量販店（店長）	販売量の動き	・県による省エネ家電購入応援キャンペーンにより、客の買い控えが弱まっている。
	○	その他小売 [ショッピングセンター]（統括）	来客数の動き	・リニューアル実施により広域からの来客数が増加している。春休み期間はファミリー層の外出先としての需要も見込める。
	○	観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・今月は3連休もあり、前年比では5%ほど売上が増えている。
	○	通信会社（役員）	販売量の動き	・通信、放送サービス共に契約数が前年同期と比べて増加している。解約数も若干減少している。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・4月からの新生活準備のため、中旬以降は洋服やアクセサリーを扱う買回品店を訪れる来街者の姿が目立っている。週末の人出も多く、特に飲食店がにぎわっている。
	□	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・前年は、2月の大雪による外出控えの反動があり3月に特需があった。今年は前年の特需分をカバーするため、様々な企画を投入し危機感を持って取り組んだが、前年実績を若干割り込む見込みである。
	□	百貨店（販売担当）	お客様の様子	・富裕層において資産価値のある高額品の購買意欲が高く、店舗全体の売上を底上げしている。一方、一般客は以前にも増して購買に慎重さが目立っており、必要かどうかをしっかりと見極めて購入している。曜日周りの影響か、ホワイトデーの返礼ギフトの売上も低迷した。年度末に多いお礼や祝いのためのギフトは、商品単価が上昇しているため前年並みの売上ではあるが、主力アイテムの菓子の購買客数が3%強低下している。
	□	スーパー（総務担当）	お客様の様子	・ガソリン価格高騰等の影響もあり、米の価格が下がっても状況は変わらない。
	□	コンビニ（店舗管理）	来客数の動き	・月初めから来客数が堅調に推移しており、半数の店舗で前年を超えている。
	□	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・全体的に大きな変化はない。消費に対する客の慎重な姿勢が続いている。
	□	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・客の節約志向が強く、売上が上がらない。
	□	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・3か月前くらいから上向きの気配があったが、中東情勢の影響により不透明な経済状況になっている。消費動向にも影響があるとみている。
	□	家電量販店（本部）	販売量の動き	・全体として堅調である。今月初旬に世界的なスポーツイベントがあった影響によりテレビの売上が増加するなど、景気回復の傾向がみられる。
	□	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・通常は販売量が増える時期だが、前年を下回る状況が続いている。自動車の購入に対する客の慎重な姿勢は変わらない。
	□	乗用車販売店（経理）	販売量の動き	・従来であれば3月は決算時期であるため、3か月前と比較すると上向きになるはずだが、車両の生産台数に制約があることに加え、環境性能割の影響により販売台数が減少している。
	□	住関連専門店（役員）	来客数の動き	・本来週末は来客数が増えるが、催事や企画を実施していないときの来客数は決して多くない。催事を行ってもこれまでのような来客数は見込めない。
	□	その他専門店 [酒]（経営者）	販売量の動き	・4月からも値上げが続くようだが、これ以上景気が悪くならないように願っている。
	□	スナック（経営者）	来客数の動き	・月の前半は良くなかったが、後半は団体客が入ったため、何とか経営ができてきている状態である。客からは景気が良くないという話を聞いている。
	□	観光型旅館（経理）	それ以外	・2024年1月1日に発生した能登半島地震以降休業状態が続いており、営業再開までかなりの期間を要する。
	□	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・団体旅行の受注状況から景気は変わらないとみている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	□	通信会社（職員）	お客様の様子	・客の様子に変化がない。
	□	美容室（経営者）	来客数の動き	・来客数が前年比では5%程度落ち込んでいる。来店サイクルが伸びているのが大きな要因である。ガソリンを始めとした物価の上昇や株価の下落で、消費者の財布のひもが固い。
	□	住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・日用品や食料品などの値上げで先行きに不安があるため、新築住宅の受注は厳しい状況である。ただし、能登地域での新築住宅、リフォームの注文や中古住宅の購買意欲は変わらず強い。施工能力は追い付きつつある。
	□	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・住宅展示会の開催時期に入り来場が期待できるが、客の動きが鈍い。
	□	住宅販売会社（営業）	来客数の動き	・インフレの影響はみられるものの、来客数自体に大きな変化はない。企業環境としては不利な要素が多いが、客の動きに余り変化はみられない。
	▲	一般小売店〔精肉〕（店長）	単価の動き	・前月から傾向はあったが、牛肉の動きが非常に良くない。特に和牛の動きが悪く、客単価が下がっており、売上の良くない状態が続いている。豚肉と鶏肉の動きは非常に良いが、牛肉の動きの悪さが目立っている。
	▲	一般小売店〔書籍〕（従業員）	お客様の様子	・原油価格高騰の影響が大きい。
	▲	百貨店（販売促進担当）	それ以外	・消費者が生活にどの程度余裕を持てるか、先行きが不透明である。賃上げの動きがある一方で、中東情勢の影響により物価が上昇し株価が下落するなど、状況が両極端である。また、人口減少に加え、ネットショッピングや交通アクセスの向上により都市部での購買が増えていることで、来客数の減少傾向が続いている。
	▲	スーパー（仕入担当）	単価の動き	・新年度から価格改定が多く、値上げ幅の大きい商材が多いため、来客数や販売数に影響が出ている。
	▲	スーパー（役員）	単価の動き	・客の節約志向が顕著である。青果は前年の相場高が収まり今年は1品単価が低い状態で、買上点数が伸び悩んでおり、客単価が前年を下回っている。
	▲	乗用車販売店（総務担当）	お客様の様子	・中東情勢の影響によりガソリン価格が急騰し、客が節約志向を強めている。
	▲	一般レストラン（統括）	お客様の様子	・原油の供給不足など世界情勢が不安定で、日本経済の先行きが見えない。不安が消費者の行動に出始めており、ガソリン供給不足の報道後は、春休み期間にもかかわらず、外食をする客の数が減っている。
	▲	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・今月は宿泊・宴会、食堂部門の全てが前年割れとなっている。好調な欧州からのインバウンドは一部中東の国際線の運航停止により直前にキャンセルが発生している。また、宴会部門は予約件数の少ない状況が続いている。
	▲	タクシー運転手	来客数の動き	・週末を中心に観光客が増えているが、3か月前の12月が非常に良かったため現在はやや悪い。
	▲	タクシー運転手	来客数の動き	・燃料価格の高騰と物価高に伴って人の動きも悪くなっている。
	▲	テーマパーク（役員）	来客数の動き	・物価高の影響か、個人客や団体客の動きが前年同月と比べてやや悪くなっている。
	▲	競輪場（職員）	販売量の動き	・原油価格が高騰してから、売行きが悪くなっている。客の経営する事業や株式、不動産取引における業績悪化により、娯楽に回す資金が減少していることが一因と考えている。
	▲	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・例年2月中旬の雪解け以降は土地の需要が増えるが、今年は問い合わせが少なく購買意欲が高まっていないようである。情報が少なく、契約数も増えない状況である。
	×	商店街（代表者）	それ以外	・商店街のなかにある百貨店では前年から空きスペースがみられるようになっていたが、ついに看板アパレルブランドが撤退した。打つ手が無い状況である。
企業動向関連	◎	—	—	—
(北陸)	○	電気機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・車載関連製品を中心に受注が堅調である。産業用機器関連製品の受注も復活し、全体的に上向き感が出ている。また、民生用関連製品に動きもあり、この後の受注増加を見込んでいる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	○	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ 当社の決算は6月末だが、2月末の時点で完成工事高、営業利益とも当初予算を上回っている。
	○	通信業（営業）	受注量や販売量の動き	・ 3か月前と比べると、株価が上昇し不安材料がなかったため、景気は好調に推移している。投資も拡大している。
	○	税理士（所長）	取引先の様子	・ イベントが多くなり人出が増えたことで、1～2月は厳しかった飲食業の売上が戻っている。最近の世界情勢により、中東地域向けの自動車輸出事業は出荷を停止せざるを得ない状況になっている。
	□	化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・ 受注量は3か月前と比べて変わらず推移している。
	□	建設業（役員）	取引先の様子	・ 最近の中東情勢に伴う石油価格の上昇により、一部の取引先で設備投資中止の話が出ている。
	□	輸送業（管理会計担当）	受注量や販売量の動き	・ 物量に変化がない。
	□	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ 同業者からは余り活発な話を聞かない。
	□	司法書士	取引先の様子	・ 規模の大きい企業からは事業用地取得や建物取得の依頼が複数あるが、小規模の事業者からは資金難に関する相談が多い。
	▲	食料品製造業（経営企画）	受注量や販売量の動き	・ 能登半島地震での被災から3年目となるが、依然として震災前の売上を大きく下回って推移している。国内では業務用商品の不振が大きく、海外向けでは中国への輸出停止の影響が大きい。
	▲	繊維工業（総括）	受注量や販売量の動き	・ これまで好調であったスポーツやアウトドア用途に服感がみられる。さらに、中東情勢の緊迫化により輸入糸が値上がりしているほか、調達が困難となっている薬剤などがあり、経営や生産に支障が出始めている。
	▲	輸送業（経理）	それ以外	・ 燃料価格の高止まりにより、景気がやや悪くなっている。
	▲	金融業（融資担当）	取引先の様子	・ 中東情勢の影響により急激に原油価格が高騰している。足元では燃料価格の高騰と、企業の投資や個人の消費マインドの低下がみられる。人材確保のために人件費が増加する一方で、コストの増加分以上の価格転嫁ができず、決算はおおむね増収減益の企業が多い。
	×	—	—	—
雇用関連	◎	—	—	—
	○	*	*	*
(北陸)	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・ 求職者数、紹介件数、就職者数に大きな変化はないが、前年同月と比べて有効求人数や有効求人倍率が徐々に下がり続けている。人件費、原材料費、燃料費、水道光熱費の高騰などが影響している。円安の恩恵を受けて海外取引を行っている企業は、売上や利益を伸ばしているが、中東情勢による原油価格高騰で、不安感が増している。
	□	民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・ 中小企業のなかに人手不足感の強い業種はあるものの、求人数に大きな増減はみられない。高齢者や短時間勤務希望の求職者とニーズが合致せず、マッチングには至っていない状況である。
	▲	人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・ 新たな派遣依頼がある一方で、全体数は減少している。
	▲	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・ 景気は持ち直しているといわれているが、物価上昇が足かせとなり景気が良くなっている実感がなく、高齢者を中心に求職者数が増加している。
	×	—	—	—

8. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所株式会社）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連	◎	通信会社（役員）	来客数の動き	・ 携帯電話のキャリアショップの運営では、春商戦に加えて、特定キャリアの3Gサービス終了に伴う買換え需要が重なった。その結果、来客数、成約数共に、例年を上回る実績で推移している。
(近畿)	○	商店街（代表者）	お客様の様子	・ 春休みに入って、昼間の人出が多くなっている。ただし、売上の増加には余り結び付いていない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	○	一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	来客数の動き	・国内需要は伸び悩んでいるが、3月に入ってインバウンド需要が好調となり、国内需要の悪化を十分にカバーしている。
	○	一般小売店〔菓子〕（営業担当）	販売量の動き	・人の動きが良くなり、販売量も少し増えている。
	○	百貨店（売場主任）	販売量の動き	・店全体としては、3月25日現在で来客数が前年比3.0%減で、売上は3.7%増となった。1人当たりの販売量が伸びて、買上単価が上昇している。食料品の売上も、25日までで8.4%増と好調を維持しており、当面はこの傾向が続くと予想される。
	○	百貨店（企画担当）	販売量の動き	・中国の渡航自粛により、前月の免税売上は非常に厳しかったが、3月に入り回復傾向となっている。前月の中国のインバウンドによる免税売上は、前年の3分の2程度であったが、今月は前年比での減少率は1けたにとどまる。一方、中国以外の免税売上は大きく増加しているほか、国内売上も外商、それ以外共に前年を上回り、堅調に推移している。
	○	百貨店（広報担当）	販売量の動き	・比較的安定した気温により、春物ファッションが好調に推移し、国内客の売上は前年を上回る見込みである。インバウンドについては、中国からの動きが引き続き低調である一方、円安傾向も背景に、富裕層や中国以外のインバウンドが堅調で、前月比ではやや回復している。
	○	百貨店（サービス担当）	お客様の様子	・今月もイベントや催事、食料品フロアのリニューアル効果によって好調に推移している。また、中国からのインバウンドが減少するなかで、国内客の売上は前年比で増加している。
	○	百貨店（販売推進担当）	販売量の動き	・月初めから暖かい日が続く、例年苦戦していた春物衣料品が今年は好調である。インバウンド売上も前年の実績を確保できたほか、食料品部門でも週替わりの期間限定店の導入で、来客数の増加につながり、店全体でも前年の売上を確保できている。
	○	スーパー（店員）	お客様の様子	・お彼岸は天候も良かったため、墓花がよく売れたほか、果物もよく売れた。野菜の価格も、春野菜が出て少し下がってきたため、売れている。
	○	スーパー（社員）	単価の動き	・競合店の出店で、来客数が前年を下回っている店舗は多い。それでも単価の上昇が続いているため、堅調な売上につながっている。
	○	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・レジの全面セルフ化などにより、客を待たせない体制を整え、効率化を図る。商品に関しては価格が比較的安い冷凍食品を多く置き、売上の増加を狙う。
	○	コンビニ（店員）	来客数の動き	・観光客はいつも多いが、3月中旬頃からは団体での観光客がかなり増えており、家族客と若年層のどちらも多くなっている。
	○	家電量販店（人事担当）	販売量の動き	・コロナ禍で動きが抑制されていた新生活需要が回復してきた。遠方への進学や就職の動きが戻り、新生活に必要な小型冷蔵庫や洗濯機がよく動いている。
	○	乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・景気が良いとは判断できないが、販売量は少しずつ増えている。中東の海峡問題によるガソリン価格の高騰といったマイナス面もあるものの、電気自動車に興味を持つ客が増加している。
	○	その他専門店〔ドラッグストア〕（店員）	来客数の動き	・天候も比較的良く、来客数が伸びた。花粉症関連商品の売行きが特に良く、肌のトラブルに対応した基礎化粧品などの売上も伸びている。
	○	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・今月は気候が安定していたため、特にランチタイムの来客数が伸びている。
	○	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・企業が年度末を迎え、宴会の需要が増えている。加えて、事前予約のない10人未満のグループ利用も多く、来客数は前年を大きく上回っている。
	○	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・直営店の来客数が増加傾向にあるほか、卸売でも各喫茶店への販売量が伸びている。
	○	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・3月は春休みで、来客数が元々多い時期であるが、今年は前年を若干上回るほど好調であった。この時期は団体客ではなく、個人客がほとんどであるが、国内外からの多くの客で賑わった。天候が安定していたこともプラス要因となっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	○	都市型ホテル (客室担当)	販売量の動き	・利用客の外国人比率をみると、以前よりもインバウンド需要が増加傾向にある。中国からのインバウンドは減っているが、それを補うように台湾や欧米からのインバウンドが急増している。
	○	通信会社(社員)	販売量の動き	・米動画配信大手によるWBC(ワールド・ベースボール・クラシック)の放送効果で、加入者が10%程度増加している。
	○	通信会社(営業担当)	販売量の動き	・年度末の繁忙期であり、インターネットサービスの販売は3か月前比で110%となる見込みである。
	○	住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・購入意欲が高まっている。
	□	一般小売店〔化粧品〕 (経営者)	販売量の動き	・3月に入り、ギフト需要と春の新品メイク商材が出てくる時期となり、2月に比べて売上は回復し、前年比で102%となった。ただし、月の前半と中盤は好調に推移したが、土曜日が1日少ない影響もあり、後半は失速している。ギフト需要は伸びたものの、来客数が伸びなかったため、基礎的な商材の売上が鈍化した。材料費の上昇分はまだ価格に反映されておらず、今後は更なる値上げとなるが、この3年間で3割ほど値上げした商材も多く、既に販売への影響が出ている。
	□	一般小売店〔雑貨〕 (店長)	お客様の様子	・社会情勢が良くない。
	□	一般小売店〔呉服〕 (店員)	単価の動き	・着物の動きは良くなく、自分の振り袖をクリーニングもせず、娘に着せる人が増えている。
	□	一般小売店〔書籍〕 (管理担当)	販売量の動き	・従来と同じ水準で推移している。
	□	百貨店(売場マネージャー)	来客数の動き	・免税売上を中心に増加傾向にあるものの、中東情勢による影響などを懸念する声も多く、景況感の大きな変化はみられない。
	□	百貨店(外商担当)	販売量の動き	・中国からのインバウンドが減少し、インバウンド売上全体が落ち込んでいる。中東情勢の影響により株価が低下し、富裕層の消費マインドも従来と比べて下がっている。ただし、海外の高級ブランドに対する需要は続いている。
	□	百貨店(マネージャー)	来客数の動き	・12月以降、売上、来客数共に好調であり、3月の来客数は前年比で4.0%増と、12月の増加率を上回る推移となっている。ただし、前年の3月は食品売場の改装工事で売上が減少していたこともあり、実質的に大きな変化はない。
	□	百貨店(外商担当)	お客様の様子	・イラン情勢や日中関係の変化など、外部環境による影響が懸念されるが、富裕層の動きは堅調なままで安定している。
	□	百貨店(営業推進担当)	来客数の動き	・前年の秋以降、来客数は増加傾向にあり、食料品は良い動きとなっている。
	□	百貨店(販促担当)	販売量の動き	・春らしい気候となり、ファッション関連の動きは堅調となっているほか、ホワイトデーやひな祭り、卒業等に伴う需要も好調に推移している。株価が不安定なため、富裕層の一部に慎重さがみられるものの、大きな影響は出ていない。
	□	百貨店(商品担当)	お客様の様子	・海外情勢の変化や、資材価格や物価の上昇、為替や株価の変動による影響があると推察される。3月は前半が好調で、後半は不調という両極端な動きとなったため、景気を判断しにくい。
	□	百貨店(商品担当)	お客様の様子	・国際情勢が不透明ななか、株価の低迷で消費者心理が悪化している。ただし、直近はインバウンド売上が回復傾向にあり、根本的な改善ではないものの、売上の前年比はプラスで推移している。催事場の物産展についても好調に推移している。
	□	百貨店(宣伝担当)	来客数の動き	・引き続きインバウンドの来客数が減っているほか、様々な商品の価格改定があり、国内客の消費も落ち込んでいる。特に、金やプラチナといった地金の価格上昇により、一部の投機要素の強いブランドを除き、中間価格帯の宝飾アクセサリや時計の販売が苦戦している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	□	百貨店（マネージャー）	お客様の様子	・中間層の様子をみると、節約志向による選択消費の動きは変わらない。時期的なイベント消費などは好調であるが、消耗品はコストパフォーマンスを意識した行動が目立つ。一方、富裕層は宝飾、時計を中心に得意客向けイベントが好調に推移している。免税売上は地域的な恩恵もあって増えているが、全体では微増にとどまる。
	□	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・来客数は安定しており、大きな変化はない。
	□	コンビニ（経営者）	単価の動き	・現状、景気の実感は余り良くなく、前年比での動きも良くない。
	□	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・生活必需品の購入が中心のため、大きくは変わらない。
	□	コンビニ（店員）	来客数の動き	・来客数、客単価共に、大きな変動はない。
	□	衣料品専門店（店員）	単価の動き	・物価上昇の影響で、早々にセール品を出すなどして、何とか売上目標が達成できている。
	□	乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・中東情勢がどうなるか不透明である。
	□	乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・年度末の活気はなく、販売も限定的である。自動車税の環境性能割廃止を前に、買い控えが発生している。
	□	乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・自動車税の環境性能割の廃止を前に、3月の登録は減少しているが、4月に持ち越しているだけであり、景気自体に変化はない。
	□	その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	お客様の様子	・物価の上昇により、消費者の関心が宝飾品の方に向いていないのは明らかである。
	□	その他専門店〔医薬品〕（管理担当）	販売量の動き	・気温の上昇に伴い、医薬品や健康食品は低調に推移したが、カウンセリング化粧品や化粧雑貨の動きは顕著に上向いている。食品や日配品などの生活必需品も順調に推移しており、3か月前と比較して買上点数に大きな変化はないが、客単価や商品単価は上昇している。
	□	その他小売〔インターネット通販〕（オペレーター）	販売量の動き	・中東情勢の問題で、使い捨てグローブの注文が殺到することを予想し、購入制限を設けているが、それほど注文は入っていない。
	□	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・全体的な来客数は大きく変わらないが、春ということで、祝いの食事会が多い。
	□	その他飲食〔洋菓子〕（管理担当）	来客数の動き	・全店の傾向としては、売上は前年を上回っている。ただし、当店は駅前の動線の変化により、前年比で90%という水準であり、この状況は5月まで続く見込みである。
	□	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・中東情勢の問題による影響はみられない。
	□	都市型ホテル（管理担当）	お客様の様子	・政策が実を結んでいるかどうかは判断しにくい。まだこれからではあるものの、今のところは余り実感できていない。
	□	タクシー運転手	単価の動き	・例年、年度末は売上が増えるが、今年に入って全ての商品で値上げが進んでいるため、所得の増加が追い付いておらず、夜間のタクシー利用率が低下している。
	□	通信会社〔貴金属オークション〕（経営者）	販売量の動き	・最近のイラン情勢の変化で、中国に対する売行きが鈍化している。オークション事業の動きもそれに連動する形となり、3か月前比で業績は横ばいとなっている。
	□	テーマパーク（職員）	単価の動き	・せっかくガソリン価格が下がったところに、予期せぬ事態で再び価格が高騰している。中東情勢の問題が長期化すれば、夏の電力供給にも大きな影響が出る。
	□	競艇場（職員）	販売量の動き	・前月よりも伸び幅は縮小しているが、インターネット投票の売上が拡大し、前年比で6%前後の伸びとなっている。一方、単価は大きく変わっていない。
	▲	商店街（経営者）	販売量の動き	・閉店する店が増えている。
	▲	一般小売店〔衣服〕（経営者）	販売量の動き	・前月末頃から消費者の買い控えが目立ち、販売量が減っている。来客数も減少傾向にあるなど、景気の悪化傾向が高まっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	▲	百貨店（売場統括）	お客様の様子	・前年は実施していなかった特典の販売促進効果により、免税売上は前年比で2けた増となった。一方、年明け以降は前年を上回っていた国内現金客の売上が減少に転じた。これまで堅調に推移してきた外商売上も減少しており、3か月前と比べて景気は全体的にやや悪化している。
	▲	スーパー（経営者）	単価の動き	・燃料代や物価の上昇で、客の低価格志向が強まっている。
	▲	スーパー（店長）	お客様の様子	・来客数は悪くないが、物価上昇の一方で客単価は下がっているなど、客が価格の安い商品を買っている可能性がある。
	▲	スーパー（店長）	販売量の動き	・食品価格の上昇とともに、ガソリン価格の高騰が買い控えに影響を及ぼしている。
	▲	スーパー（企画担当）	お客様の様子	・商品価格の値上げによる影響のほか、米価格の低下予想などで買い控えが発生している。消費者の購入意欲が高まらず、買上点数、売上共に厳しい状況にある。
	▲	スーパー（経理担当）	販売量の動き	・中東情勢の変化による影響で、ガソリンや公共料金などの値上げがこれまで以上に大きくなると、消費者が意識している。食費に回せる予算が減少するため、売上の確保が難しくなる。
	▲	スーパー（販売促進担当）	来客数の動き	・以前から来客数と販売量の苦戦が続いていたが、イラン情勢の変化による物価の上昇や、紛争の長期化懸念による生活防衛意識の高まりで、財布のひもがより一層固くなっている。コストの増加による販売価格の上昇で、売上は前年を上回っているが、来客数と販売量の落ち込みがその効果を打ち消している。
	▲	スーパー（企画）	お客様の様子	・チラシの掲載商品でも、割安感の高い商品への反応が強いなど、財布のひもは固い。
	▲	コンビニ（店長）	来客数の動き	・インバウンドが減っているほか、インフレで商品価格も上昇している。
	▲	コンビニ（店員）	お客様の様子	・相次ぐ値上げの影響で、1日の食事を全てコンビニで購入する客がやや減少している。スーパーで買物をした後に、家から近いコンビニで、重たい商品を買いたす客もみられる。
	▲	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・前年や3か月前と比べて、単価は少し低下し、来客数は大幅に減少している。
	▲	家電量販店（店員）	お客様の様子	・中東情勢の問題で物価の上昇や燃料費の高騰が進み、客の購買意欲の低下や景気の後退につながっている。少しでも安価な物を、必要最低限だけ購入する動きが目立つなど、景気は悪化傾向にある。
	▲	家電量販店（営業担当）	それ以外	・業務で自動車を使うため、原油価格の高騰は利益の圧迫に直結する。
	▲	乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・原油価格の高騰や物価の上昇で、消費が本当に冷え込んでおり、価格の安い商品を探して購入する客が多い。
	▲	乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・今月は売上目標を下回る見込みである。例年3月は新車の販売台数が多いが、今年は平常月よりも少なく、厳しい状況にある。自動車税の環境性能割の廃止前という事情もあるが、それだけではなく、新車への買換え需要自体が減少している。中古車の販売台数は好調を維持しているため、価格上昇の影響もある。
	▲	その他専門店〔食品〕（経営者）	販売量の動き	・値上げの影響で販売量が落ちている。インバウンド消費はみられるものの、一部の地域に限られており、売上全体を支えるほどではない。
	▲	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経理担当）	それ以外	・中東情勢の変化が、今後の景気に影響を及ぼすとみられる。既に重油などが不足し、工場や病院、宿泊施設などのボイラーを使用する施設では、円滑な調達ができなくなっている。今後は工場等の操業停止のほか、物流コストの高騰、商品価格の改定などによる、物価の上昇が予想される。
	▲	一般レストラン（店主）	それ以外	・これまでの物価上昇に加え、原材料価格やガソリン価格の上昇もあり、客の動きにもかなり影響が出ている。
	▲	一般レストラン（企画）	販売量の動き	・売上の前年比は105%を維持しており、前月とほぼ同水準で推移しているが、3～4か月前と比べると失速している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	▲	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・予約の入込が悪くなっている。
	▲	都市型ホテル（客室担当）	販売量の動き	・中東情勢の変化により、稼働率が下がり気味である。中国からのインバウンドが減少する懸念から脱したものの、厳しい状況にある。
	▲	都市型ホテル（客室担当）	来客数の動き	・来客数は増加しているが、販売価格が伸び悩み、前年を下回る状況である。物価の上昇に伴って経費が増え、利益を圧迫している。
	▲	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・国内客が海外旅行を控える傾向にある。
	▲	旅行代理店（役員）	来客数の動き	・イラン情勢の変化により、欧州ツアーの催行が中止となるなど、海外旅行の受注に影響が出ている。また、国内旅行の受注件数についても、前年比で約7割となっている。
	▲	旅行代理店（支店長）	お客様の様子	・イラン情勢の変化による原油価格の上昇や、そこから派生する物価上昇により、客の旅行マインドが完全に守りに入っている。例年はゴールデンウィークに必ず旅行する客も、今年はやめておくといった姿勢になっている。
	▲	通信会社（経営者）	お客様の様子	・原油価格や原材料価格の高騰により、利益が圧迫されている。
	▲	競輪場（職員）	単価の動き	・今月の客単価は8115円と、3か月前の8190円を下回っている。
	▲	その他レジャー施設〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	お客様の様子	・3か月前と比べると、インバウンドの多いスキー場の営業が終わり、来客数は減少する傾向にあるが、景気そのものに変化はない。
	▲	美容室（店員）	来客数の動き	・客の来店周期が長くなっている。
	▲	その他サービス〔学習塾〕（スタッフ）	お客様の様子	・例年と比べて、急な退会者が増えている。
	▲	住宅販売会社（経営者）	単価の動き	・資材価格の高騰が再び始まっている。
	▲	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・郊外の新築分譲マンションと都心部の中古マンションで、それぞれ2億円を超える物件の動きが鈍化している。
	▲	住宅販売会社（企画担当）	それ以外	・世界情勢が不安定ななか、物価の上昇で顧客心理も慎重になっている。
	▲	その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	それ以外	・賃金の増加を物価の上昇が上回っているほか、世界情勢の不安定化が響いている。
	▲	その他住宅〔展示場〕（従業員）	お客様の様子	・住宅ローン金利の上昇傾向に加え、最近の中東情勢の変化による原油価格の上昇やインフレの影響もあり、住宅購入に対する姿勢がやや慎重化している。
	▲	その他住宅〔住宅設備〕（営業担当）	単価の動き	・ガソリン価格の高騰がとにかく厳しい。当社は作業員1人で自動車1台を利用しており、月間250リットルを購入するため、1リットル当たり190円を超えた際などには、先行きの不安が高まる。
	▲	その他住宅〔情報誌〕（編集者）	お客様の様子	・中東情勢の変化で原油価格が高騰し、物価や建築コストの更なる上昇が顕在化している。不動産の購入検討客が慎重な姿勢を強めているほか、金利も上昇する見込みのため、実需物件の動きも鈍い。
	×	一般小売店〔時計〕（経営者）	来客数の動き	・天候不順の影響か、3月に入って急速に客足が遠のいたが、やはり世界情勢の不安定化による影響は大きい。連日の報道で、他人事ではない危機感があるほか、新年度に向けた期待感も全くなく、世の中が冷え込んでいる。月次の様々な数字とともに、気力も落ち込んでいる。
	×	一般小売店〔野菜〕（店長）	販売量の動き	・物価が上昇しているため、客が商品価格に敏感になり、安い商品は購入するが、定価の商品には買い控えがみられる。
	×	一般小売店〔ガラス細工〕（店長）	お客様の様子	・購買意欲がみられない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	百貨店（管理担当）	お客様の様子	・各階での改装工事の影響で、乗客数が減少しており、売上も前年比で2けた減となっている。
	×	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・高齢者が洋服を買わなくなっている。出掛ける場所がないこともあるが、生活費の負担が増え、洋服にまでお金が回っていない。
	×	衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・創業100周年記念セールを開催しているが、単価の高い商品の動きが悪く、目玉商品の低価格品の動きが良いため、幾ら売っても売上が上がらない。
	×	家電量販店（店員）	お客様の様子	・以前は、買換えの動きがよくみられたが、できる限り修理で対応する傾向が強くなってきた。明らかに節電効果が見込めるエアコンなどでも、買換えずに使い続ける傾向がある。購入後に必要な費用よりも、初期投資の費用の方がやはり高額であるため、支出を抑える傾向が強くなってきている。
	×	住関連専門店（店長）	単価の動き	・コストの上昇で仕入金額がどんどん上がっているため、販売価格も上げざるを得ない。
	×	その他小売 [ネット通販] （管理担当）	単価の動き	・中東問題の長期化によって、原油価格などの上昇が懸念される。
	×	旅行代理店（支店長）	お客様の様子	・中東情勢の影響で国際線の欠航が長引き、ツアーの中止が続いているため、先行きが不透明である。
	×	観光名所（企画担当）	来客数の動き	・大阪・関西万博の開催の反動による減少のほか、中国圏からのインバウンドの減少で来場者が減少している。
企業 動向 関連 (近畿)	◎	*	*	*
	○	電気機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・現状は市場の動きが良い。
	○	輸送用機械器具製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・受注量が増加している。
	○	金融業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・繁忙期で好調となっているが、一定期間で平均すれば、売上は横ばいである。
	□	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・中東情勢の混乱による影響は直接出ていない。食品全般の値上げで購買力は低下しているが、当社製品は直近で値上げしていないため、影響が出ていないとみられる。
	□	食料品製造業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・前年比の動きは少し良くなっている。
	□	繊維工業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・物価の上昇で消費者の購買意欲が低下している。値引き交渉も当たり前であり、非常に厳しい販売が続いている。
	□	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・包装用の板紙生産量が減っており、全体的な受注量も減少している。
	□	金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・全体的に余り変化はないが、年度末の動きが異なる。例年、自動車関連部品は年度末の在庫調整で減産気味となるが、今年は減産もなく、微増状態が続いている。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・景況感は変わらない。
	□	一般機械器具製造業（設計担当）	それ以外	・世界情勢の変化で景気に影響が出ているが、企業ごとに影響の違いがあるほか、一般消費者のレベルでは大きな変化はみられない。
	□	電気機械器具製造業（宣伝担当）	受注量や販売量の動き	・エアコンの店頭荷動きは前年比で2けた増であるが、洗濯機や冷蔵庫の大型商品の動きは前年を下回っている。
	□	建設業（経営者）	取引先の様子	・業績が好調な取引先からは、年度末工事の発注が増えている。監理技術者や技能労働者の不足は続いているが、工事の完了を目指している。
	□	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・案件の問合せが増えている。イラン情勢の変化で今後は材料費や燃料費の高騰が進むため、予断を許さないが、売上がやや増える状況は続く。
	□	輸送業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・取引先の売上には大きな変化がない。事務手続の混乱や経費の増加もあり、売上が増える状況ではなさそうである。
	□	輸送業（サービス担当）	受注量や販売量の動き	・配送収入はほぼ前年並みであり、荷物量も横ばいが続いている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	□	金融業（営業担当）	取引先の様子	・取引先との会話では、受注状況は大きく変動していない。
	□	金融業 [投資運用業]（代表）	それ以外	・中国からのインバウンドが減った一方、他国からの観光客や国内旅行者の消費がその分を補っているため、景気への大きな影響はみられない。
	□	その他非製造業 [機械器具卸]（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・値上げの影響により単価が上がっているにもかかわらず、売上が前年と横ばいで変わっておらず、販売量が減少している。
	▲	繊維工業（団体職員）	受注量や販売量の動き	・重油価格の上昇や流通量の減少により、生産停止となる可能性が出ている。
	▲	化学工業（製造担当）	それ以外	・全体的に研究費や助成金が絞られており、新規テーマの選別に慎重になっているため、研究試薬業界は景気が下向きか、横ばいとなっている。当社としても投資の判断やテーマの選別などが難しく、取りあえず走るよりも、確度を見極める姿勢となっている。
	▲	プラスチック製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・期末の在庫調整の動きがみられる。
	▲	窯業・土石製品製造業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・物価の上昇が続いているところに、イラン情勢の変化で原油価格が高騰し、物価の上昇に歯止めがかからない状況になっている。イラン情勢の不安定化が長引く可能性もある。
	▲	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・これまでの物価上昇に加え、原油価格の高騰が予想されるため、高額な設備投資を控える動きが顕著である。
	▲	金融業 [保険]（経営者）	競争相手の様子	・原価の上昇に加え、原油価格の高騰に伴う更なる物価の上昇で、景気が冷え込む不安が高まっている。財布のひもが固くなっており、イベントへの集客はできても、売上への効果は限定的であり、継続的な消費の増加にはつながっていない。
	▲	広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・例年3月には期末広告の出稿があるが、今年は減少している。
	▲	経営コンサルタント	取引先の様子	・取引先の小売業や飲食業では、中東情勢の影響による仕入価格や物価の上昇を警戒しており、積極的な仕入れや販売促進策を行わなくなっている。
	▲	その他サービス業 [店舗開発]（従業員）	受注量や販売量の動き	・駅ナカでは、飲食店は堅調に推移しているものの、物販はやや低調となっている。飲食店の堅調な動きは、インバウンドの利用が影響している。
	▲	その他サービス業 [受託調査]（調査担当）	それ以外	・3か月前は、販売量は計画どおりであったが、単価が上げられず、利益が圧迫されていた。値上げを行わなければ利益が減っていくため、思い切って販売単価を平均で1~2割引上げた結果、販売量は前年比で約2割の減少となり、業況はかえって悪くなっている。
	×	化学工業（管理担当）	それ以外	・中東の海峡問題による影響が出ている。
	×	不動産業（営業担当）	取引先の様子	・中東情勢の影響を受けて、景気が悪くなっている。飲食店や物販店による出店意欲が下がり、空室率が上がっていることで、景気が悪化している。
	×	その他非製造業 [電気業]（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・中東情勢の変化で原油価格が高騰している。
雇用関連	◎	—	—	—
(近畿)	○	人材派遣会社（支店長）	採用者数の動き	・例年ほどではないものの、採用数が増えている。
	○	人材派遣会社（営業担当）	それ以外	・賃金のベースアップと連動して、事務職の派遣社員の賃金を改定する企業が増加傾向にある。
	○	民間職業紹介機関（営業担当）	それ以外	・3月は2027年卒採用の広報解禁時期であるが、2027年卒採用は実質的に早期選考が始まっており、活動はピークを過ぎている。同時に2028年卒採用のインターンシップの広報も始まっており、それに向けたメディア掲載やイベント出展の申込みは前年よりも少し増えている。また、インターンシップの開催回数も増えている。
	○	民間職業紹介機関（営業担当）	求人数の動き	・時期的に最大の繁忙期を迎えているため、求人、求職者共に増えている。
	□	人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・中東情勢は不透明であるが、求人や求職者の動きへの影響はみられない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	□	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・年度末の駆け込み需要が鈍く、特に広告や宣伝プロモーションでは、例年のような盛り上がりには欠ける。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人の減少傾向が続いている。原材料費や人件費の上昇が、中小企業を中心に利益の圧迫につながっている。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数は、依然として3か月前と同水準で推移している。ただし、求人企業からは国際情勢に対する懸念の声が出始めており、今後、注意が必要である。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・3月の求人数は前年並みで推移しており、景気の大きな変化はみられない。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	採用者数の動き	・この1年間、新卒求人は順調に推移してきた。問題点は、医療福祉業界で異業種を含む転職が増えていることであり、賃金の格差が主な要因とみられる。
	□	その他雇用の動向を把握できる者	求人数の動き	・イラン情勢の変化による具体的な影響はみられないが、事業主からは、4～5月にはプラスチック製品の原材料の仕入れが止まることに対して懸念の声がある。
	▲	人材派遣会社（営業担当）	周辺企業の様子	・原油価格の上昇による、景気への影響が気になる。
	▲	人材派遣会社（管理担当）	求人数の動き	・4月の新入社員の入社が近づき、派遣の求人数が減っている。
	▲	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	それ以外	・イラン情勢が安定せず、日本だけでなく、世界的に景気が悪くなっている。
	▲	職業安定所（職員）	求人数の動き	・3月は管轄地域内での求人数が非常に少なくなっており、新年度の求人に期待している。
	▲	学校〔大学〕（就職担当）	それ以外	・物価の上昇が食料品などの身近な商品に広がっており、生活困窮者が増えている。また、原油が国内に安定して入ってくるか否かが見通せない。
	▲	学校〔大学〕（就職担当）	それ以外	・賃金の改善が物価の上昇に追い付いていない。
	×	—	—	—

9. 中国（地域別調査機関：公益財団法人中国地域創造研究センター）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連	◎	都市型ホテル（総支配人）	来客数の動き	・3か月前には3月の宿泊予約ペースが前年より5%遅れていたが、3月前半から改善し、現在は前年比3%増で推移している。
(中国)	○	一般小売店〔印章〕（経営者）	来客数の動き	・年度初めでもあり、客の動きが良い。
	○	スーパー（店長）	来客数の動き	・平日の来客数の回復が顕著にみられる。買上点数についても微増であるが上向きである。週末よりも平日の来客数の伸長率が高く、良い傾向であると判断している。値上げ分で客単価が増加し、買上点数の増加による改善もみられる。現状の価格水準に慣れてきていることも一因と考えられる。
	○	乗用車販売店（業務担当）	販売量の動き	・年度末であることや税制改定の予定といった要因により、やや上向きの動きがみられる。
	○	その他専門店〔土産物〕（経営者）	来客数の動き	・物価対策の商品券が配布されたため客が増えている。一時的なものかもしれないが良くなっている。
	○	その他専門店〔和菓子〕（経営者）	来客数の動き	・春休みや気候の好転により、国内旅行者が増加している。
	○	その他専門店〔革製品〕（店主）	販売量の動き	・来客数に変化はないものの、オーダーメイドの依頼が多く、3か月前と比べると良くなっている。この増加が景気の上向きによるものか、一時的な要因によるものかについては、引き続き動向を注視する必要がある。
	○	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・ランチタイムの来客数が各曜日とも前年の115%以上と順調に推移し、2週以降のディナータイムは、食べ放題、飲み放題のジャストプライスの予約宴会が増えて110%以上の売上を計上している。また、休日にはファミリー客の利用も増え、前年の130%と大きく伸び、売上に貢献している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	○	一般レストラン (店長)	来客数の動き	・3か月前と比較すると、前年比で来客数が増加しており、僅かに良い傾向となっている。来店頻度も前月比でやや改善しており、予約来客数は前年比で約10%増加している。
	○	観光型ホテル (予約担当)	来客数の動き	・今年は天候が良い日が多く、来客数も増えている。
	○	都市型ホテル (宿泊担当)	単価の動き	・物価上昇は続いているものの、近隣施設でも宿泊単価が上昇傾向にあり、宿泊需要の高い日程では高単価での受注が可能となっている。
	○	タクシー運転手	来客数の動き	・3月に入り人の動きが出てきて、利用客が増えている。
	○	通信会社(企画 担当)	お客様の様子	・年度末であるが、前年の同時期と比較して、問合せ件数や対処工事の引き合い数がやや増加している。
	○	テーマパーク (業務担当)	来客数の動き	・週末は天候に恵まれ暖かくなったことで集客につながっているが、春休みの動きは余り良くない。
	□	商店街(代表 者)	来客数の動き	・今年に入り、来客数及び購買額が減少している。一方で、商店街の通行量については、肌感覚ではあるものの、インバウンドが増加しているように見受けられる。
	□	商店街(理事)	来客数の動き	・来街者数が減少している。買回品中心の商店街なので、来街者を増やすのは難しい。
	□	一般小売店 [茶](経営 者)	来客数の動き	・春の訪れとともに入出は回復傾向にある。テレビドラマの影響もあり、今のところは観光客も多いが、今週末でドラマが終了するため、その後の動向については不透明である。
	□	百貨店(営業担 当)	販売量の動き	・今月もハイブランドや高額商材は一部の顧客に好調に動いたが、購入金額の少ない人にとっては、低価格の商品であっても購入が進まず、消費の2極化が進んでいる。
	□	百貨店(営業担 当)	販売量の動き	・平常時の定価品の動きが鈍い。
	□	百貨店(売場担 当)	販売量の動き	・前年は絵画の大口販売があったため、今月はその影響により前年売上を超えられなかった。数十万円や数百万円のブランドバッグは売れたが、安心はできない。
	□	百貨店(売場担 当)	お客様の様子	・中東情勢を背景とした原油価格の不安定さの影響もあり、生活必需品の価格に対する意識が更にシビアになっているようにみられる。ファッション関連商品等の売上低下が継続している。
	□	スーパー(店 長)	販売量の動き	・商品の値上げにより1品単価は上昇しているものの、買上点数は伸び悩んでおり、前年の97%となっている。一方、特売日の売上は好調である。
	□	スーパー(店 長)	来客数の動き	・ここ数年、来客数は前年を下回る状況が続いており、今月は前年の98.8%となっている。客単価は上昇しているものの、買上点数が減少しているため、売上も前年の98%にとどまっている。
	□	スーパー(店 長)	販売量の動き	・1品単価が上昇し、売上は前年を上回っているが、買上点数が落ちている状況が続いている。
	□	スーパー(業務 開発担当)	販売量の動き	・全体として販売点数は微減であるが、商品単価の上昇により、売上は前年を約3ポイント上回っている。
	□	スーパー(販売 担当)	販売量の動き	・春先は異動シーズンで贈物需要がやや増える時期であるが、動きが鈍い。
	□	コンビニ(副地 域ブロック長)	来客数の動き	・来客数は横ばいからやや減少傾向にある。セール時には増加するものの、通常営業時は伸び悩んでいる。来店の動機として、お買い得感や割安感を重視する傾向が強まっていると考えられる。
	□	衣料品専門店 (代表)	販売量の動き	・気温が上昇し、旅行用の衣類を求める客が増えてきたが、買い控えが日常化している傾向もある。
	□	家電量販店(店 長)	お客様の様子	・購買行動に大きな変化はない。買換え需要はあるが、他店との比較後に購入するケースが増えている。
	□	家電量販店(企 画担当)	来客数の動き	・エアコンとパソコンは好調であるが、来客数が減少している。
	□	乗用車販売店 (リース担当)	お客様の様子	・物価上昇の影響により、点検や車検で来店した客の間でも、交換部品の購入を控える傾向が高まっている。
	□	乗用車販売店 (統括)	販売量の動き	・3月の販売量は前年比90%と厳しい状況が続いている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	□	乗用車販売店 (店長)	販売量の動き	・現状維持の状態が続いている。人気商品に需要が偏っていることから、買い控えがみられる。
	□	その他専門店 〔時計〕(経営者)	来客数の動き	・物価上昇により、消費が低迷している。株価も動きが激しく、中東情勢の収束まで景況の安定はないと考えられる。
	□	その他専門店 〔宝石店〕(店員)	単価の動き	・商品の値上げにより売上は前年並みで推移しているが、買上点数、購入客数は前年の8割となっている。客のぜいたく品に対する買い控えがある。
	□	一般レストラン (経営者)	販売量の動き	・来店客は消費に意欲的な人とシビアな人に分かれていて、様子が少しずつ変わってきている。
	□	観光型ホテル (副支配人)	販売量の動き	・3月後半は桜の開花に合わせて予約が少しずつ増えてきているが、大幅な増加には至っていない。
	□	都市型ホテル (宿泊担当)	販売量の動き	・インバウンド需要に大きな変動はなく、高水準で推移しており、加えて国内レジャー需要も増加している。
	□	タクシー運転手	来客数の動き	・衆議院選挙の結果により政治の安定と、物価対策や景気対策、少子化対策など様々な課題の解決が迅速に進むことが期待された。しかし、中東情勢の影響で原油価格が急騰し、それに伴い関連する様々な物価も上昇し始めたため、人々の動きが沈滞しつつある。
	□	放送通信サービス (総務経理担当)	お客様の様子	・利用料の回収率及び延滞率に大きな動きはない。
	□	競艇場(企画営業担当)	販売量の動き	・今月もネット投票が好調である。
	□	設計事務所	お客様の様子	・年度末なので動きは少なくなっているが、計画の中止などはなく、案件は進んでいる。
	□	設計事務所(経営者)	お客様の様子	・新築住宅やリノベーションの引き合いが続いている。
	□	住宅販売会社 (事業推進担当)	来客数の動き	・市内マンションの在庫が飽和状態のなかで、新規販売物件や計画物件も増加している。そのため、購入者は回遊期間が長く、価格の高さを改めて認識することで契約までに時間を要している。来場者数はある程度維持できているものの、契約の進捗は遅れている。
	□	住宅販売会社 (住宅設計担当)	販売量の動き	・戸建て住宅の着工戸数は減少の一途をたどっており、急激ではないものの、景気が徐々に下向きになるのは必然的な状況である。
	▲	商店街(代表者)	お客様の様子	・中東情勢の影響により、先行きに対して悲観的な見方が広がっている。
	▲	商店街(代表者)	単価の動き	・客の購買意欲が低下しており、前年数値を下回っている。検討の末、購入を見送るケースも増えており、非常に景気は悪い。
	▲	一般小売店〔洋裁附属品〕 (経営者)	販売量の動き	・イベント時は人通りもあるが、なかなか売上にはつながらない。
	▲	一般小売店〔眼鏡〕 (経営者)	お客様の様子	・新品一式のメガネではなく、レンズ交換のみを希望する客が増えてきた。
	▲	百貨店(営業担当)	お客様の様子	・富裕層の外商顧客のうち、投資家の購買は株価の不安定さを背景に控え気味になっている。
	▲	百貨店(外商担当)	お客様の様子	・株価に加え、金相場も下落し、客の消費マインドは明らかに低下している。
	▲	スーパー(財務担当)	販売量の動き	・物価上昇の影響により節約志向は続いており、価格訴求商品への購買が中心となっているため、1人当たりの買上点数は前年割れが続いている。
	▲	コンビニ(エリア担当)	来客数の動き	・1年近く来客数が戻らない。コンビニ業態として商品価格が比較的高く、度重なる値上げの影響や、おにぎりについても300円を超える商品が増えていることから、買い控えによる来客数の減少が生じている。さらに、周辺で工事もなく、工事関係の来店もないことから、来客数の減少が続いている。
	▲	コンビニ(店長)	来客数の動き	・例年と比べて来客数は伸び悩んでおり、特に朝の通勤前の時間帯での来店が低調である。春は人の動きが活発になる季節であるが、今年はその傾向がみられない。
	▲	家電量販店(副店長)	販売量の動き	・冷蔵庫と洗濯機の売上は前年比で約80%と低迷しており、単価及び販売台数の両方が減少している。
	▲	乗用車販売店 (経営者)	お客様の様子	・客の財布のひもが固く、予算を抑える傾向が強まっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	▲	乗用車販売店 (営業担当)	来客数の動き	・年度末の3月初旬は市場や乗客の動きが活発であったが、中旬以降は徐々に低迷している。例年通りの状況ではあるものの、明らかに厳しい状況が続いており、今期残りを何とか乗り越えていきたい。
	▲	自動車備品販売店 (経営者)	販売量の動き	・物価高の影響が余りにも大きく、客の買い控えや低価格志向により販売量が低下している。
	▲	自動車備品販売店 (経営者)	販売量の動き	・前年同月比で業績は悪化している。また、石油製品の値上がりも影響している。
	▲	高級レストラン (事業戦略担当)	来客数の動き	・花見時期であるが期待したほど客足が戻っていない。
	▲	旅行代理店(支店長)	販売量の動き	・中東情勢の影響で、中東並びに欧州方面への海外旅行の取消しや中止が発生し、取扱が縮小している。この減少分を国内旅行で補えるほどの売上もなく、中東情勢の影響を受けている。
	▲	通信会社(運用担当)	お客様の様子	・中東情勢により、世界的な不安が高まっている。
	▲	通信会社(営業担当)	お客様の様子	・サブスクリプション系サービスの解約が増加しており、家計負担の軽減意識がより高まっている動きが見受けられる。
	▲	通信会社(広報担当)	お客様の様子	・客は価格の安さのみを重視して選ぶ傾向にある。
	▲	通信会社(総務担当)	それ以外	・中東情勢が不安定になっており、ガソリン価格や物価上昇に拍車を掛ける格好になっている。
	▲	ゴルフ場(営業担当)	販売量の動き	・燃料費の高騰が影響しているため、来場者が増えない。インバウンドは減少傾向にある。
	▲	美容室(経営者)	お客様の様子	・いろいろな物が値上がりし、客は節約志向を強めている。旅行に出掛ける機会も減り、遠出を避けて近場で済ませるなど支出を抑える行動が目立っている。
	×	一般レストラン (経営者)	お客様の様子	・年度末の時期と気候の好転により、インバウンドが増加してきたが、全体として景気は悪化している。
	×	バー(経営者)	来客数の動き	・3か月前は繁忙期であったため、現在は落ち着いており、良い状況とは言えない。
	×	美容室(経営者)	お客様の様子	・客の自営業者からは、仕入価格の上昇で利益率が悪化し、経営が苦しいという話をよく聞く。
	企業 動向 関連 (中国)	◎	食料品製造業 (営業担当)	受注量や販売量の動き
◎		輸送用機械器具製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・新車の立ち上がりがあり、忙しい状況である。
○		繊維工業(財務担当)	受注価格や販売価格の動き	・年度替わりで、購買行動が活発になっている。
○		輸送業	受注価格や販売価格の動き	・受注が増えている。
○		金融業(経済産業調査担当)	それ以外	・自動車メーカーの新型量販車種の投入もあり、生産活動や輸出などで持ち直しの動きが見られる。
□		食料品製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・3月に値上げを実施し、販売量は5～7%減少したが、売上は約3%増加した。高価格帯商品の売上は2%低下したものの、セール商品の動きはやや良い。
□		窯業・土石製品製造業 (総務経理担当)	受注量や販売量の動き	・鉄鋼業向けの生産量に変化はない。ポンプ向け部品の生産が好調で、一部の部署では多忙な状況がみられる。
□		鉄鋼業(総務担当)	取引先の様子	・動きに大きな変化はなく、横ばいの状況が続いている。なお、人手不足の影響も見受けられる。
□		金属製品製造業 (総務担当)	受注量や販売量の動き	・中国向けの特需案件の生産は終わったが、他の案件を受注したため、生産は引き続き超勤で対応している。
□		電気機械器具製造業 (総務担当)	取引先の様子	・事業面では取引先の設備投資は増加しているものの、物価上昇の継続や米国の政策動向などを踏まえると、景気は明確に判断できない状況である。
□		建設業(経営者)	取引先の様子	・以前より割高の建設工事の見積りを提出しても、顧客から一定の理解を得られている状況であり、景気の悪化を強く感じる状況ではない。
□		建設業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・予定案件が手一杯の状態である。資機材の価格高騰に対しては、価格転嫁が受け入れられる環境となっている。
□		輸送業(業務推進担当)	取引先の様子	・特に大きなプラス要素やマイナス要素もなく、取引先の動向にも目立った様子はない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	□	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・顧客ヒアリングにおいて、おおむね変化がないとの回答であった。
	□	不動産業（総務担当）	それ以外	・来客数は約1%減少しているが、成約件数は約1%増加しており、全体としては大きな変化はない。
	□	会計事務所（経営者）	受注量や販売量の動き	・年度末業務や確定申告などで業務量は増加しているが、季節変動の範囲内である。一方で、新規業務や非定型業務の受注は弱い状況である。
	▲	化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・中東情勢による原料調達の動きについて、不透明感が強まった。
	▲	輸送用機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・中小受託取引適正化法対応により資金繰りが悪化しており、具体的にはサイト短縮や振込手数料の当方負担といった影響が出ている。
	▲	建設業	受注価格や販売価格の動き	・中東情勢が不安定なこともあり、原油価格やその他の物価上昇が影響している。
	▲	輸送業（企画担当）	取引先の様子	・ウクライナ情勢の継続やパレスチナ問題に加え、中東情勢で、世界情勢に対する不安が高まっている。特に、石油製品の供給不足による価格上昇を懸念する様子がみられる。
	▲	金融業（副支店長）	取引先の様子	・原油価格の高騰により物流コストが上昇し、経費負担が増加することで利益を圧迫している。
	×	通信業（企画担当）	それ以外	・最近の資材価格の高騰による取得コストの上昇が継続しているなか、中東情勢の影響により、これまで以上にICT関連機器やデータセンター向けの電気料金の高騰が進んでいる。
雇用 関連 (中国)	◎	—	—	—
	○	人材派遣会社（経営企画担当）	求職者数の動き	・派遣スタッフの登録が順調であり、求人先に対するマッチングが進んでいる。特定技能を持っている外国人材の紹介も順調に進んでいる。特に外国人材については、求人に対して候補者を擁立すれば、ほぼ確実にマッチングできる状況である。
	○	人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・毎年のことではあるが、求人数と求職者数が最も増える時期なので、今月だけで判断すると状況は改善しているように見える。その分契約を終了する人も多いため、結果としては余り変わらないとみられる。
	○	人材派遣会社（求職者対応）	求職者数の動き	・1月と比較して応募数が250%増加した。
	□	人材派遣会社（事業部長）	求人数の動き	・求人数の新規受注は好調に推移しているが、業務量の増加によるものではなく、そもそも通常の事業運営に必要な人員が確保できていないという、構造的な人手不足が目立っている。
	□	求人情報誌製作会社（総務担当）	周辺企業の様子	・製造業の工場が地元企業と形成する協力が解体したり、不確実な世界情勢の影響で、設備投資や雇用計画が白紙となったりするなど、今後の動向が不透明である。また、将来の受注に向けて事前に設備投資を実施しても、受注が白紙となることがあり、そうしたケースに対して補完が必要になる可能性があることも確認された。
	□	求人情報誌製作会社（新卒採用担当）	求人数の動き	・人手不足が依然として続いており、この状況は当面改善されそうにない。
	□	職業安定所（事業所担当）	求人数の動き	・新規求人数は前年比で減少しているものの、3か月前と比べて人手不足感は変わらず、全体として大幅に募集人数を減らす動きは今のところみられない。
	□	学校〔短期大学〕（進路指導担当）	求人数の動き	・例年の同時期と比較して、求人数に大きな変化はみられない。
	▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・中東情勢など不確定要素が加わり、従来の物価高騰による消費の冷え込みが一層進んでいる。地方における賃上げの効果も限定的である。
	▲	職業安定所（事業所部門）	周辺企業の様子	・人件費の増加や物価高騰などの影響で、仮に売上が伸びていても、経営状態は売上の伸びに見合わず、収益面で課題を抱える企業が多い。
	▲	民間職業紹介機関（職員）	求人数の動き	・原油価格の高騰に加え、先行きの不透明感を背景に、複数社から求人取下げや一時停止の連絡が入ってきた。今後も予断を許さない状況がしばらく続きそうである。
	▲	学校〔大学〕（就職担当）	雇用形態の様子	・当地の支店撤退の動きがあり、今後徐々に状況が悪化していくとみられる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	民間職業紹介機関（人材紹介・派遣担当）	求職者数の動き	・転職希望者が増える3月に登録者を獲得するため、大手人材紹介会社が求人検索サイトへの広告出稿費用を倍増した。その影響で、当社を含む全国の中小紹介会社が求人検索サイトに掲載している受注案件の表示回数が大幅に減少し、3か月前と比べて求職者からの応募数が約100件減少した。

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (四国)	◎	通信会社（営業部長）	販売量の動き	・年度末が当社の最大商戦期のため、乗客数、販売数共に増加している。前年比でも増加している。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・観光による来客数が週末ごとに目に見えて増加している。春のイベント等に地元の消費者も訪れ、多くの人が楽しんでいる。春休みに入っても街の人出は多く、売上は増加している。
	○	一般小売店〔文具店〕（経営者）	来客数の動き	・毎年度末はある程度の注文があるが、前年と比べて今年は注文数が増加している。
	○	コンビニ（総務）	販売量の動き	・商品単価の上昇分が売上に反映されているが、来客数自体は減少しており、来客数の回復が課題となっている。
	○	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・過去2～3か月は非常に厳しかったが、今月は天候に恵まれて比較的順調に推移している。
	○	家電量販店（店員）	販売量の動き	・新生活準備に向けての購入が増加したのに加え、今後の価格上昇を見据えた前倒し購入が増加している。
	○	家電量販店（副店長）	販売量の動き	・前年比108%で推移している。また、春の単身者向けの需要も前月より増加している。
	○	その他小売〔ショッピングセンター〕（館長）	来客数の動き	・前年と比べて来客数が10%以上増加し、飲食、食料品の購入及びサービスを中心に好調である。3か月前の状況より上向いてきている。
	○	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・3月は繁忙期のため単価を上げたものの、稼働が変わらず良かった。
	○	タクシー運転手	来客数の動き	・異動の時期のため、街の人出も多少増えてきた。タクシー料金値上げの影響はあるが、春の遍路シーズンがスタートしたため、冬場より良くなっている。
	○	美容室（経営者）	来客数の動き	・卒業、入学シーズンに加え今年は会社に入社する客も多く忙しい状況であった。
	□	商店街（常務理事）	来客数の動き	・商店街は中国からのインバウンド需要が減少しているものの、国内外からそれを十分に補う数の観光客が来ているため、にぎわいや活気がある。飲食店はその恩恵を受けられているものの、物販店への恩恵は少ない。物販店の売上増加に向けて、地元客の購買意欲を改善する術が必要である。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・20年の歳月を掛けてようやく形が見え始めた隣接地域の再開発が、ホテルとマンションを軸にしたものに落ち着いた。再開発イコール商業施設という定番は、中心市街地に適合しないものになってきた。この街づくりが周辺地域の集客に少しでも結び付くか見守っていく。
	□	百貨店（マネージャー）	販売量の動き	・インバウンド需要は大幅減少したが、国内需要は何とか前年比でプラスである。
	□	スーパー（企画担当）	単価の動き	・商品の値上げは収まらず、原油価格の高騰などの影響もあり値上げ傾向が更に強まっている。来客数、販売数は伸びていないが、売上の増加にはつながっている。
	□	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・2月までの傾向から変わっておらず、依然として節約志向は続いている。
	□	スーパー（財務担当）	来客数の動き	・ディスカウント店の新規出店が多く、買い回りによる来客数減少が継続している。
□	コンビニ（店長）	来客数の動き	・来客数の減少傾向は続いている。中東情勢の不安定さから原油価格の上昇が懸念され、更なる物価の上昇が現実味を帯びてきたためシビアになってきている。	
□	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・前月に引き続き、相変わらず来客数が少なく、客単価も上昇していない。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	□	乗用車販売業 (営業担当)	販売量の動き	・受注停止車種が多いことによる販売制限に加え、物価高の影響により購買を控える動きがある。
	□	観光遊園地(主幹)	来客数の動き	・来客数の前年同期比の推移に大きな変化はみられない。
	□	美容室(経営者)	来客数の動き	・卒業シーズンのため、多少来客数が増加した。
	□	設計事務所(所長)	単価の動き	・建設の単価が非常に上がっており、住宅の販売等に相当影響が出ている。先行き不透明である。
	▲	商店街(代表者)	お客様の様子	・収入格差が顕著になっており、客全体の購買意欲が低下してきている。為替変動と物価高が続いており、消費者の節約志向が高まってきている。
	▲	一般小売店〔生花〕(経営者)	お客様の様子	・年度末のため、送別用贈答商品の注文に変化はないが、お彼岸の供物や自宅用品は、値段を気にしながら購入を検討している様子がみられ、節約傾向にある。
	▲	スーパー(店長)	販売量の動き	・1人当たりの買上点数の減少が続いている。
	▲	スーパー(人事)	販売量の動き	・全般的な価格の高止まりやガソリン価格の高騰などの影響からコスト意識が高まり、生活に必要なか検討している様子がみられる。
	▲	スーパー(統括担当)	販売量の動き	・販売点数が減少しており、買い控えを感じる。
	▲	コンビニ(店長)	来客数の動き	・物価の上昇により売上は増加しているが、来客数と買上点数の減少が続いている。
	▲	コンビニ(商品担当)	単価の動き	・原材料価格の高騰が続くとみられる。
	▲	衣料品専門店(営業責任者)	来客数の動き	・来客数、売上共に前年と比べマイナスで推移している。中東情勢の影響による原油価格高騰の話題が多く、買い控えが生じているとみられる。
	▲	乗用車販売店(役員)	お客様の様子	・原油価格高騰も含めた物価の上昇や、不安定な世界情勢による株価下落により、先行きに不安を抱えている。
	▲	その他飲食〔ファーストフード〕(経営者)	来客数の動き	・物価高の影響から来客数が減少しており、今後もその影響は続くと思われる。
	▲	都市型ホテル(経営者)	来客数の動き	・石油関連の動きが影響し、人の動きが良くない。
	▲	タクシー運転手	お客様の様子	・2～3か月前と比べるとガソリン代が上がったという客の声が多かった。当県は各家庭で複数台の車を所有しているところが多く、ガソリン代で小遣いがなくなったという声も多く聞かれた。
	×	一般小売店〔酒〕(経営者)	販売量の動き	・物価高で客足が伸びていないため、飲食店への納品は低迷している。3月は歓送迎会の時期だが、想定ほど繁華街への人出はなく、にぎやかではない。
	×	一般小売店〔書籍〕(営業担当)	販売量の動き	・今年に入ってから店頭売上の不調が続いており、その不調を外商売上でカバーしている。
	企業 動向 関連 (四国)	◎	繊維工業(経営者)	受注量や販売量の動き
○		*	*	*
□		鉄鋼業(総務部長)	受注量や販売量の動き	・特に変動はない。
□		電気機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・現首相になって景気は上向きの状況だったが、中東情勢の変化により、マインドが著しく低下した。売上が急激に減少し、前と変わらない状況まで落ち込んでいる。
□		建設業(経営者)	受注量や販売量の動き	・依然として公共事業の発注が少ない。
□		通信会社(総務担当)	受注量や販売量の動き	・実績は計画どおり堅調である。
□		金融業(副支店長)	取引先の様子	・物価は上昇しているが、客の受注状況に変化はみられない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	□	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・前回と変わらずだが、3月の異動シーズンのため、賃貸等の問合せが増加している。
	□	税理士事務所	取引先の様子	・業績が向上している顧問先がない。
	▲	木材木製品製造業（営業部長）	受注量や販売量の動き	・受注数が減少したまま回復しない。来期に向けて価格改定の交渉をしているが、他社への切替えの可能性を示唆されて思い切った交渉ができていない。
	▲	化学工業（所長）	それ以外	・中東情勢の影響により原油価格や石油化学製品の供給問題が急浮上している。今後枯渇した場合の経済への影響は計りしれない。
	▲	建設業（総務）	それ以外	・中東情勢の影響で先が不透明である。
	▲	輸送業（経営者）	それ以外	・燃料の動向が不安定である。
	▲	広告代理店（経営者）	取引先の様子	・紙やインクなどの原材料価格上昇が続いているが、取引先からは値下げ要求があり苦慮している。
	×	—	—	—
雇用関連	◎	—	—	—
	○	*	*	*
(四国)	□	人材派遣会社（オフィス責任者）	求人数の動き	・求人数が増える時期だが、例年ほどの伸びはない。
	□	職業安定所（求人開発）	求職者数の動き	・物価高の影響などにより、生活が厳しいとの理由から高齢者の就労意欲が高まっている。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・現時点では原油不足等の影響はまだ出ていないとみられる。
	▲	人材派遣会社（総務部長）	求職者数の動き	・求職者数が減少している。
	▲	求人情報誌（営業）	採用者数の動き	・企業の2027年春の新卒採用が実質的に終盤を迎えつつあるが、地元の中小企業では採用予定人数を満たせる見込みが立っていない。
	▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・民間の景気は4月以降も下向きである。4月以降の広報の基本契約が軒並み縮小傾向である。業種は限定的だが、当県での観光需要は好調とみられる。
	×	—	—	—

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連	◎	一般小売店〔生花〕（経営者）	来客数の動き	・小売がメインの花屋であるため、3月は年間を通して卒業や退職、異動などのイベントが多く、今月は最も売上が多い月となっている。
(九州)	◎	観光型ホテル（営業）	来客数の動き	・年度末の駆け込み需要やイベントなどがあるため、集客が好調である。
	◎	観光型ホテル（専務）	来客数の動き	・春になり暖かくなったため、客の動きが良くなり、インバウンドも増加している。
	◎	ゴルフ場（営業）	来客数の動き	・天候が良いため、来客数が増加している。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・年度末商戦のノベルティが増加している。
	○	商店街（代表者）	販売量の動き	・春になり気温が上がり、ベースアップの話題も出ているため、客の動きが活発になり購買活動が売上につながっている。しかし、中東情勢の影響により若干売上が落ちてくると懸念している。
	○	百貨店（企画担当）	来客数の動き	・春休みに入り若年層の来店が増え、欧米のインバウンドも目立っている。
	○	百貨店（企画担当）	販売量の動き	・3か月前と比較すると、国内客やインバウンド共に売上が増加している。化粧品などの春の新作アイテムを軸に販売量が伸びており、新規顧客の流入も見受けられる。
	○	乗用車販売店（役員）	お客様の様子	・環境性能割廃止等による負担軽減への反応が大きいものの、新型電動車への関心が高く販売も好調である。
	○	その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	お客様の様子	・3月は異動シーズンであるため、コーヒー関係のプチギフトを購入する客が一段と増加している。近隣に学校もあるため、来客数が若干増加し、売上は前年比110%になっている。
	○	タクシー（統括者）	販売量の動き	・乗務員数が数か月間好調を維持している。そのため、稼働台数が増加し、販売量が増加している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・当商店街が再開されるため、客は買物がしづらい状況となり、近隣のスーパーに流れているのが現状である。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・物価が立て続けに上がり、先行きが不透明であるため、生活が苦しくなる人が増加することが心配である。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・3月中旬から来客数が少しずつ増えているが、売上は厳しい商況である。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・3月に入り気候も良くなったため、商店街への来客数も増えてきた。
	□	百貨店（企画担当）	来客数の動き	・天候は前年とほぼ変わらないが、来客数が前年比5%減少している。それに伴い、以前より衣料品の売上が不調である。堅調であった食料品の売上も下落傾向にある。
	□	百貨店（営業企画担当）	来客数の動き	・世界情勢の影響により、消費者の生活に直撃する経済打撃に加え、将来的な見通しが不透明であるため買い控えが来客数に影響している。
	□	百貨店（経営企画担当）	来客数の動き	・来客数の前年比は3か月前と比較しても依然として前年割れの状況が続いており回復していない。
	□	スーパー（店員）	お客様の様子	・特売品や半額処分商品はすぐに売れる状態である。
	□	スーパー（総務担当）	来客数の動き	・エリア内に競合店舗の新規出店があり、来客数や購買数が前年比マイナスで推移している。物価上昇を受けて、消費者は少しでもお買い得な情報に、より敏感に動く傾向が高まっている。
	□	コンビニ（経営者）	単価の動き	・天候が良かったにもかかわらず、食品全般において値上げが続いたため、商品の購入はあるが来客数が伸びていない。
	□	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・店舗前面の道路工事の影響により、店の出入りに支障を来し、来客数は大幅に激減している。そのため、売上が低下し厳しい状況が続いている。
	□	コンビニ（エリア担当・店長）	お客様の様子	・売上の前年比は減少していないが、物価上昇している分が販売点数を補っている。来客数は前年を割っており、この状態が続くと見込んでいる。
	□	衣料品専門店（取締役）	お客様の様子	・3か月前と比較すると物価は高騰し、ガソリンも上昇しているが、賃金改定が余りなかったことが露呈している。中小企業に勤めている人の生活は改善されていない。
	□	家電量販店（店長）	来客数の動き	・新生活需要は動きが鈍く、来客数の前年比80%で回復しないため心配している。
	□	家電量販店（従業員）	販売量の動き	・値上げによる購入単価の上昇で売上がアップしている。
	□	乗用車販売店（役員）	来客数の動き	・決算商戦の買い回りと、4月以降の注文再開車種の商談と重なっており、来客数は多い。
	□	住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・客は置き家具の購入を1度の来店で決めることはなく、購入までに時間が掛かる。今月前半の来店は売上に つながらなかったが、後半には売上が増加した。しかし、前年には及ばない。
	□	その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター]（支配人）	来客数の動き	・年末年始頃から特にシールの需要が高まり始めていたため、現状の推移と変わらない。1点の単価が低い ため全館的に来客数が伸長し、取扱店舗は軒並み前年 比150~200%の推移となり、全館の集客にも寄与して いる。
	□	その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター]（統括者）	販売量の動き	・実質賃金は上がっておらず、物価対策の効果もまだ 目に見えていないため、3か月前と変わらない。国内 客の単価は上昇しているが、来客数は前年を下回る月 もある。インバウンドについては、中国からの減少を 他国からの増加でカバーしている。
	□	観光型ホテル（総務）	単価の動き	・宿泊は好調であるが、宴会レストランは材料費高騰 による対応が続いている。
	□	旅行代理店（統括者）	販売量の動き	・先行販売動向を前年と比較したが大きな変化はない。
	□	旅行代理店（統括者）	販売量の動き	・現時点では予約のキャンセル等が発生していないた め、変動は感じていない。
	□	タクシー運転手	お客様の様子	・昼のタクシー需要はまずまずであるが、夜間はタク シーが不足する時間帯がある。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	□	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・年度末に当たり既存案件の対応は堅調に推移しているが、新規案件は来年度に向けた見積り依頼が中心で、直近の販売量の増加にはつながっていない。全体としては3か月前と比べて大きな変化はみられず、横ばいの状況である。
	□	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・年度終わりのため、余り消費活動につながっていない。
	□	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・光回線の販売が低迷している。
	□	通信会社（役員）	お客様の様子	・物価高により特に燃料費等が高騰しており、顧客の購買意欲が減退している。
	□	競馬場（職員）	販売量の動き	・競馬業界全体の売上は前年と比較すると好調に推移しているものの、当競馬場の売上については横ばいが続いている。
	□	美容室（経営者）	販売量の動き	・2～3か月前の売上と比べると良くなっているが、動きは少なくほぼ横ばいである。不安定な世界情勢の影響によると考えられ、景気回復の兆しはない。
	□	美容室（店長）	来客数の動き	・今月は卒業式などがあり来客数も増えたが、余り変化がない。
	□	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・住宅会社の多くは決算期となるため、客の動向があるものの景気が上向き状況ではない。
	□	住宅販売会社（従業員）	それ以外	・現状では株価の動きもなく変わらないが、中東情勢の影響により石油製品が値上がりすることが考えられる。現段階の取引では値上げはないが、将来は上昇する可能性がある。
	▲	商店街（代表者）	単価の動き	・値上げにより売上が前年比で約15%増加しているが、来客数や購買点数の減少が問題点と捉えている。
	▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・物価高による消費活動の停滞、商店街の来客数の減少に伴う販売量の減少に加えて、イラン情勢で更に先行きが不透明となっている。今後、物価高が更に進むことが予想され、客は消費を控えている状況である。
	▲	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	販売量の動き	・食品の高騰に続き、ガソリンも高騰すると家計の負担はかなり大きくなる。そのため、客の購買意欲はなくなり、小売店の販売量は低迷につながり売上は減少している。
	▲	百貨店（経理担当）	販売量の動き	・物価の上昇もあり、依然として婦人、紳士服の衣料品関連の売上が前年割れしている。インバウンドの減少で化粧品も苦戦を強いられているが、食品催事及び飲食においては好調である。
	▲	百貨店（業務担当）	お客様の様子	・ガソリン価格の高騰は、車社会の地方では影響が大きく敏感に反応する。イラン情勢による原油価格の高騰が生活全般に影響が及ぶことを心配している客が多い。日中関係の影響や原油価格の高騰などは我が国だけで改善できるものではないため、客の不安が強く、しばらく様子見の状況である。
	▲	スーパー（店長）	お客様の様子	・イラン情勢のあおりで原油価格の高騰の影響が出て、消費者の生活防衛意識は更に高まり、販売点数抑制や来店頻度の減少につながっている。特に食品スーパーの来客数ダウンが顕著であるため厳しい状況である。
	▲	スーパー（店長）	単価の動き	・春闘も終わり賃金上昇が見込まれるが、物価上昇が大きいため可処分所得としては増加せず、景気上昇にはつながらない。
	▲	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・イラン情勢の影響による原油調達への懸念が、ガソリン価格高騰やナフサ供給の不安に結び付いているが、これらのコスト増加が物価に反映され、消費者の買い控えにつながっていると推測している。特に高齢者の買い控えが深刻である。
	▲	スーパー（経理担当）	販売量の動き	・イラン情勢が不透明であるため、原油価格高騰の不安から景況感冷え込みに向かっている。
	▲	スーパー（従業員）	お客様の様子	・原油価格の高騰や人件費の高騰、人材不足などにより景気が芳しくないため、消費者が価格に敏感になっている。
	▲	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・物価高のため景気はやや悪い。
	▲	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・燃料費の高騰で車での移動が減少し、来客数が7%減少している。また、コンビニ主力商品の米飯、ドリンク、たばこの売上も減少している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	▲	コンビニ（店長）	販売量の動き	・ガソリンやたばこは値上げされ、売上は値上げ分だけが上昇しているため、まだ不景気である。
	▲	コンビニ（店長）	販売量の動き	・イラン情勢などにより、マインドが冷えている。
	▲	衣料品専門店（店員）	来客数の動き	・春物衣料品の購買意欲が高まる時期に入ったが、客の来店がほとんどなく、商戦ニーズも年々少なくなっている。
	▲	家電量販店（店員）	販売量の動き	・新生活のシーズンであるが、必要最低限の購入や使い回しが顕著になっている。単価も下がり、3月の商戦期としては厳しい状況である。
	▲	住関連専門店（従業員）	来客数の動き	・例年と比べ、特に県外への進学ニーズが落ち着いているため、新生活需要が伸び悩んでいる。
	▲	都市型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・販売客室数はやや下がっているが、単価が客室数確保のため、数か月前とは開きがある。需要の問題ではあるが、3月は高単価と低単価の差が激しく、週末の売上は3か月前と同様であるが、平日は下がっている。
	▲	タクシー運転手	来客数の動き	・売上は前年比100%前後で推移しているが、ガソリンを筆頭に物価高が続いているため、消費が停滞している。しかし、中国からのインバウンドは徐々に上向いている。
	▲	観光名所（職員）	単価の動き	・燃料や資材等の高騰により、様々な物の価格が高くなると同時に、車での来場者が減少している。
	▲	ゴルフ場（従業員）	単価の動き	・韓国からのインバウンドが3月上旬から徐々に少なくなり、全体の入場者は微減であるが、客単価が減少傾向である。さらに、中東の原油に関する問題が長引けば、一層悪化が懸念される。
	▲	美容室（経営者）	単価の動き	・3月は1年で1番忙しい時期であるが、他店よりも値段を著しく下げてようやく乗り切った状況だった。
	▲	その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	それ以外	・診療報酬の定期改定や介護報酬の臨時改定において、従業員への賃上げに対する財源の報酬増加が確定し、来期は一定程度の賃上げが実施できる。しかし、他の産業ではそれ以上の賃上げ率が発表され、人材不足解消にはつながらない可能性がある。本体報酬の増加はほとんどないため、会社の損益好転にはつながらない。
	▲	設計事務所（所長）	単価の動き	・材料や製品の高値が続いているなか、人件費を上げざるを得ない。中東情勢の影響は、価格上昇の一因となり、住宅の着工数が減少している。
	▲	設計事務所（代表）	販売量の動き	・例年と比べて販売量が減っている。
	×	衣料品専門店	お客様の様子	・客は、中東情勢など不安定な世相を気にしているため、買物に慎重になっている。
	×	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・イラン情勢の影響により、ガソリン価格を始め価格情勢が不安定であるため、購買心理が抑制され、店の売上が先行き不透明となっている。
	×	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・例年3月は送別会が多いが、今のところ少ない状況である。2～3か月前と比較するとかなり厳しくなっている。
企業 動向 関連 (九州)	◎	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・主要取引先からの受注が増加傾向にある。
	○	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今年度の動きは、半年前から計画どおりで順調に動いている。しかし、材料費や円安、輸出の関税問題などが山積しており、新年度には様々な問題の答えが出てくるとみられる。
	○	電気機械器具製造業（取締役）	取引先の様子	・自動車関連の取引先より2027年度納入予定の案件やその他の健康関連の取引先より磁気関連の健康商品の強い引き合いがある。
	○	その他製造業〔産業廃棄物処理業〕	取引先の様子	・原油価格の上昇により費用は膨らんでいるが、仕事としては原料の調達がスムーズになり生産が伸びている。
	○	広告代理店（役員）	取引先の様子	・新規事業など投資の活性化が見受けられる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	□	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・3月は年度末となり動きが良く、特に下旬に入り活発化しており、外食居酒屋関係では送別会などの動きが目立っている。スーパーマーケット関連は値上げによるマイナスの影響もあり、若干動きが悪い。冷食メーカーは鶏肉の不足が大きな問題となっているため、引き合いはかなり強くなっている。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注がほぼ決定していたにもかかわらず、キャンセルとなった。イラン情勢による今後の景気の影響は不透明である。
	□	輸送用機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・中東向け車両の影響が台数に表れているなか、生産台数は当初予算以上になっている。
	□	輸送業（従業員）	それ以外	・原油価格の上昇により動きに勢いがなくなっている。本来なら景気が上向いていくとみられるが、現状では様子を確認しながら動いている。
	□	輸送業（総務担当）	取引先の様子	・保管や入出庫量に大きな変化はないが、運送会社を始めとして様々なところから値上げ要請がきているため、更なる物価高騰、賃上げの圧力を実感している。
	□	通信業（統括者）	受注量や販売量の動き	・特定の商材については一定の受注はあるが、端末類等は投資判断の先送りや案件の慎重化が続いており、セキュリティ等の喫緊の経営課題に直結する投資は選別的に行われている。
	□	金融業（調査担当）	取引先の様子	・人件費や資材価格が高騰しているが、一定程度の価格転嫁ができています。
	□	金融業（調査担当）	取引先の様子	・物流、運輸業界では大型車の運転手不足が深刻化しており、減便や配送ルートの見直しなど効率化の動きが加速している。また、食品の値上げが続き、消費者の商品選別の目は一段と厳しくなっている。
	□	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・自社の仕事の量や内容に変動がない。
	□	経営コンサルタント（代表取締役）	受注量や販売量の動き	・企業の人材投資に対するスタンスに変化がない。
	□	経営コンサルタント（社員）	取引先の様子	・来客数が減少したため売上も減少し、在庫過多の傾向になっている。
	□	経営コンサルタント（社員）	受注量や販売量の動き	・前月からダイレクトメールを送っているが、反応がほとんどない。
	▲	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ある商社の商品が他の企業に多数流れたため、前年よりやや売上が減少していると推察され危惧している。
	▲	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3月は決算月であるが受注量が全く伸びず、通常月と同程度の取扱となり、倉庫に在庫がたまっていない状況である。原油価格高騰の影響もあり、原料メーカーの取扱量が減少している。
	▲	金融業（経営者）	それ以外	・会員数の前年比がもう少し改善すると予測していたが、減少幅が徐々に大きくなっている。
	▲	金融業（営業）	取引先の様子	・中東情勢による原油価格の高騰等の影響が懸念されるが、現状ではまだ顕在化していない。物価高は長期的に影響し、景気は慢性的にやや悪い状況である。
	▲	金融業（営業担当）	取引先の様子	イラン情勢により、石油の供給が先行き不安定な状況が続いている。ガソリンだけでなく、様々な石油関連商品が値上げになっており、事業者の収益面に悪影響が出ている。
	▲	広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・当社の売上については前年比プラスになったものの、前月末比ではマイナスとなっている。イラン情勢により石油の供給不安から様々な物が値上がりし始め、先行きが読めないため3か月前と比べるとやや悪くなっている。
	▲	その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	取引先の様子	・市町村から福祉やまちづくりに関する調査や計画策定の業務を受託している。翌年度の業務について、例年3月中旬に事前に指名通知やプロポーザルの案内等が行われる。今年は、その件数が減少し新年度の受注の不安要素となっている。
	×	繊維工業（営業担当）	競争相手の様子	・同業者は借金をせず廃業をしていく企業が多くなり、最悪の状態である。
雇用	◎	—	—	—

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
関連 (九州)	○	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・3月に入り、求人数が2割弱増加している。定期的にスタッフリストのメール配信を行い、今月は既に2件の問合せがあった。派遣の注文と同時に、直接雇用の人材紹介を利用する企業もある。
	□	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・求人数は大きく変わらず、企業側の採用判断は慎重さが続いている。特に新規案件については、欠員補充や短期案件など即戦力を求める動きは堅調である。
	□	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・派遣業界では、企業側が採用に慎重である。新規登録者では先付け開始の希望者が多くなっているが、就業開始に至っておらず、目先の受注が埋まらない現象が続いている。
	□	新聞社〔求人広告〕 (社員)	それ以外	・物価は高止まりしており、購買意欲は横ばいである。
	□	新聞社〔求人広告〕 (担当者)	周辺企業の様子	・デジタル、AI関連のスタートアップ企業などは引き続き人手不足が続いているが、逆にAIやデジタルに置き換わるような仕事もあり、大手企業では人員整理が続いている。
	□	新聞社〔求人広告〕 (担当者)	それ以外	・春の歓送迎シーズンになり中心市街地の人出も多く、飲食店も混んでいる。インバウンドの姿も多く見掛けているため、ある程度景気の良い状況が続いている。
	□	職業安定所(職員)	求人数の動き	・医療や福祉では、大口求人者における事業再編や事業所廃止などから求人数の減少がみられている。その一方で、事業所では新たな人材確保が難しく、社員の定着を図るために働きやすい環境整備に力を入れているといった声も聞かれている。
	□	職業安定所(職員)	求人数の動き	・新規求人数は、前年比では2か月連続の増加であったが、今月は減少に転じており、雇用動向は引き続き不透明である。
	□	学校〔大学〕 (就職支援業務)	求人数の動き	・2027年卒業の学生を対象とした企業の採用活動が本格化する時期に入るが、一部の大手や準大手企業を除き、どの業種においても多くの企業が人材獲得に苦戦している。既に内々定を得ている学生もおり、前年度と比較すると早期選考は更に増えている。
	▲	—	—	—
×	—	—	—	

12. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (沖縄)	◎	家電量販店(営業担当)	販売量の動き	・3月13日よりおきなわ省エネ家電購入応援キャンペーンが始まり、対象商品のエアコン、冷蔵庫、テレビの販売量が増加している。
	◎	その他飲食店 〔ファーストフード〕(総務部)	来客数の動き	・学生の観光客が多く訪れており、売上、来客数共に増加している。
	◎	観光型ホテル (専務取締役)	来客数の動き	・スポーツ合宿など春先の団体来客数の動きは活発だった。その影響で、今年の実績値は前年比で好調に推移している。
	○	一般小売店〔土産〕(営業部長)	来客数の動き	・入域観光客が増加している。インバウンドも増えており、特に台湾からの観光客が多い。
	○	百貨店(経営担当)	来客数の動き	・バレンタインデーの返礼ギフト需要などで来店客が増加している。
	○	スーパー(企画担当)	販売量の動き	・3か月前と比較すると、物価高の影響による節約志向は残るものの、催事品は好調に推移した。3月のひな祭りや旧十六日祭りにおいても、高単価な重箱やオードブル、和菓子等が好調であった。
	○	スーパー(店舗管理)	単価の動き	・既存店の年度末需要とあいまって、103%以上の数字を維持している。国策である地域振興の対策も購買を押し上げている一因である。
	○	衣料品専門店(経営者)	来客数の動き	・気温の上昇で、暖かくなっているのが要因である。他にも、卒業旅行などの客が増加していることも要因の1つだとみている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	○	その他専門店 〔書籍〕（部長）	販売量の動き	・春休みシーズンで繁華街は多くの人であふれており、観光客も来店している。インバウンドも前年より微増している。
	○	一般レストラン （代表者）	来客数の動き	・歓送迎会での利用が多かった。
	○	観光型ホテル （企画担当）	販売量の動き	・12月のホテルの販売室数が前年比6%増加なのに対し、3月は前年比12%増加で、プラス幅が上昇している。
	○	通信会社（サービス担当）	販売量の動き	・今月の景気は3か月前と比べてやや良くなっている。3月は卒業や新生活の準備が重なる時期で、スマートフォンの需要が高まり、来客数、販売数共に増加している。
	○	観光名所（職員）	来客数の動き	・前月から今月にかけて、来客数が前年を超えている。
	○	住宅販売会社 （営業担当）	来客数の動き	・分譲住宅の問い合わせが増えている。
	□	商店街（代表者）	お客様の様子	・商店街では飲食店が多くなり、物品販売の景況は徐々に厳しさを増している。
	□	コンビニ（店長）	お客様の様子	・消費量が増加している様子は見受けられず、直近と比較しても変化はみられない。
	□	乗用車販売店 （営業担当）	販売量の動き	・中東情勢の不安から、ガソリン価格の高騰が続いており、車の購入意欲が低下しているとみられる。
	□	観光型ホテル （総支配人）	来客数の動き	・2月から5月にかけて予約が好調に推移している。
	□	旅行代理店（マネージャー）	単価の動き	・インバウンドが減少したことで、全面的なホテル料金の上昇が落ち着くとみられていたが、物価や石油価格の高騰により再び上昇傾向にある。
	□	住宅販売会社 （役員）	お客様の様子	・一般住宅等の売却査定依頼や内覧希望者数は、3か月前と変わらず堅調に推移している。一方で、投資対象としての軍用地等については、金利上昇への警戒感からか問い合わせが目に見えて減少しており、価格も下落傾向にある。
	▲	一般小売店 〔酒〕（店長）	お客様の様子	・原油価格の上昇による物価高騰で、飲食店は大きな打撃を受けている。
	▲	コンビニ（店長）	それ以外	・物価高騰により、利用する飲食店や日用品がそれぞれ値上げしている。
	▲	その他専門店 〔陶器〕（製造）	販売量の動き	・売上は減少していないが、客先で日本人の購入が減少している。
	▲	その他飲食店 〔バー〕（経営者）	来客数の動き	・3月前半は人の動きが見られたものの、後半はほとんど見られなかった。
	▲	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・3月の販売数は、前年比で1割減少となっている。中東情勢の影響で光熱費の価格が上昇した場合、更に販売数が落ち込むとみている。
	×	コンビニ（経営企画担当）	来客数の動き	・客が価格に対して慎重になっており、来客数が減少している。
企業 動向 関連 (沖縄)	◎	—	—	—
	○	食料品製造業 （役員）	受注量や販売量の動き	・観光関連の売上は好調に推移している。最低賃金引上げの影響により、一般消費者による食品の売上も増加しているとみている。
	○	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・大型工事の受注も含め、今月も受注状況は好調となっている。
	○	輸送業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・前年同月比で増収増益となっている。
	○	通信業（総務）	それ以外	・海外や県外からの観光需要は、引き続き拡大基調で推移している。
	□	窯業土石業（取締役）	受注量や販売量の動き	・見積依頼は全体で横ばいだが、民間工事の割合が若干増加している。
	▲	輸送業（経営企画室）	それ以外	・原油価格の高騰で、トラックの輸送費や物流業務で使用する資材が高騰しており、入手が困難になっている。
	▲	会計事務所（所長）	それ以外	・国際情勢による物価上昇や、為替安による輸入コスト増加などの傾向が当面続くとみている。
	×	*	*	*
雇用	◎	—	—	—

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
関連 (沖縄)	○	求人情報誌製作 会社（審査）	求人数の動き	・卒業シーズンによる欠員補充や、ゴールデンウィーク前の採用需要を背景に、サービス業の求人数は増加傾向にある。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・前年比で求人数は減少したが、求人側からの人手不足に関する相談は多くなっている。
	▲	人材派遣会社 （総務担当）	それ以外	・中東情勢によるガソリン価格の値上がりの影響で景気は悪化している。
	▲	学校〔専門学校〕 （就職担当）	求人数の動き	・企業と学生共に就職活動の動きが早まっているため、求人時期が前倒しされている。それに伴い、求人数は前年同期比で減少している。
	▲	学校〔大学〕 （就職支援担当）	それ以外	・燃料費の上昇によって、学生を含めて生活が圧迫されている。物価上昇は、今後も生活費を圧迫するとみている。
	×	—	—	—